

鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔介護予防・日常生活圏域ニーズ調査〕

令和5年3月
鈴鹿亀山地区広域連合

目次

I 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の方法.....	1
3 配布・回収数.....	1
4 報告書の見方(注意事項).....	1
II 調査結果	2
あなたのことについて.....	2
1 あなたのご家族や生活状況について.....	6
2 からだを動かすことについて.....	16
3 食べることについて.....	31
4 毎日の生活について.....	34
5 地域での活動について.....	46
6 あなたとまわりの人の「たすけあい」について.....	52
7 健康について.....	74
8 今後の介護や在宅医療について.....	91
9 認知症について.....	101
10 介護や保健福祉に関する相談について.....	108

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、令和6年度から実施する「第9期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2 調査の方法

- ①調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域
- ②調査対象者 鈴鹿亀山地区にお住まいの65歳以上の介護保険の被保険者で、介護保険の要介護認定（要介護1～5）を受けていない方
- ③調査期間 令和4年12月（調査基準日は令和4年11月15日）
- ④調査方法 調査票による本人記入方式、郵送配布・郵送回収による郵送調査

3 配布・回収数

有効配布数	回収数	回収率	白紙回答	有効回収数	有効回収率
2,000	1,281	64.1%	2	1,279	64.0%

4 報告書の見方(注意事項)

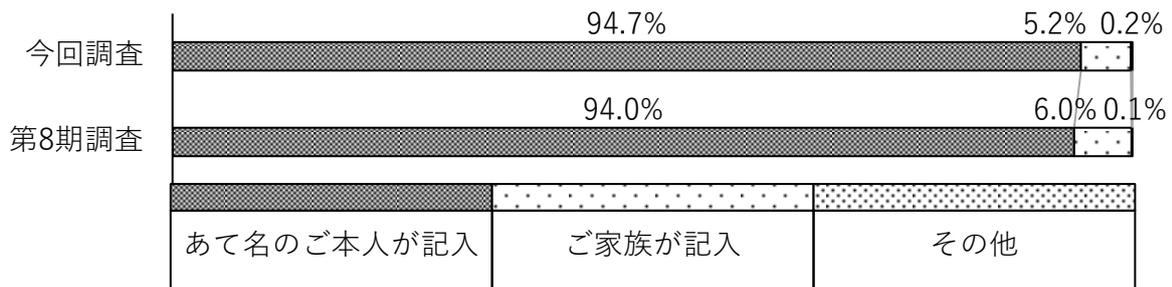
- ① グラフおよび表中のN数(number of case)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(N数)を分母として、小数点以下第2位を四捨五入して算出し、小数点以下第1位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(N数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が100%を超えることがあります。
- ④ 令和元年度に実施した前回調査(第8期介護保険事業計画の策定にかかる調査)において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第8期調査」と表示しています。
- ⑤ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
- ⑥ 参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。
- ⑦ 地区別クロス集計については、日常生活圏域である『鈴鹿第1』、『鈴鹿第2』、『鈴鹿第3』、『鈴鹿第4』、『鈴鹿第5』、『鈴鹿第6』、『鈴鹿第7』、『鈴鹿第8』、『亀山第1』、『亀山第2』の10区分での集計を行っています。
- ⑧ 性・年齢別クロス集計については、『65～74歳男性』『75～84歳男性』『85歳以上男性』『65～74歳女性』『75～84歳女性』『85歳以上女性』の6区分での集計を行っています。

II 調査結果

あなたのことについて

(1) 調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。【N=1,217、1,292(第8期調査)】

調査票の記入者については、「あて名のご本人が記入」が94.7%を占めています。「ご家族が記入」は5.2%、「その他」は0.2%となっています。



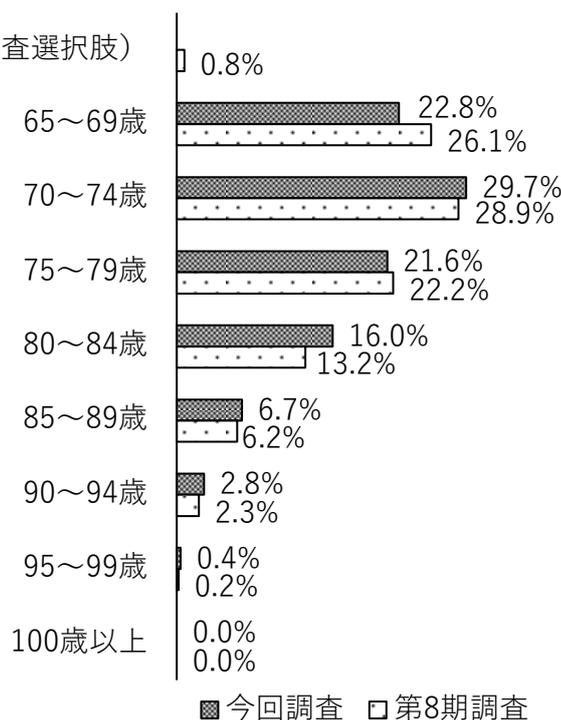
(2) 令和4年11月15日現在のあなたの年齢をお答えください。(1つを選択)

【N=1,257、1,351(第8期調査)】

年齢については、「70～74歳」が29.7%と最も高く、以下、「65～69歳」(22.8%)、「75～79歳」(21.6%)、「80～84歳」(16.0%)と続いています。

『65～74歳』が52.5%と過半数を占め、『75～84歳』は37.6%、『85歳以上』は9.9%となっています。

65歳未満 (※第8期調査選択肢)



(3) 性別をお答えください。(1つを選択)【N=1,232、1,321(第8期調査)】

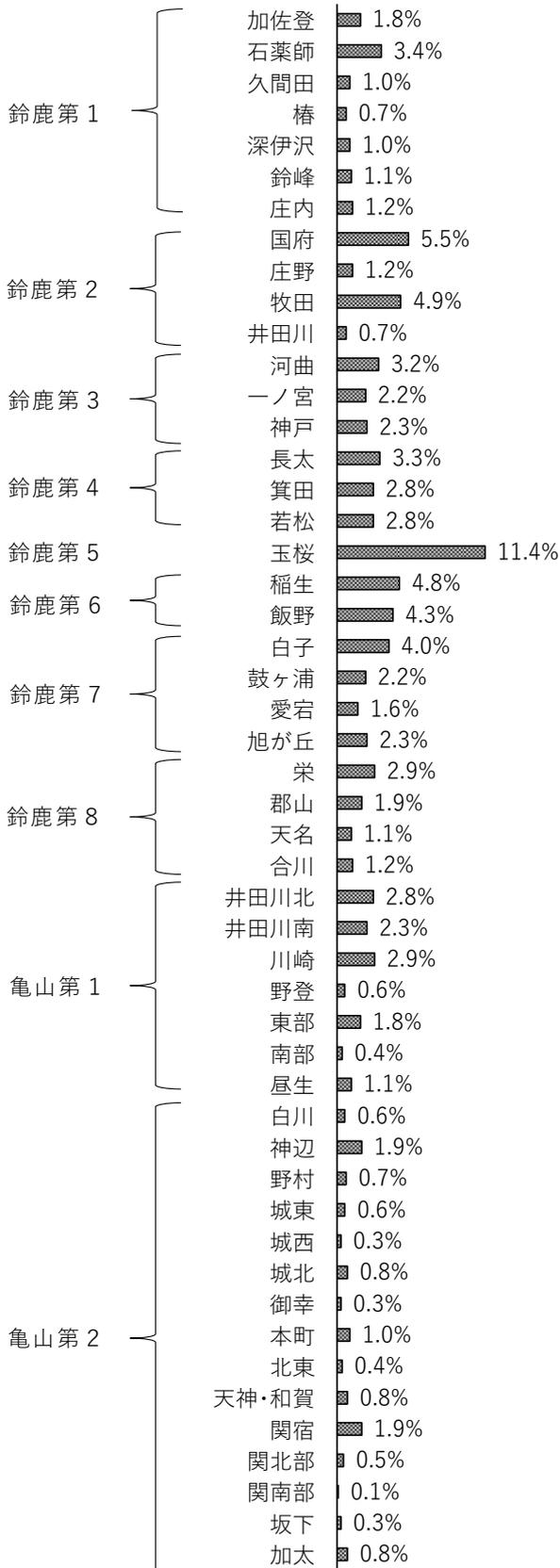
性別については、「男性」が48.3%、「女性」が51.7%と、「女性」が「男性」を3.4ポイント上回っています。



(4) 現在、どちらの地区にお住まいですか。わからない場合は町名を書いてください。

(1つを選択) 【N=1,235】

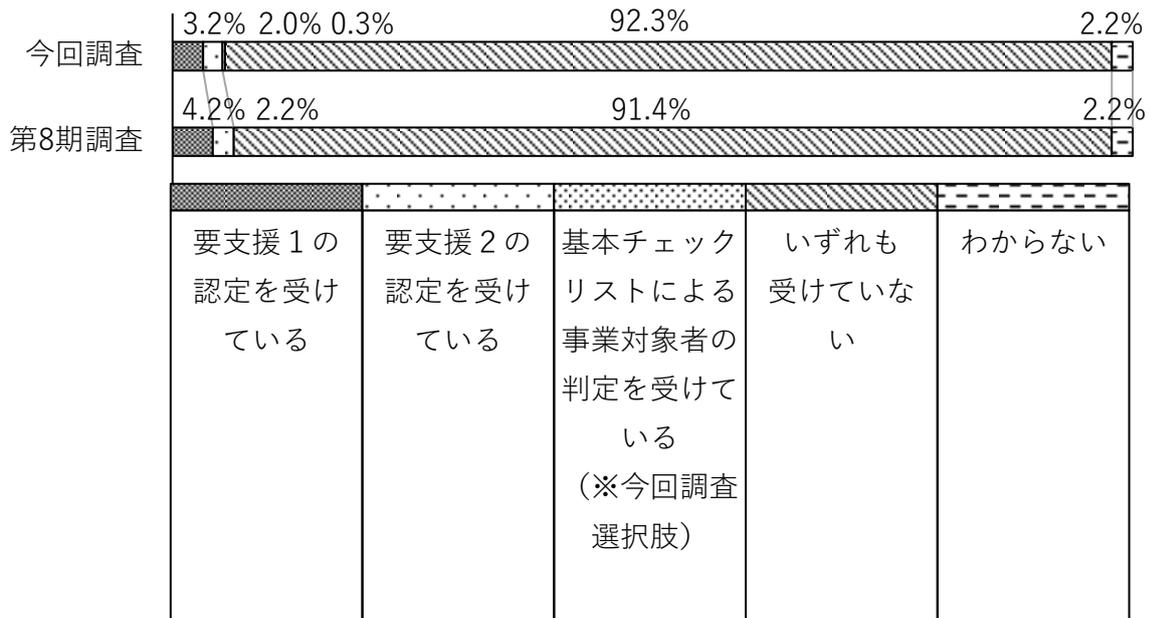
居住地区については、「玉桜」が11.4%と最も高く、次いで「国府」(5.5%)、「牧田」(4.9%)、「稻生」(4.8%)と続いています。



(5) 介護保険の要支援の認定を受けていますか。また、基本チェックリストによる介護予防・日常生活支援総合事業の対象者の判定を受けていますか。(1つを選択)

【N=1,230、1,295(第8期調査)】

介護保険の要介護認定については、「いずれも受けていない」が92.3%を占めており、「要支援1の認定を受けている」は3.2%、「要支援2の認定を受けている」は2.0%、「基本チェックリストによる事業対象者の判定を受けている」は0.3%となっています。

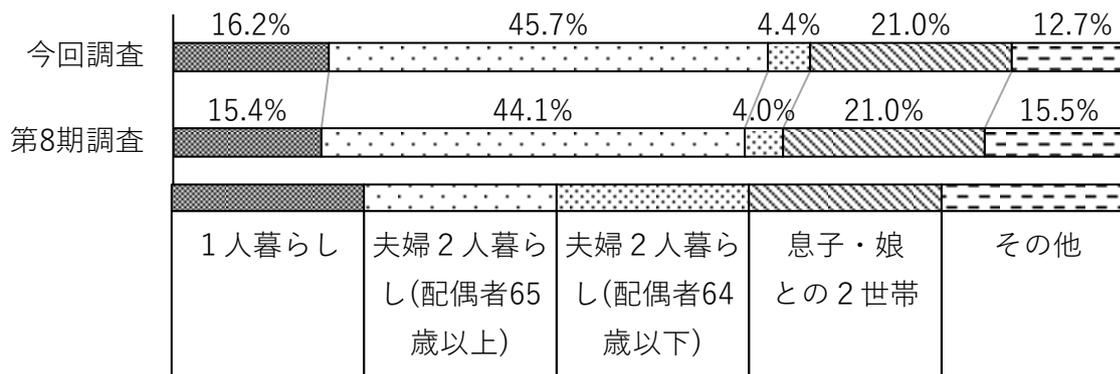


1 あなたのご家族や生活状況について

問1 家族構成をお教えてください。(1つを選択)【N=1,235、1,230(第8期調査)】

家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が45.7%、「息子・娘との2世帯」が21.0%、「1人暮らし」が16.2%、「その他」が12.7%となっています。

第8期調査と比較すると、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が1.6ポイント、「1人暮らし」が0.8ポイント上昇する一方、「その他」は2.8ポイント低下しています。



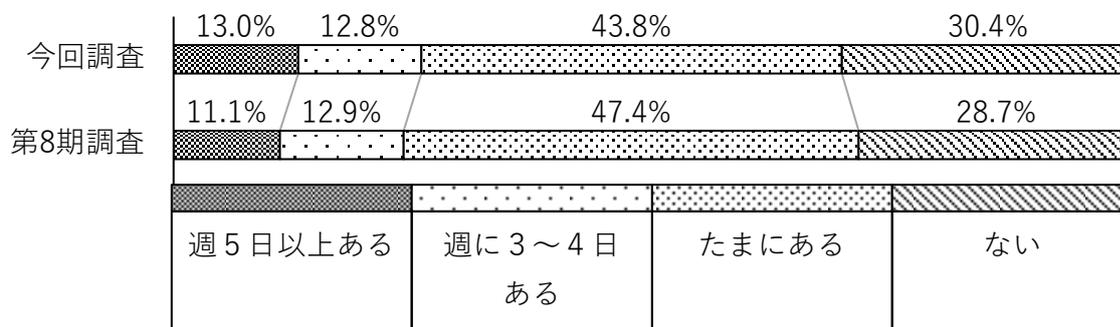
問1で「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」「息子・娘との2世帯」「その他」と回答した方にお伺いします。

問1-② あなたは、日中、一人になることがありますか。(1つを選択)

【N=1,008、1,022(第8期調査)】

日中、一人になることが『ある』人は合わせて69.6%となっています。

第8期調査と比較すると、『ある』人は1.8ポイント低下しています。

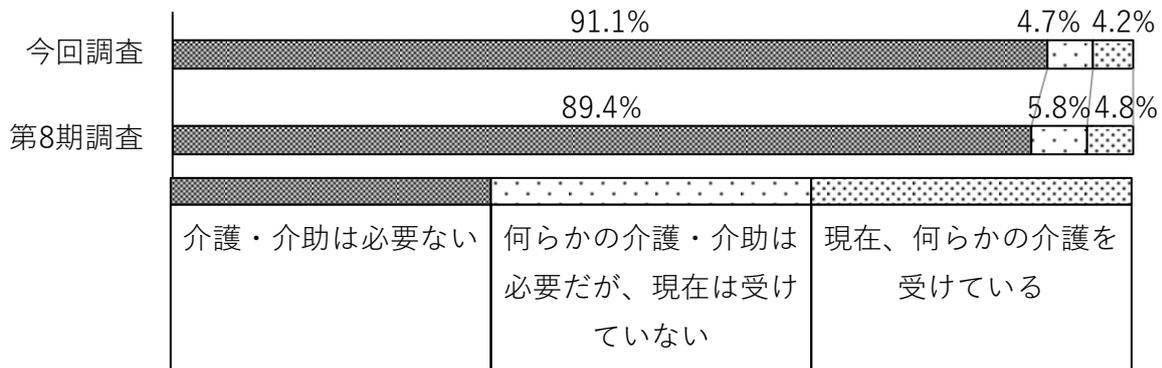


問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(1つを選択)

【N=1,228、1,302(第8期調査)】

普段の生活での介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が91.1%を占め、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が4.7%、「現在、何らかの介護を受けている」が4.2%となっています。

第8期調査と比較すると、「介護・介助は必要ない」が1.7ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男女とも年齢が下がるほど「介護・介助は必要ない」が高くなっています。一方、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」、「現在、何らかの介護を受けている」は、男女とも『85歳以上』で高くなっています。特に、『85歳以上女性』では「現在、何らかの介護を受けている」が23.7%と高くなっています。

		合計	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている
男性	全体	581	90.7	5.5	3.8
	65～74歳	314	96.5	1.3	2.2
	75～84歳	212	88.7	8.0	3.3
	85歳以上	55	65.5	20.0	14.5
女性	全体	617	91.7	3.9	4.4
	65～74歳	322	96.3	2.2	1.6
	75～84歳	236	91.9	4.7	3.4
	85歳以上	59	66.1	10.2	23.7

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「介護・介助は必要ない」が高くなっています。
 なお、世帯類型による大きな差は見られません。

	合計	な介 い護 ・ 介 助 は 必 要	在助何 ははら ははか 受は必 け受か て要 だの いが介 ない護 い現・ 介	護現 を在 受、 け何 てら いか の介
全体	1205	91.2	4.7	4.1
1人暮らし	189	88.4	5.8	5.8
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	556	92.6	5.4	2.0
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	53	94.3	-	5.7
息子・娘との 2世帯	253	89.3	5.1	5.5
その他	154	91.6	1.9	6.5

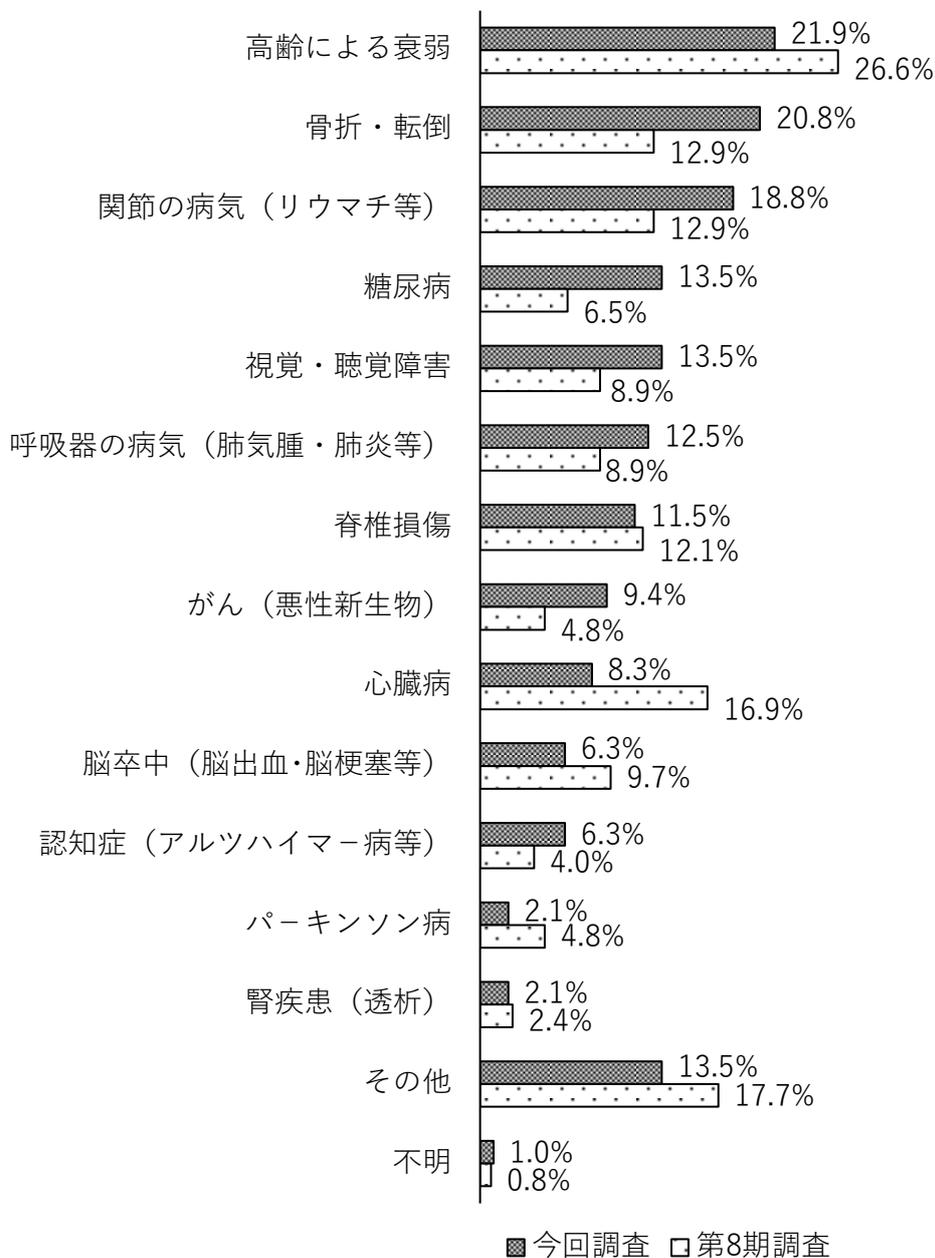
問2で「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」または「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします。

問2-② 介護・介助が必要になった主な原因はなんですか。(複数選択可)

【N=96、124(第8期調査)】

介護・介助が必要になった主な原因については、「高齢による衰弱」が21.9%と最も高く、次いで「骨折・転倒」(20.8%)、「関節の病気」(18.8%)、「糖尿病」「視覚・聴覚障害」(13.5%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「骨折・転倒」が7.9ポイント、「糖尿病」が7.0ポイント、「関節の病気」が5.9ポイント上昇する一方、「心臓病」が8.6ポイント、「高齢による衰弱」が4.7ポイント低下しています。

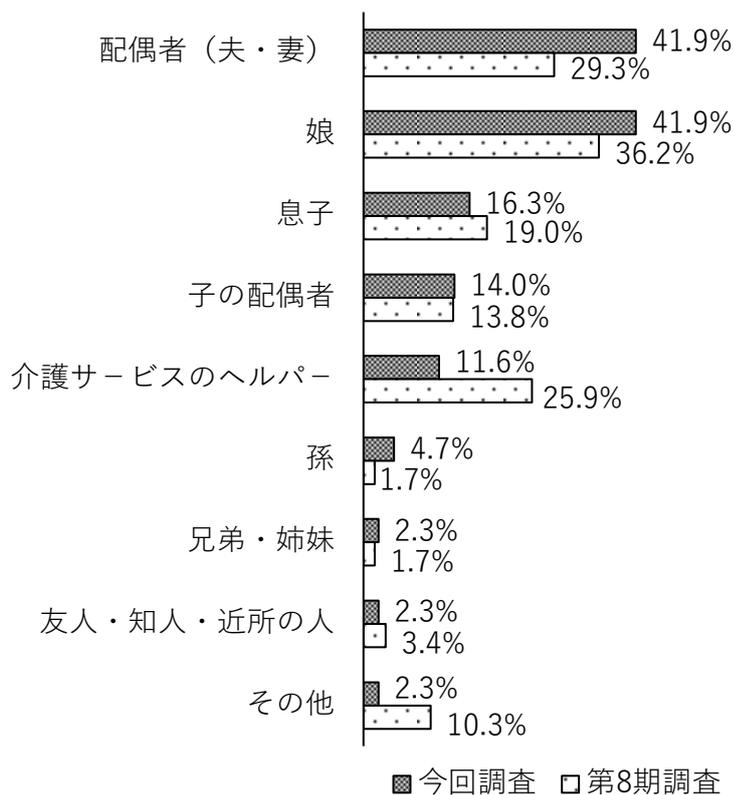


問2で「現在、何らかの介護を受けている」と回答した方にお伺いします。

問2-③ 主にどなたの介護、介助を受けていますか。(複数選択可)【N=43、58(第8期調査)】

主な介護者については、「配偶者(夫・妻)」「娘」が41.9%と同率で最も高く、次いで「息子」(16.3%)、「子の配偶者」(14.0%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「配偶者(夫・妻)」が12.6ポイント、「娘」が5.7ポイント上昇する一方、「介護サービスのヘルパー」が14.3ポイント低下しています。



問3 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(1つを選択)

【N=1,252、1,337(第8期調査)】

現在の暮らしの経済的状況については、「ふつう」が59.9%を占めています。一方、「大変苦しい」(7.3%)、「やや苦しい」(22.1%)と回答した『苦しいと感じている人』は29.4%となっています。一方、「大変ゆとりがある」(1.4%)、「ややゆとりがある」(9.3%)と回答した『ゆとりがあると感じている人』は10.7%となっています。

第8期調査と比較すると、『ゆとりがあると感じている人』が4.3ポイント上昇しています。

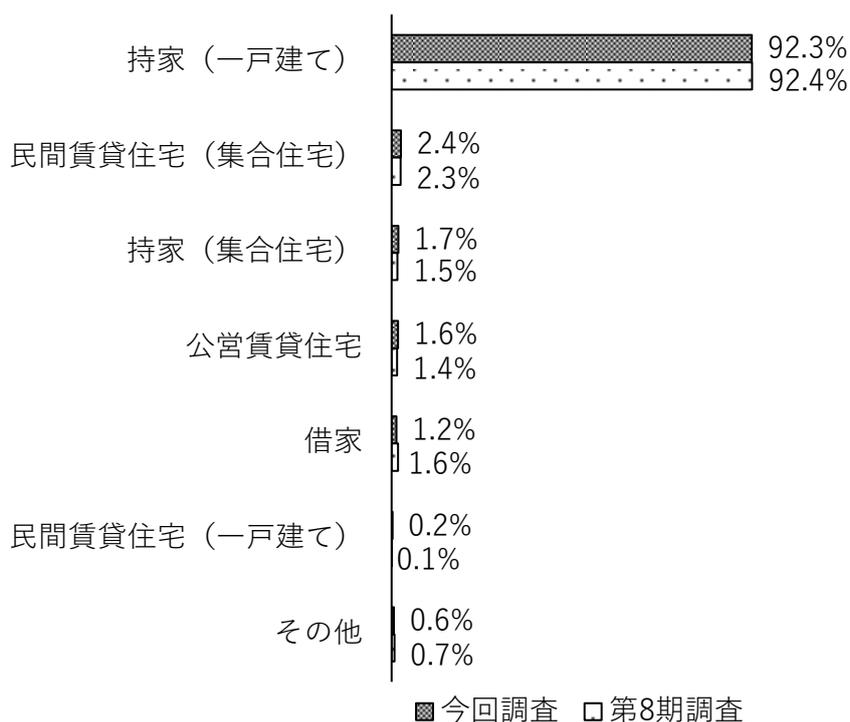


問4 お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか。(1つを選択)

【N=1,256、1,365(第8期調査)】

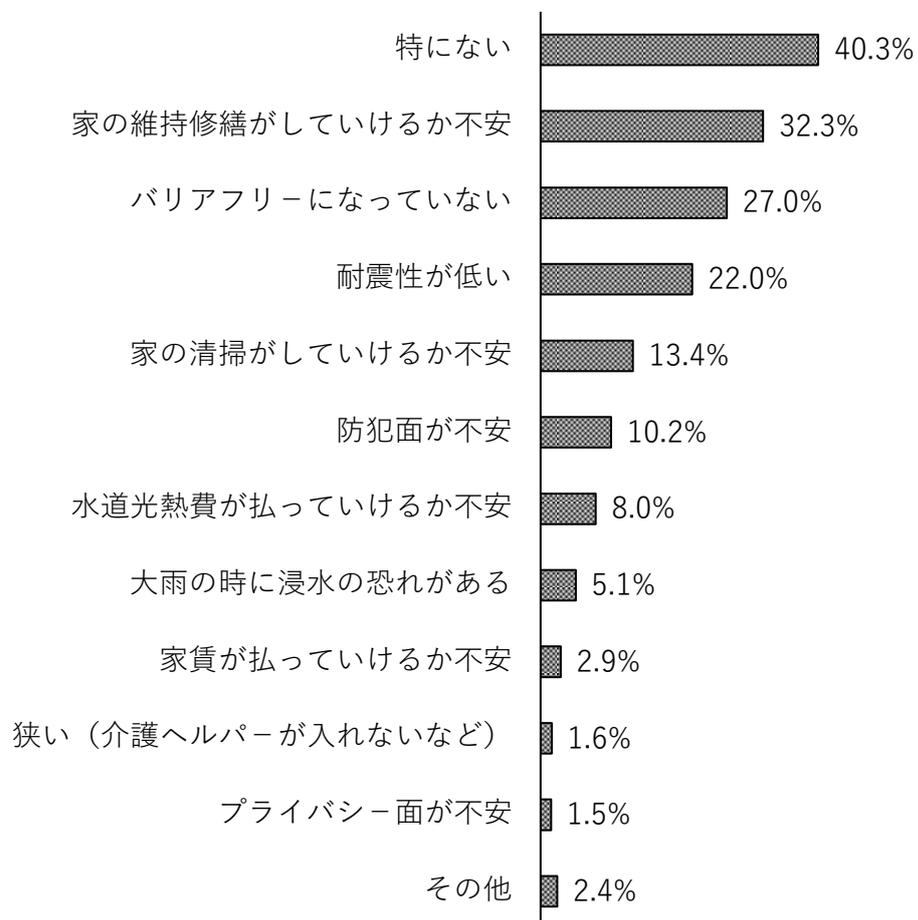
住まいについては、「持家(一戸建て)」が92.3%を占め、「民間賃貸住宅(集合住宅)」が2.4%、「持家(集合住宅)」が1.7%、「公営賃貸住宅」が1.6%などとなっています。

第8期調査と比較すると、ほとんど変化はみられません。



問5 現在のお住まいに対し、今後に向けて不安がありますか。(複数選択可)【N=1,243】

現在の住まいに対する今後に向けての不安については、「特にない」が40.3%と最も高くなっています。不安に思うこととしては、「家の維持修繕がしていけるか不安」が32.3%と最も高く、次いで「バリアフリーになっていない」(27.0%)、「耐震性が低い」(22.0%)と続いています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「特にない」が最も高くなっています。不安に思うこととしては、いずれの性・年齢でも「家の維持修繕がしていけるか不安」が高くなっており、『85歳以上女性』では「耐震性が低い」も高くなっています。

		合計	特にない	家が賃が不安 払っていき	水道光熱費が 払って	家の維持修繕が し	家の清掃が してい	部屋の掃除が してい	部屋の掃除が してい	部屋の掃除が してい	部屋の掃除が してい	部屋の掃除が してい
男性	全体	581	40.6	3.4	8.4	34.8	11.0	27.2	1.2	1.4		
	65～74歳	316	39.2	4.1	9.5	36.7	9.5	26.3	0.6	2.2		
	75～84歳	209	41.1	3.3	8.6	34.4	12.9	30.1	1.9	0.5		
	85歳以上	56	46.4	-	1.8	25.0	12.5	21.4	1.8	-		
女性	全体	617	40.0	2.1	7.6	30.5	15.9	27.6	1.8	1.1		
	65～74歳	320	37.2	2.8	10.3	35.3	11.6	32.2	2.2	1.3		
	75～84歳	236	40.7	1.7	5.5	26.3	20.8	24.2	0.8	1.3		
	85歳以上	61	52.5	-	1.6	21.3	19.7	16.4	3.3	-		
			防犯面が不安	耐震性が低い	大雨の時に浸水の恐れがある	その他						
男性	全体	8.6	22.5	5.5	1.5							
	65～74歳	8.5	23.4	5.1	0.6							
	75～84歳	9.6	23.0	6.2	2.9							
	85歳以上	5.4	16.1	5.4	1.8							
女性	全体	12.0	22.0	5.0	2.9							
	65～74歳	12.5	25.3	4.4	2.8							
	75～84歳	11.0	17.8	5.5	3.4							
	85歳以上	13.1	21.3	6.6	1.6							

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「特にない」が最も高くなっています。不安に思うこととしては、いずれの世帯類型でも「家の維持修繕がしていけるか不安」が高くなっており、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「バリアフリーになっていない」も高くなっています。

	合計	特にない	家が賃が払っていき不安	水道光熱費が払っていき不安	家の維持修繕がしにくい	家の清掃ができていない	バリアフリーになっていない	狭い(介護ヘルパどが入れない)	プライバシー面が不安
全体	1203	40.0	2.8	8.1	32.5	13.5	27.3	1.7	1.4
1人暮らし	196	39.8	9.2	9.7	27.6	13.3	15.8	0.5	1.5
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	553	37.6	2.2	8.3	33.6	13.4	33.5	2.0	1.6
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	53	47.2	-	9.4	30.2	9.4	30.2	1.9	1.9
息子・娘との 2世帯	253	45.1	0.8	7.5	32.4	12.6	22.5	1.6	1.2
その他	148	37.8	1.4	6.1	35.8	16.9	26.4	2.0	0.7

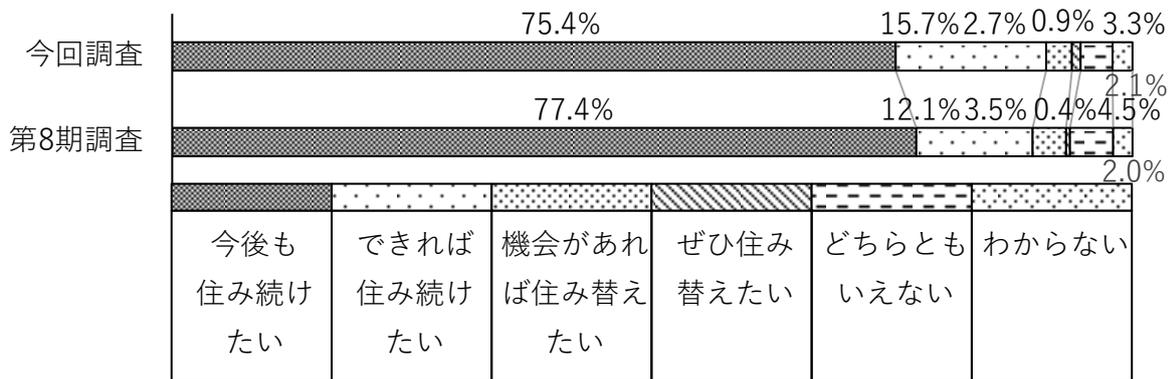
	防犯面が不安	耐震性が低い	大雨の時に浸水の恐れがある	その他
全体	10.5	22.3	5.3	2.4
1人暮らし	17.3	19.9	4.6	2.6
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	11.8	25.1	6.1	2.4
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	7.5	24.5	3.8	-
息子・娘との 2世帯	5.5	18.6	5.1	1.2
その他	6.1	20.3	4.1	5.4

問6 現在のお住まいにこれからも住み続けたいと思いますか。(1つを選択)

【N=1,250、1,338(第8期調査)】

現在の住まいにこれからも住み続けたいかどうかについては、「今後も住み続けたい」が75.4%を占めています。一方、「機会があれば住み替えたい」は2.7%、「ぜひ住み替えたい」は0.9%と僅かとなっています。

第8期調査と比較すると、「できれば住み続けたい」が3.6ポイント上昇しています。



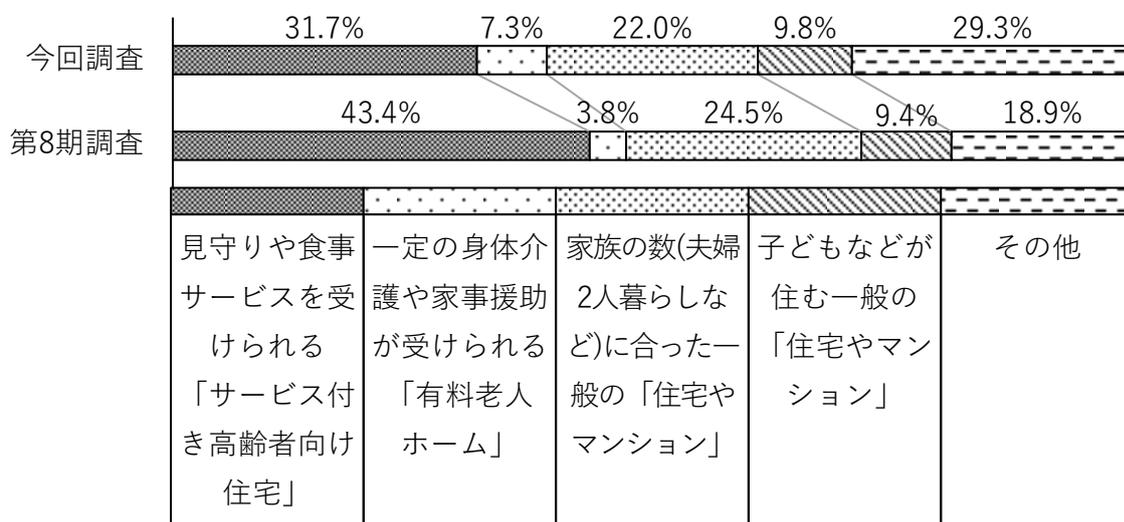
問6で「機会があれば住み替えたい」または「ぜひ住み替えたい」と回答した方にお伺いします。

問6-② 具体的にどのような種類の住宅に住み替えたいですか。(1つを選択)

【N=41、53(第8期調査)】

どのような種類の住宅に住み替えたいかについては、「見守りや食事サービスを受けられる「サービス付き高齢者向け住宅」」が31.7%と最も高く、次いで「その他」(29.3%)、「家族の数(夫婦2人暮らしなど)に合った一般の「住宅やマンション」」(22.0%)、「子どもなどが住む一般の「住宅やマンション」」(9.8%)と続いています。なお、「その他」の主な意見としては、「公営住宅」や「シニア向け、平屋、バリアフリーの家」などの回答がありました。

第8期調査と比較すると、「見守りや食事サービスを受けられる「サービス付き高齢者向け住宅」」が11.7ポイント低下する一方、「その他」は10.4ポイント、「一定の身体介護や家事援助が受けられる「有料老人ホーム」」は3.5ポイント上昇しています。



2 からだを動かすことについて

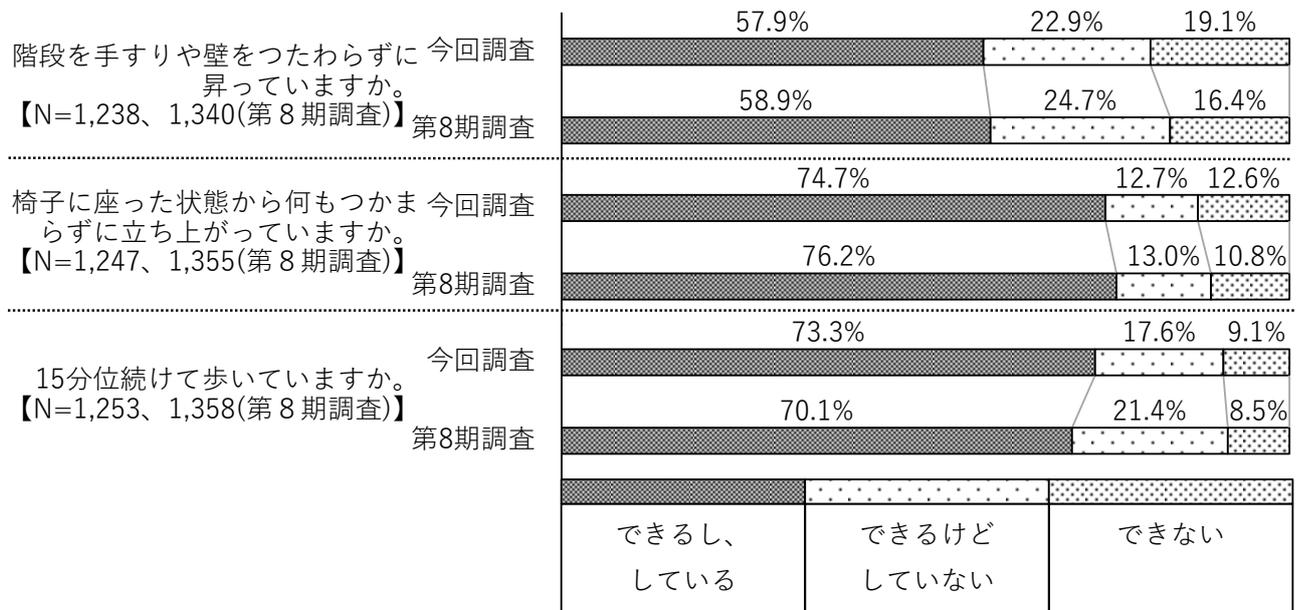
問7 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つを選択)

問8 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(1つを選択)

問9 15分位続けて歩いていますか。(1つを選択)

からだを動かすことについては、階段を手すりや壁をつたわずに昇ることが「できない」と回答した人が19.1%と、他の項目に比べて高くなっています。一方、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がることや、15分位続けて歩くことについて、「できるし、している」と回答した人は70%以上を占めています。

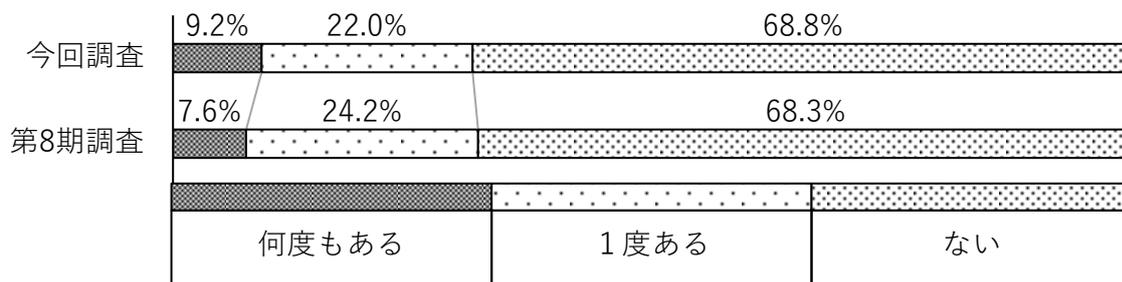
第8期調査と比較すると、いずれの項目についても「できない」と回答した人が増加しています。階段を手すりや壁をつたわずに昇ることが「できない」と回答した人は2.7ポイント、椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がるのが「できない」と回答した人は1.8ポイント上昇しています。



問10 過去1年間に転んだ経験がありますか。(1つを選択) 【N=1,256、1,362(第8期調査)】

転んだ経験については、「ない」と回答した人が68.8%を占めています。「何度もある」は9.2%、「1度ある」は22.0%となっています。

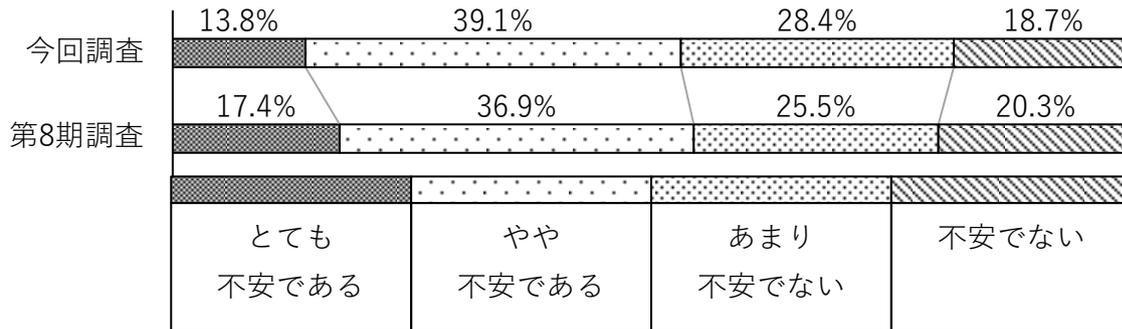
第8期調査と比較すると、「何度もある」と回答した人が1.6ポイント上昇しています。



問11 転倒に対する不安は大きいですか。(1つを選択)【N=1,258、1,358(第8期調査)】

転倒に対する不安については、「とても不安である」(13.8%)と「やや不安である」(39.1%)を合わせた『不安である』は52.9%と過半数を占めています。一方、「あまり不安でない」(28.4%)と「不安でない」(18.7%)を合わせた『不安でない』は47.1%となっており、転倒の経験は今現在少ないものの、転倒への不安をある程度持っていることがうかがえます。

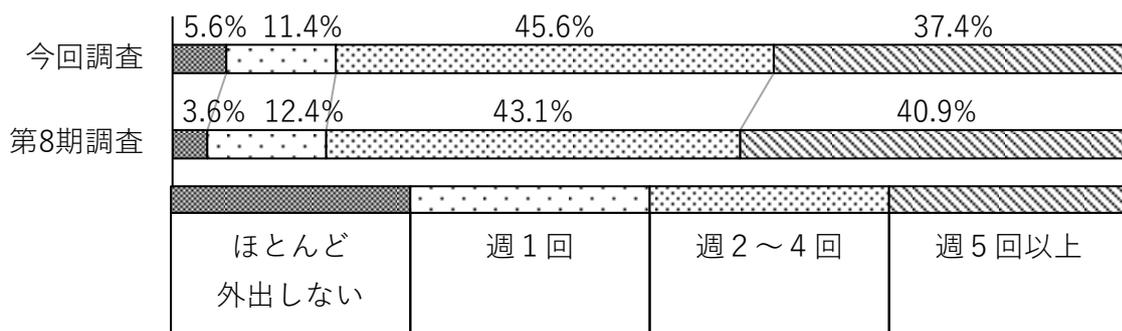
第8期調査と比較すると、「あまり不安でない」と「不安でない」を合わせた『不安でない』が1.3ポイント上昇しています。



問12 週に1回以上は外出していますか。(1つを選択)【N=1,259、1,362(第8期調査)】

外出については、「ほとんど外出しない」と回答した人は5.6%と少なく、『週1回以上外出する人』は94.4%を占めています。

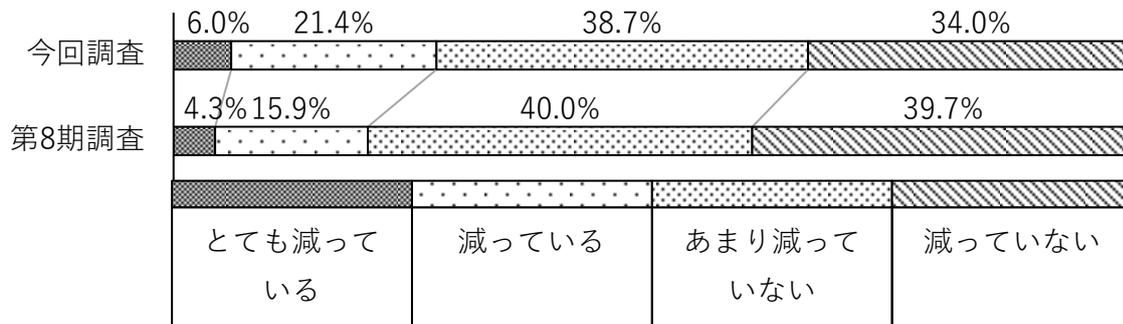
第8期調査と比較すると、「ほとんど外出しない」と回答した人が2.0ポイント上昇しています。



問13 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(1つを選択)【N=1,257、1,357(第8期調査)】

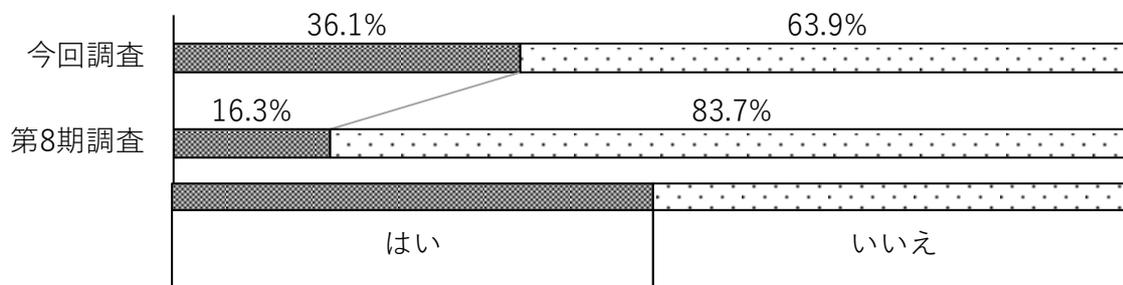
昨年と比べて外出の回数については、「あまり減っていない」(38.7%)と「減っていない」(34.0%)を合わせた外出機会が『減っていない人』が72.7%を占めています。一方、「とても減っている」(6.0%)と「減っている」(21.4%)を合わせた外出機会が『減っている人』は27.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「とても減っている」と「減っている」を合わせた外出機会が『減っている人』が7.2ポイント上昇しています。



問14 外出を控えていますか。(1つを選択)【N=1,243、1,332(第8期調査)】

外出を控えているかについては、「はい」が36.1%、「いいえ」が63.9%となっています。第8期調査と比較すると、「はい」が19.8ポイント上昇しています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、『要支援1』では外出を控えている人(「はい」と回答)は63.2%、『要支援2』では60.9%と高くなっています。

	合計	はい	いいえ
全体	1198	35.8	64.2
要支援1	38	63.2	36.8
要支援2	23	60.9	39.1
事業対象者	4	50.0	50.0
受けていない	1106	33.8	66.2
わからない	27	55.6	44.4

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第4』では外出を控えている人(「はい」と回答)が40.8%と、他の日常生活圏域に比べてやや高くなっています。

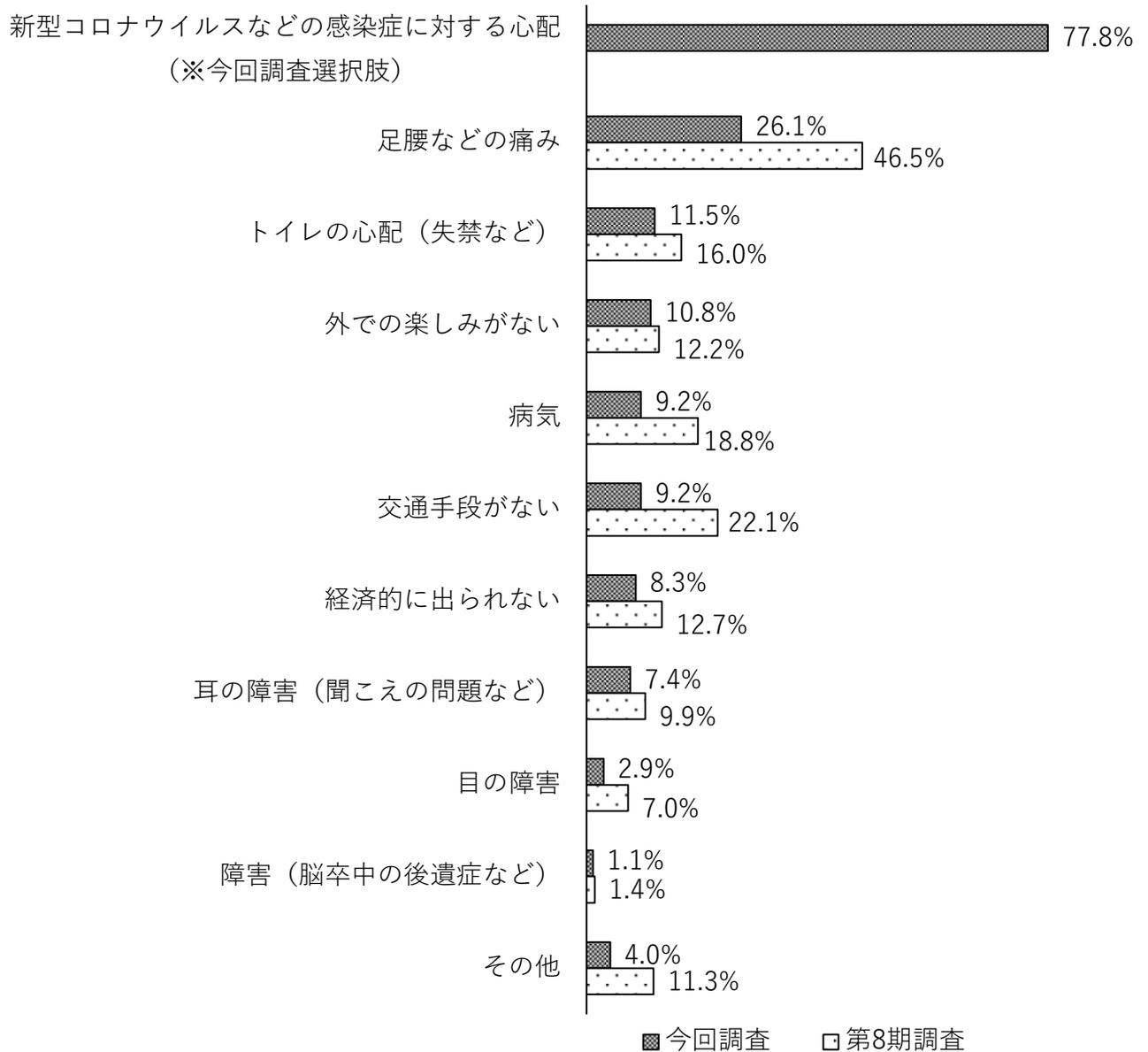
	合計	はい	いいえ
全体	1203	35.7	64.3
鈴鹿第1	124	37.9	62.1
鈴鹿第2	151	34.4	65.6
鈴鹿第3	96	32.3	67.7
鈴鹿第4	103	40.8	59.2
鈴鹿第5	136	38.2	61.8
鈴鹿第6	109	30.3	69.7
鈴鹿第7	123	36.6	63.4
鈴鹿第8	81	39.5	60.5
亀山第1	146	33.6	66.4
亀山第2	134	35.1	64.9

問14で「はい」と回答した方にお伺いします。

問14-② 外出を控えている理由は、次のどれですか。(複数選択可)

【N=445、213(第8期調査)】

外出を控えている理由については、「新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配」が77.8%と突出して高く、次いで「足腰などの痛み」(26.1%)が続いています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、『要支援1』『わからない』では「足腰などの痛み」が、『要支援2』『受けていない』では「新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配」が最も高くなっています。『事業対象者』では「交通手段がない」「新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配」「その他」に回答が分散しています。

	合計	病 気	障 害 (脳 卒 中 の 後 遺 症 な ど)	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 (失 禁 な ど)	耳 の 障 害 (聞 こ え の 問 題 な ど)	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い
全体	426	8.7	1.2	25.6	10.6	7.3	2.8	11.3	8.7	8.9
要支援1	24	20.8	-	62.5	25.0	8.3	-	20.8	-	25.0
要支援2	14	35.7	7.1	50.0	21.4	21.4	14.3	7.1	-	14.3
事業対象者	2	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0
受けていない	371	6.7	1.1	21.8	8.6	5.7	2.4	10.5	9.4	7.0
わからない	15	13.3	-	40.0	26.7	33.3	6.7	20.0	13.3	20.0

	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス に 対 す る 心 配	そ の 他
全体	79.6	4.0
要支援1	50.0	8.3
要支援2	64.3	14.3
事業対象者	50.0	50.0
受けていない	84.1	3.2
わからない	33.3	-

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「新型コロナウイルスなどの感染症に対する心配」が最も高く、「足腰などの痛み」が続いています。『鈴鹿第6』では「外での楽しみがない」が21.9%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

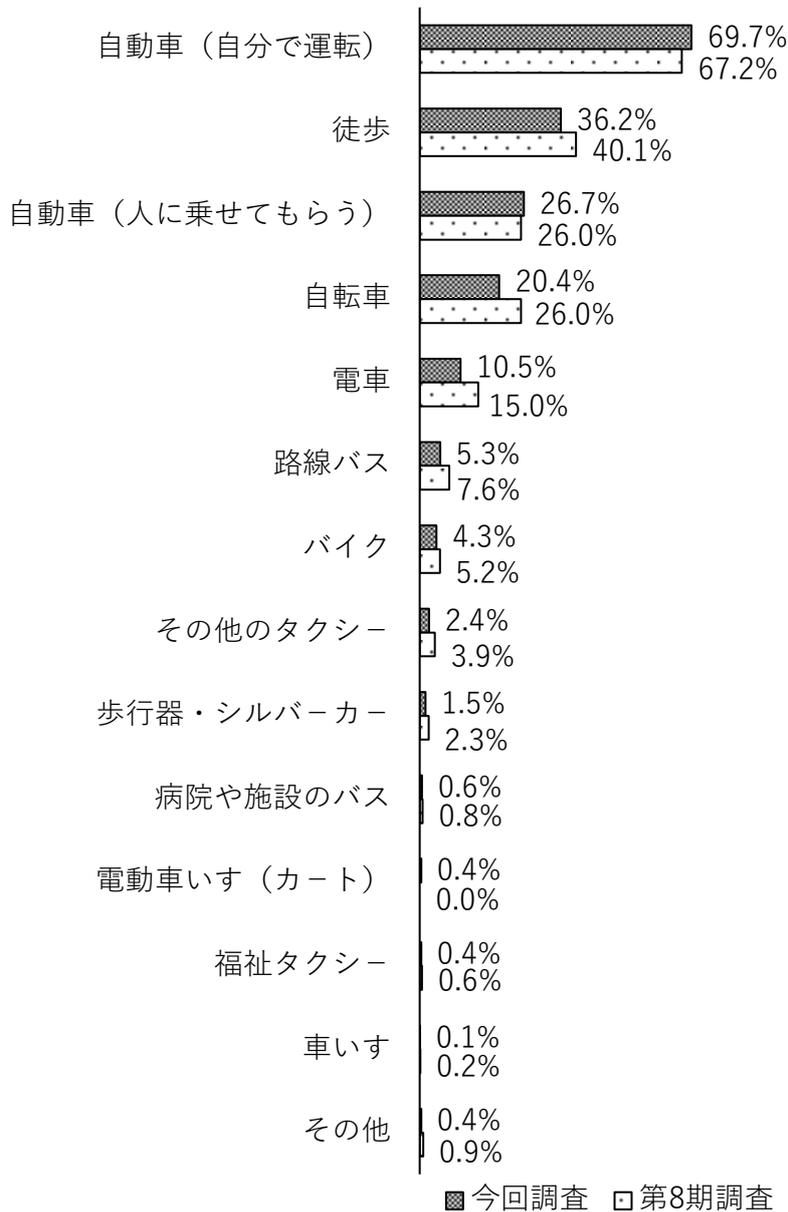
	合計	病 気	障 害 （ 脳 卒 中 の 後 遺 症 な ど ）	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 （ 失 禁 な ど ）	耳 の 障 害 （ 聞 こ え の 問 題 な ど ）	目 の 障 害	外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い
全体	426	7.7	1.2	25.8	11.5	7.5	2.8	10.8	8.7	9.2
鈴鹿第1	47	4.3	2.1	27.7	12.8	8.5	4.3	12.8	12.8	12.8
鈴鹿第2	50	14.0	4.0	24.0	18.0	8.0	4.0	12.0	4.0	6.0
鈴鹿第3	31	6.5	-	25.8	16.1	12.9	3.2	6.5	6.5	6.5
鈴鹿第4	41	9.8	-	24.4	4.9	7.3	-	9.8	7.3	9.8
鈴鹿第5	52	3.8	1.9	21.2	5.8	-	1.9	11.5	11.5	7.7
鈴鹿第6	32	3.1	3.1	28.1	9.4	12.5	-	21.9	9.4	6.3
鈴鹿第7	45	11.1	-	26.7	8.9	8.9	-	6.7	13.3	13.3
鈴鹿第8	32	12.5	-	34.4	12.5	9.4	9.4	3.1	9.4	3.1
亀山第1	49	8.2	-	22.4	18.4	4.1	2.0	10.2	10.2	14.3
亀山第2	47	4.3	-	27.7	8.5	8.5	4.3	12.8	2.1	8.5

	新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス に 対 す る 心 配	そ の 他
全体	78.2	4.2
鈴鹿第1	78.7	-
鈴鹿第2	76.0	6.0
鈴鹿第3	74.2	3.2
鈴鹿第4	78.0	9.8
鈴鹿第5	82.7	1.9
鈴鹿第6	68.8	3.1
鈴鹿第7	84.4	4.4
鈴鹿第8	84.4	3.1
亀山第1	75.5	6.1
亀山第2	76.6	4.3

問15 外出する際の移動手段は何ですか。(複数選択可) 【N=1,272、1,364(第8期調査)】

外出する際の移動手段については、「自動車(自分で運転)」が69.7%と最も高く、次いで「徒歩」(36.2%)、「自動車(人に乗せてもらう)」(26.7%)、「自転車」(20.4%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「自動車(自分で運転)」が2.5ポイント上昇する一方、「自転車」は5.6ポイント、「電車」は4.5ポイント、「徒歩」は3.9ポイント低下しています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、『要支援1』『要支援2』では「自動車（人に乗せてもらう）」が、『受けていない』『わからない』では「自動車（自分で運転）」が最も高くなっています。次いで『要支援2』『受けていない』『わからない』では「徒歩」が、『要支援1』では「自動車（自分で運転）」が続いています。また、『事業対象者』では「徒歩」と「自動車（人に乗せてもらう）」が同率で高くなっています。

	合計	徒歩	自転車	バイク	自動車 （自分で 運転）	自動車 （人に 乗 せて もら う）	電車	路線 バス	病院 や 施設 の バ ス	車 い す
全体	1224	36.4	20.0	4.3	70.2	26.9	10.8	5.5	0.7	0.1
要支援1	39	25.6	10.3	-	30.8	48.7	5.1	7.7	-	-
要支援2	25	20.0	-	-	8.0	64.0	-	8.0	4.0	4.0
事業対象者	4	75.0	50.0	-	-	75.0	-	-	-	-
受けていない	1130	37.0	20.9	4.6	73.6	25.1	11.4	5.3	0.6	-
わからない	26	34.6	11.5	3.8	50.0	26.9	3.8	7.7	-	-

	電動 車 い す （ カ ト）	歩 行 器 ・ シ ル バ	福 祉 タ ク シ	そ の 他 の タ ク シ	そ の 他
全体	0.4	1.5	0.4	2.5	0.3
要支援1	5.1	7.7	5.1	12.8	-
要支援2	8.0	12.0	4.0	12.0	4.0
事業対象者	-	-	-	-	-
受けていない	0.1	1.1	0.2	1.8	0.3
わからない	-	-	-	7.7	-

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「自動車（自分で運転）」が最も高くなっています。次いで『鈴鹿第1』では「自動車（人に乗せてもらう）」が、その他の日常生活圏域では「徒歩」が続いています。また、『鈴鹿第3』『鈴鹿第4』『鈴鹿第7』『鈴鹿第8』では「電車」が他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	徒歩	自転車	バイク	自動車（自分で運転）	自動車（人に乗せてもらう）	電車	路線バス	病院や施設のバス	車いす
全体	1229	36.5	20.4	4.3	69.9	26.8	10.7	5.3	0.7	0.1
鈴鹿第1	125	24.8	10.4	2.4	75.2	26.4	1.6	3.2	-	-
鈴鹿第2	153	30.7	18.3	7.8	68.6	28.8	7.8	5.9	0.7	-
鈴鹿第3	95	44.2	28.4	5.3	63.2	27.4	17.9	5.3	-	-
鈴鹿第4	109	37.6	29.4	1.8	69.7	24.8	18.3	0.9	-	0.9
鈴鹿第5	138	39.1	26.8	5.8	65.9	29.7	13.8	6.5	1.4	-
鈴鹿第6	112	40.2	21.4	6.3	73.2	19.6	8.0	5.4	0.9	-
鈴鹿第7	124	45.2	33.9	4.8	55.6	32.3	18.5	7.3	1.6	-
鈴鹿第8	88	44.3	26.1	2.3	78.4	23.9	19.3	8.0	2.3	-
亀山第1	148	33.1	9.5	4.1	80.4	25.7	3.4	2.0	-	-
亀山第2	137	32.8	8.0	1.5	68.6	27.0	5.1	8.8	-	-

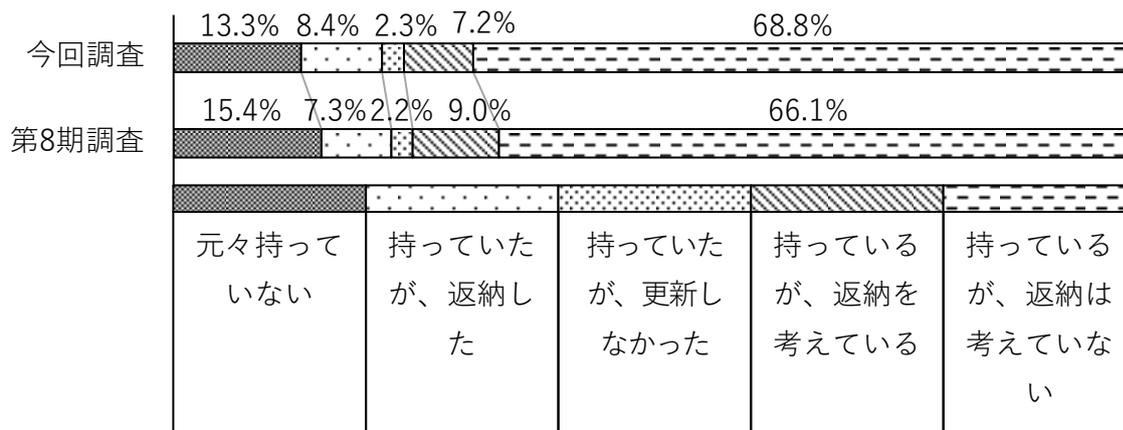
	自動車いす（カト）	歩行器・シルバ	福祉タクシー	その他のタクシー	その他
全体	0.4	1.5	0.4	2.5	0.4
鈴鹿第1	0.8	3.2	-	0.8	-
鈴鹿第2	1.3	0.7	1.3	2.6	-
鈴鹿第3	-	2.1	1.1	1.1	-
鈴鹿第4	0.9	1.8	-	-	-
鈴鹿第5	-	0.7	-	1.4	0.7
鈴鹿第6	0.9	1.8	-	3.6	0.9
鈴鹿第7	-	0.8	-	1.6	0.8
鈴鹿第8	-	-	-	3.4	-
亀山第1	-	1.4	1.4	3.4	0.7
亀山第2	-	2.2	-	6.6	0.7

問16 運転免許証をお持ちですか。また、免許証の返納はお考えですか。(1つを選択)

【N=1,264、1,343(第8期調査)】

運転免許証の有無と返納に対する考え方については、「持っているが、返納は考えていない」が68.8%と最も高く、次いで「元々持っていない」が13.3%、「持っていたが返納した」が8.4%、「持っているが、返納を考えている」が7.2%などとなっています。

第8期調査と比較すると、「持っているが、返納は考えていない」が2.7ポイント上昇する一方、「持っているが、返納を考えている」は1.8ポイント低下しています。



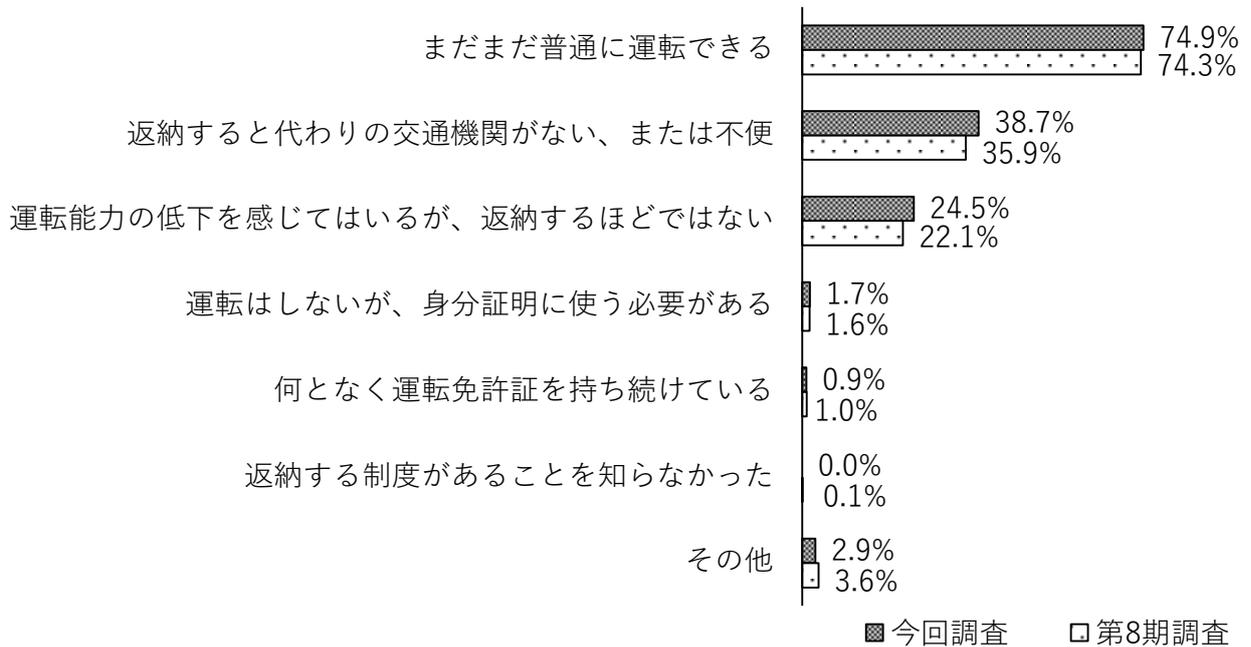
問16で「持っているが、返納は考えていない」と回答した方におうかがいします。

問16-② 運転免許証の返納を考えていない理由は何ですか。(複数選択可)

【N=861、881(第8期調査)】

運転免許証の返納を考えていない理由については、「まだまだ普通に運転できる」が74.9%と突出して高く、次いで「返納すると代替りの交通機関がない、または不便」(38.7%)、「運転能力の低下を感じてはいるが、返納するほどではない」(24.5%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「返納すると代替りの交通機関がない、または不便」が2.8ポイント、「運転能力の低下を感じてはいるが、返納するほどではない」が2.4ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

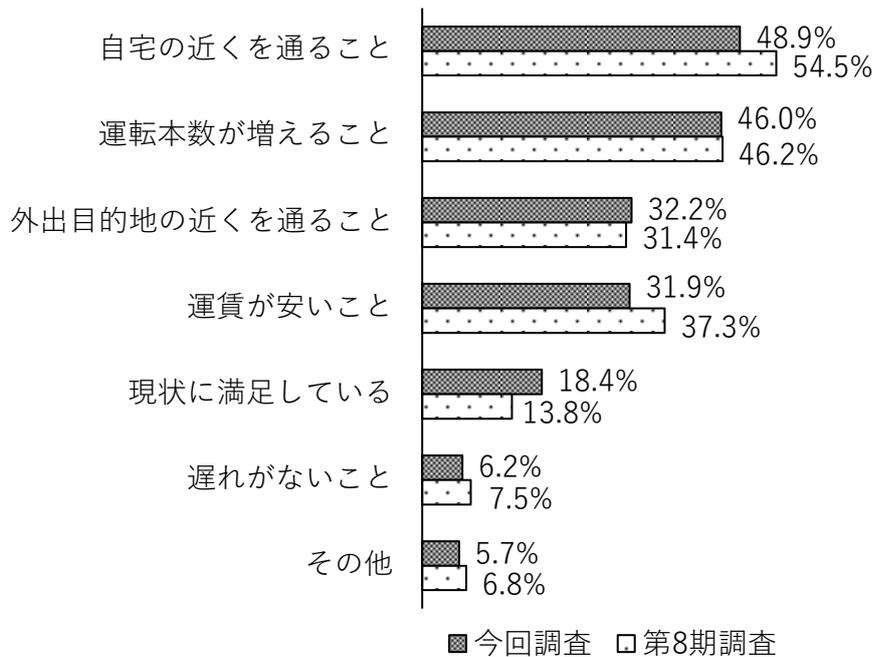
日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「まだまだ普通に運転できる」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿第1』では「返納すると代わりの交通機関がない、または不便」が54.4%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	まだまだ普通に運転できる	運転能力の低下を感じていないが、返納するほどではない	返納すると代わりの交通機関がない、または不便	運転はしなくてもいいが、身分証に使う必要がある	何となく運転免許証を持ち続けている	返納する制度があったことを知らなかった	その他
全体	835	75.4	24.4	38.6	1.8	1.0	-	3.0
鈴鹿第1	90	67.8	26.7	54.4	-	-	-	2.2
鈴鹿第2	107	85.0	19.6	33.6	2.8	0.9	-	-
鈴鹿第3	60	75.0	20.0	38.3	1.7	3.3	-	5.0
鈴鹿第4	72	70.8	26.4	36.1	2.8	1.4	-	1.4
鈴鹿第5	87	77.0	28.7	39.1	3.4	2.3	-	4.6
鈴鹿第6	76	67.1	35.5	30.3	2.6	1.3	-	2.6
鈴鹿第7	69	78.3	20.3	18.8	2.9	-	-	2.9
鈴鹿第8	67	80.6	22.4	41.8	-	-	-	6.0
亀山第1	120	71.7	25.0	46.7	1.7	0.8	-	4.2
亀山第2	87	80.5	19.5	39.1	-	-	-	2.3

問17 あなたが公共交通に望むことは何ですか。(複数選択可) 【N=1,197、1,288(第8期調査)】

公共交通に望むことについては、「自宅の近くを通ること」が48.9%と最も高く、次いで「運転本数が増えること」(46.0%)、「外出目的地の近くを通ること」(32.2%)、「運賃が安いこと」(31.9%)と続いています。一方、「現状に満足している」は18.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「自宅の近くを通ること」が5.6ポイント、「運賃が安いこと」が5.4ポイント低下する一方、「現状に満足している」は4.6ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第3』『鈴鹿第4』『鈴鹿第5』『鈴鹿第6』『鈴鹿第7』では「自宅の近くを通ること」が、『鈴鹿第1』『鈴鹿第2』『鈴鹿第8』『亀山第1』『亀山第2』では「運転本数が増えること」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿第2』では「現状に満足している」が32.2%、『亀山第1』では「外出目的地の近くを通ること」が44.0%、『鈴鹿第8』では「運賃が安いこと」が41.2%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	現状に満足している	自宅の近くを通ること	外出目的地の近くを通ること	運賃が安いこと	遅れないこと	運転本数が増えること	その他
全体	1159	18.6	48.7	32.2	32.1	6.2	45.9	5.6
鈴鹿第1	119	10.1	47.1	31.9	29.4	5.9	59.7	7.6
鈴鹿第2	143	32.2	37.1	28.7	33.6	5.6	39.2	2.8
鈴鹿第3	91	20.9	52.7	33.0	30.8	4.4	44.0	8.8
鈴鹿第4	102	23.5	53.9	31.4	34.3	6.9	24.5	4.9
鈴鹿第5	134	13.4	56.0	31.3	28.4	6.7	41.0	8.2
鈴鹿第6	99	21.2	54.5	30.3	29.3	7.1	42.4	4.0
鈴鹿第7	115	26.1	40.9	26.1	28.7	7.8	27.0	6.1
鈴鹿第8	85	14.1	52.9	38.8	41.2	9.4	58.8	5.9
亀山第1	141	12.8	51.8	44.0	31.9	3.5	61.7	1.4
亀山第2	130	12.3	45.4	26.9	35.4	6.2	57.7	7.7

3 食べることについて

問18 身長・体重をご記入ください。

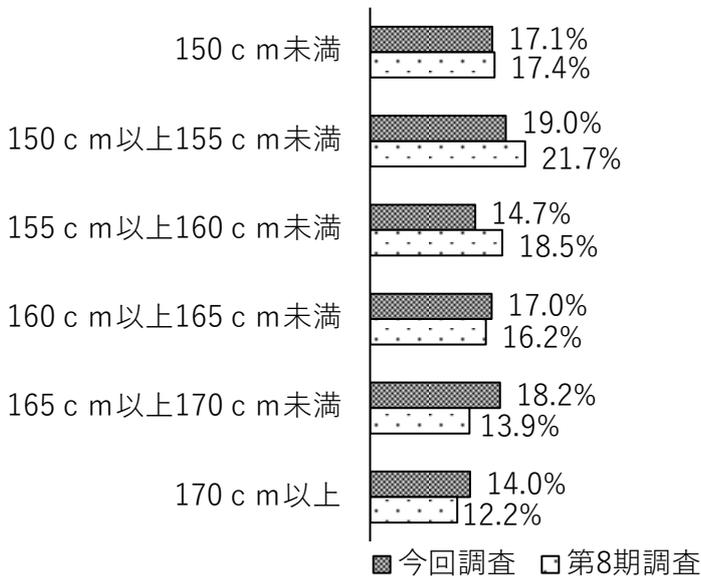
身長については、「150cm以上155cm未満」が19.0%と最も高く、次いで「165cm以上170cm未満」(18.2%)、「150cm未満」(17.1%)と続いています。

体重については、「50kg以上55kg未満」が19.1%と最も高く、次いで「60kg以上65kg未満」(16.0%)、「55kg以上60kg未満」(14.4%)と続いています。

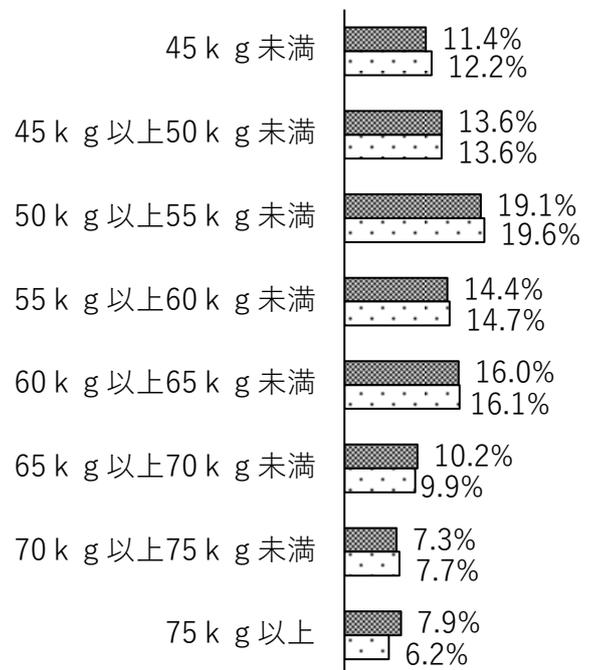
身長・体重から求めたBMIによる体格は、「普通」が69.3%と最も高くなっています。また、「やせ」は9.2%と低く、『肥満』は合わせて21.5%となっています。

第8期調査と比較すると、BMIによる体格は『肥満』が1.1ポイント低下しています。

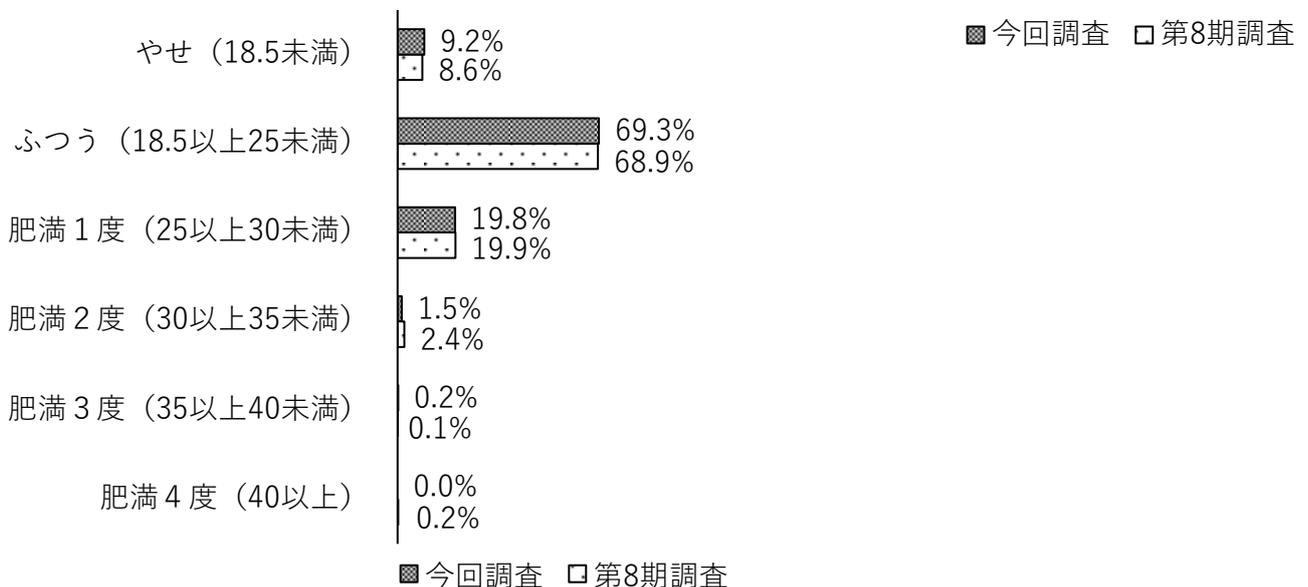
○身長【N=1,245、1,344(第8期調査)】



○体重【N=1,240、1,333(第8期調査)】



○BMI【N=1,236、1,328(第8期調査)】



問19 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(1つをを選択)

問20 お茶や汁物等でむせることがありますか。(1つをを選択)

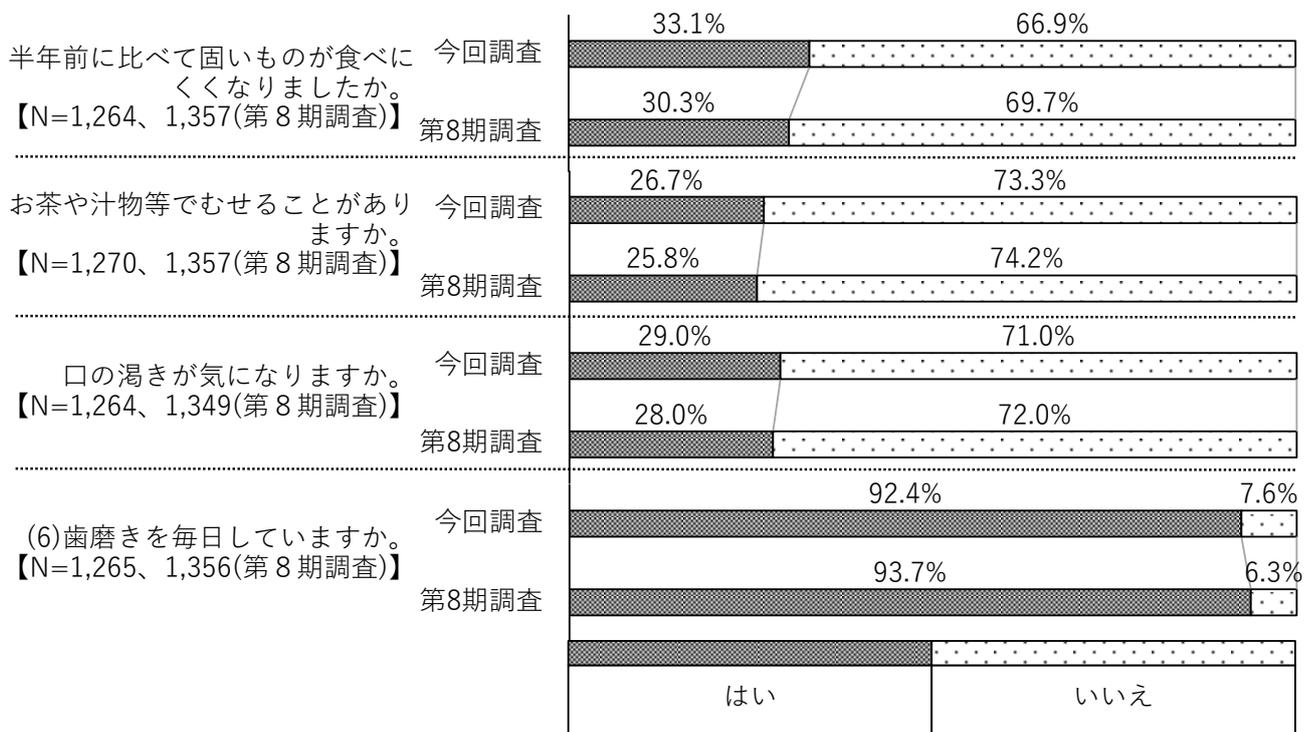
問21 口の渴きが気になりますか。(1つをを選択)

問22 歯磨き(人にやってもらう場合も含む)を毎日していますか。(1つをを選択)

摂食状況については、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」「お茶や汁物等でむせることがありますか」に「はい」と回答した人がそれぞれ33.1%、26.7%あります。また、「口の渴きが気になりますか」に「はい」と回答した人も29.0%あります。

歯については、「歯磨きを毎日していますか」に「はい」と回答した人が92.4%を占めます。

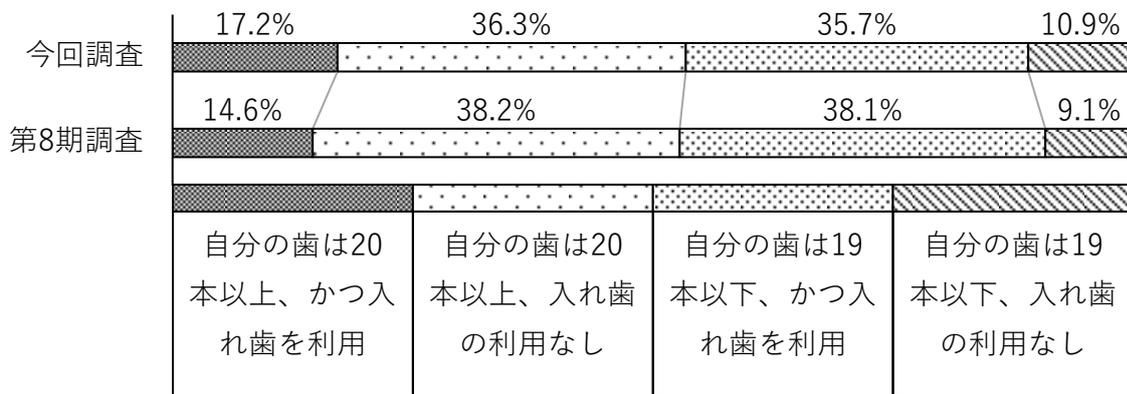
第8期調査と比較すると、「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」「お茶や汁物等でむせることがありますか」「口の渴きが気になりますか」に「はい」と回答した人は、それぞれ2.8ポイント、0.9ポイント、1.0ポイント上昇しています。一方、「歯磨きを毎日していますか」に「はい」と回答した人は1.3ポイント低下しています。



問23 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(成人の歯の総本数は、親知らずを含めて32本です) (1つを選択) 【N=1,234、1,272(第8期調査)】

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」が36.3%と最も高く、僅差で「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が35.7%で続いています。以下「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」(17.2%)、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」(10.9%)の順となっています。『入れ歯を利用』している人は合わせて52.9%となっています。

第8期調査と比較すると、「自分の歯は20本以上、かつ入れ歯を利用」が2.6ポイント、「自分の歯は19本以下、入れ歯の利用なし」が1.8ポイント上昇しています。また、『入れ歯を利用』している人にほとんど変化はみられません。

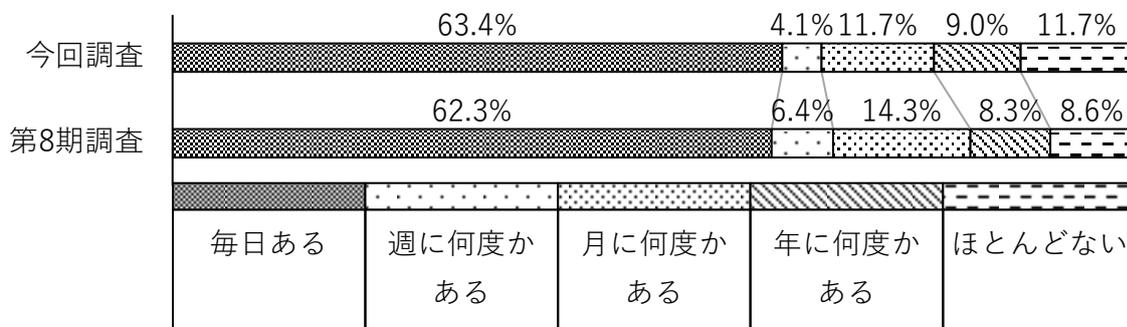


問24 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(1つを選択)

【N=1,271、1,355(第8期調査)】

だれかと食事をとにもする機会については、「毎日ある」が63.4%、「週に何度かある」が4.1%、「月に何度かある」が11.7%、「年に何度かある」が9.0%となっており、『ある』人は合わせて88.2%を占めています。一方、「ほとんどない」と回答した人は11.7%となっています。

第8期調査と比較すると、「ほとんどない」と回答した人が3.1ポイント上昇しています。

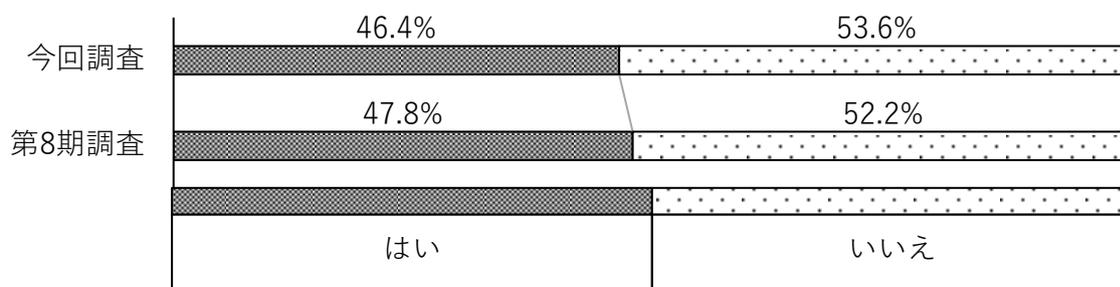


4 毎日の生活について

問25 物忘れが多いと感じますか。(1つを選択)【N=1,261、1,275(第8期調査)】

物忘れについて、物忘れが多いと感じている人は46.4%となっており、半数近くの人が「物忘れ」に心当たりがあることがうかがえます。

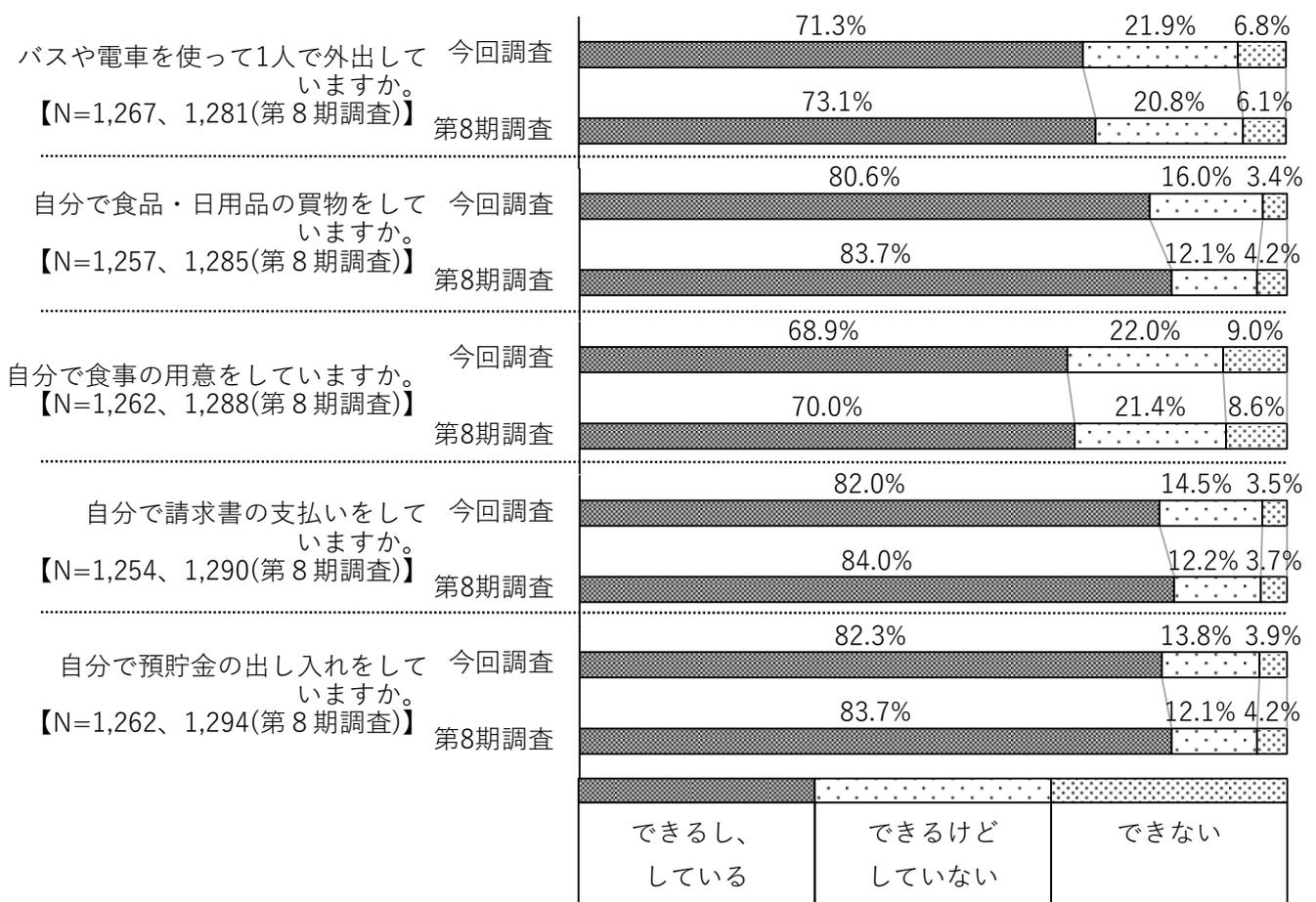
第8期調査と比較すると、「いいえ」が1.4ポイント上昇しています。



- 問26 バスや電車を使って1人で外出していますか。(自家用車でも可) (1つをを選択)
- 問27 自分で食品・日用品の買物をしていますか。(1つをを選択)
- 問28 自分で食事の用意をしていますか。(1つをを選択)
- 問29 自分で請求書の支払いをしていますか。(1つをを選択)
- 問30 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(1つをを選択)

「バスや電車を使って1人で外出していますか」「自分で食品・日用品の買物をしていますか」「自分で食事の用意をしていますか」「自分で請求書の支払いをしていますか」「自分で預貯金の出し入れをしていますか」について、「できるし、している」「できるけどしていない」と回答した人は、いずれも合わせて90%を超えています。一方、「できない」と回答した人は、「自分で食事の用意をしている」では9.0%あり、他の項目に比べて高くなっています。

第8期調査と比較すると、いずれの項目も「できるし、している」と回答した人が減少しています。一方、「できるけどしていない」と回答した人は増加しており、「自分で食品・日用品の買物をしていますか」では3.9ポイント、「自分で請求書の支払いをしていますか」では2.3ポイント、「自分で預貯金の出し入れをしていますか」では1.7ポイント、「バスや電車を使って1人で外出していますか」では1.1ポイント上昇しています。



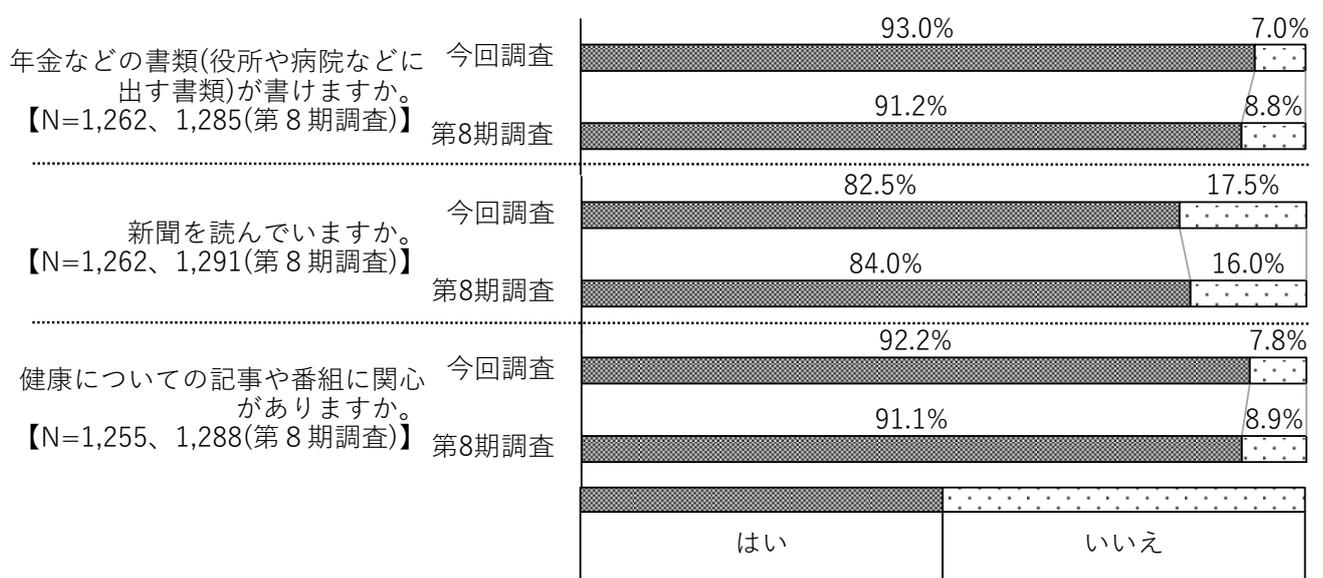
問31 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか。（1つをを選択）

問32 新聞を読んでいますか。（1つをを選択）

問33 健康についての記事や番組に関心がありますか。（1つをを選択）

「年金などの書類が書けますか」「健康についての記事や番組に関心がありますか」については、「はい」と回答した人は90%を超えています。また、「新聞を読んでいますか」についても「はい」と回答した人は80%を超えています。

第8期調査と比較すると、「年金などの書類が書けますか」「健康についての記事や番組に関心がありますか」に「はい」と回答した人はそれぞれ1.8ポイント、1.1ポイント上昇しています。一方、「新聞を読んでいますか」に「はい」と回答した人は1.5ポイント低下しています。

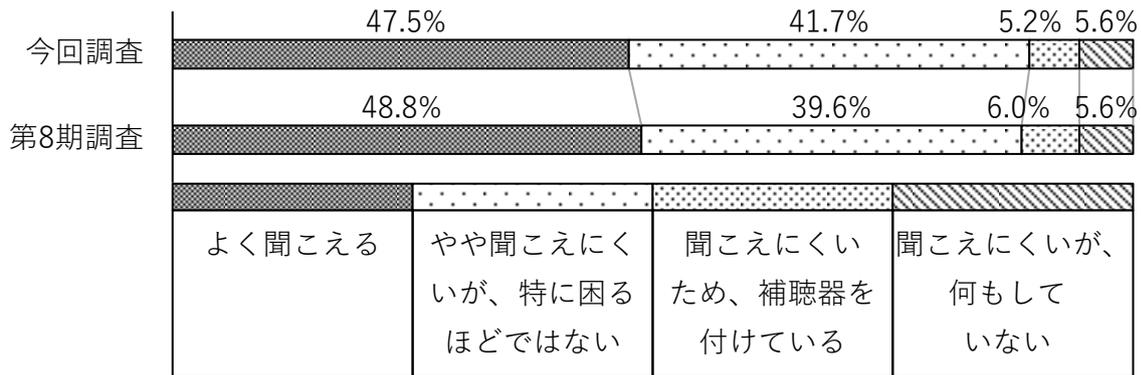


問34 あなたは、ご自分の耳はよく聞こえると感じますか。(1つを選択)

【N=1,260、1,284(第8期調査)】

耳の聞こえについては、「よく聞こえる」が47.5%と最も高く、「やや聞こえにくい、特に困るほどではない」が41.7%と続いています。「聞こえにくいため、補聴器を付けている」は5.2%、「聞こえにくい、何もしていない」は5.6%となっています。

第8期調査と比較すると、「よく聞こえる」が1.3ポイント低下する一方、「やや聞こえにくい、特に困るほどではない」は2.1ポイント上昇しています。



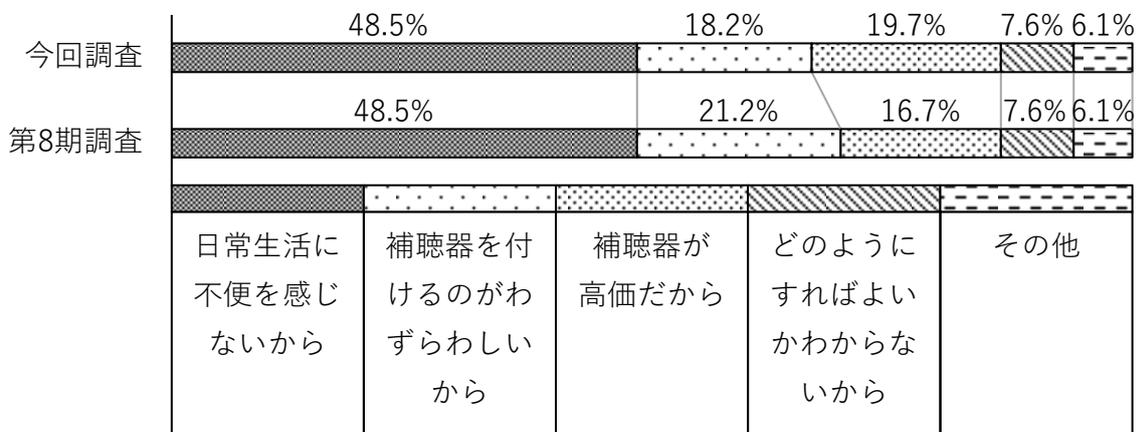
問34で「聞こえにくい、何もしていない」と回答した方にお伺いします。

問34-② 聞こえにくいにもかかわらず、何もしていないのはなぜですか。(1つを選択)

【N=66、66(第8期調査)】

聞こえにくいにもかかわらず、何もしていない理由については、「日常生活に不便を感じないから」が48.5%と最も高く、次いで「補聴器が高価だから」(19.7%)、「補聴器を付けるのがわずらわしいから」(18.2%)、「どのようにすればよいかわからないから」(7.6%)と続いています。

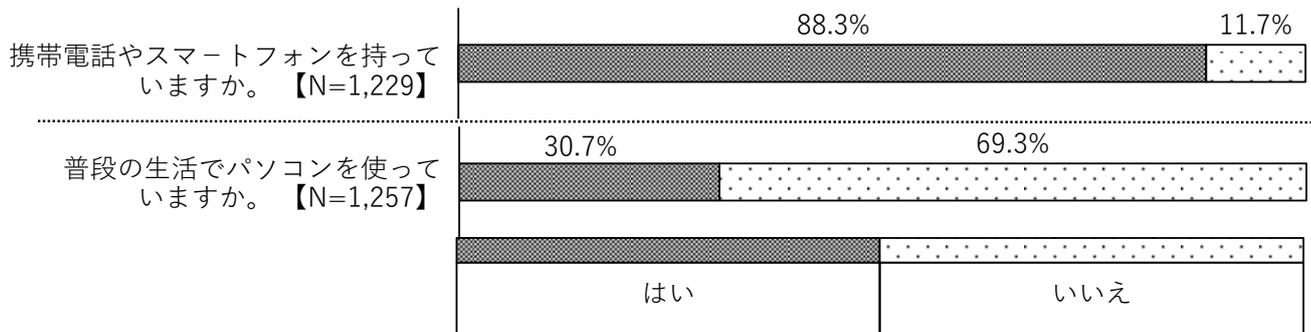
第8期調査とは大きな傾向の違いはみられません。



問35 携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つを選択)

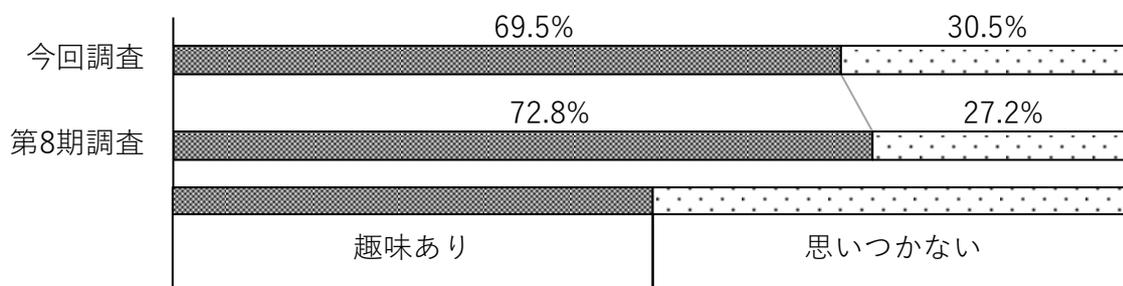
問36 普段の生活でパソコンを使っていますか。(1つを選択)

「携帯電話やスマートフォンを持っていますか」については、「はい」と回答した人は88.3%、「普段の生活でパソコンを使っていますか」については、「はい」と回答した人は30.7%となっています。



問37 趣味はありますか。(1つを選択) 【N=1,191、1,246(第8期調査)】

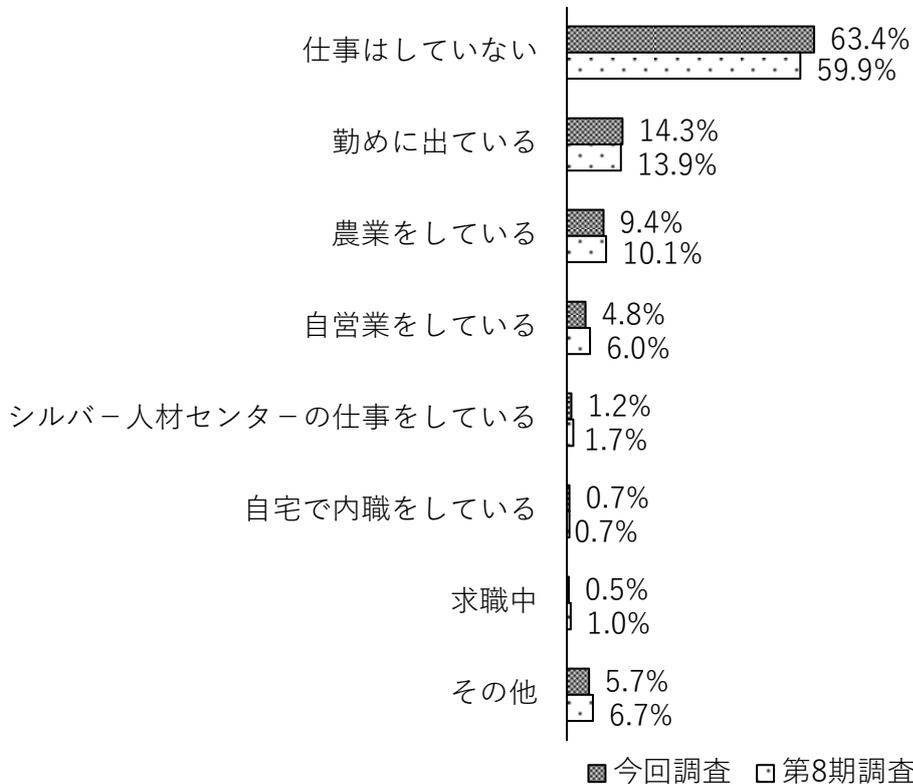
趣味については、「趣味あり」は69.5%、「趣味が「思いつかない」は30.5%となっています。第8期調査と比較すると、「趣味あり」が3.3ポイント低下しています。



問38 現在、どんな仕事をしていますか。(1つを選択)【N=1,239、1,263(第8期調査)】

仕事については、「仕事はしていない」が63.4%と最も高く、次いで「勤めに出ている」(14.3%)、「農業をしている」(9.4%)と続いています。

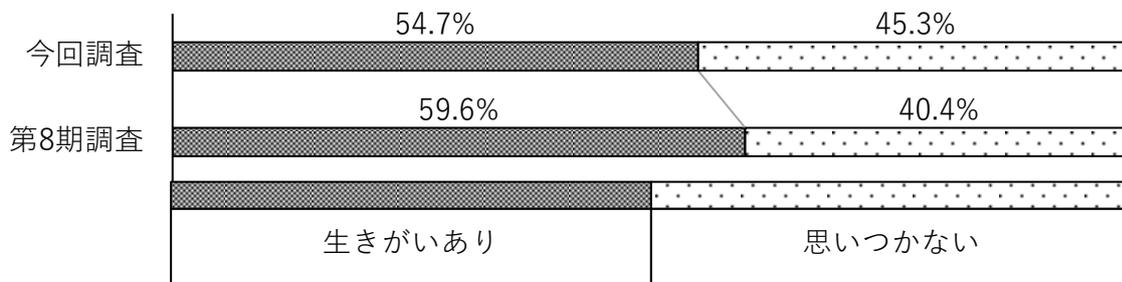
第8期調査と比較すると、「仕事はしていない」が3.5ポイント上昇しています。



問39 生きがいがありますか。(1つを選択)【N=1,194、1,206(第8期調査)】

生きがいについては、「生きがいあり」は54.7%、生きがいが「思いつかない」は45.3%となっています。

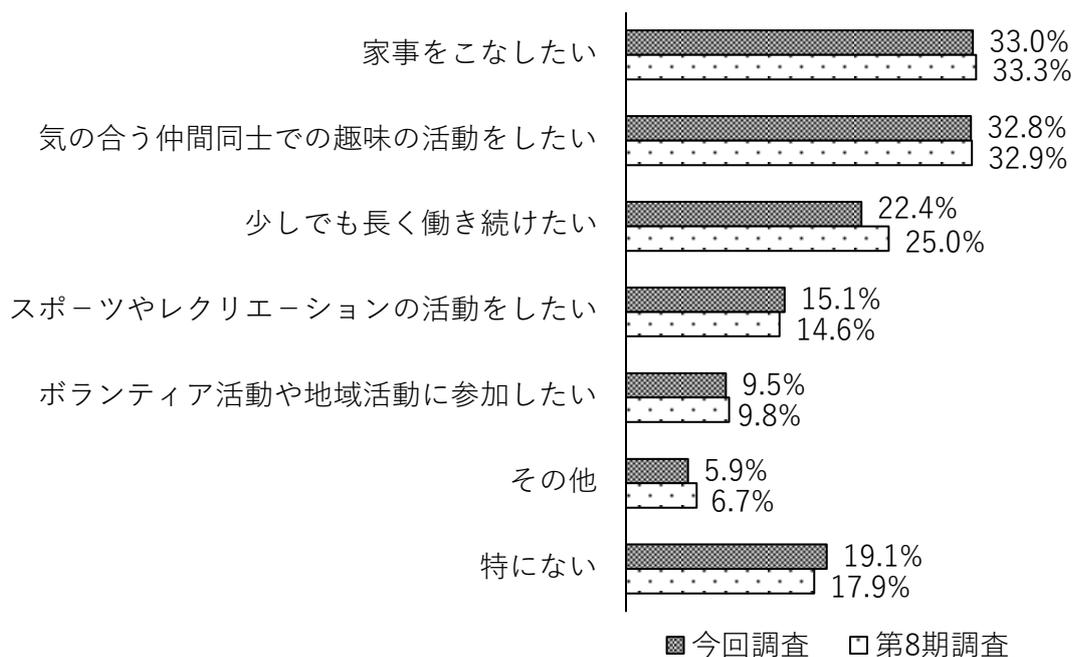
第8期調査と比較すると、「生きがいあり」が4.9ポイント低下しています。



問40 自分の健康や生きがいのために、どんなことをしたいと思いますか。(2つまで選択可)
【N=1,222、1,230(第8期調査)】

自分の健康や生きがいのためにしたいことについては、「家事をこなしたい」が33.0%、僅差で「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」が32.8%と高く、以下、「少しでも長く働きたい」(22.4%)、「スポーツやレクリエーションの活動をしたい」(15.1%)と続いています。一方、「特にない」は19.1%となっています。

第8期調査と比較すると、「少しでも長く働きたい」が2.6ポイント低下する一方、「特にない」は1.2ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳男性』『75～84歳男性』では「気の合う仲間同士での趣味の活動をしたい」が、『65～74歳女性』『75～84歳女性』では「家事をこなしたい」が最も高くなっています。一方、男女ともに『85歳以上』では「特にない」が最も高くなっています。また、『65～74歳男性』では「少しでも長く働きたい」が33.1%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

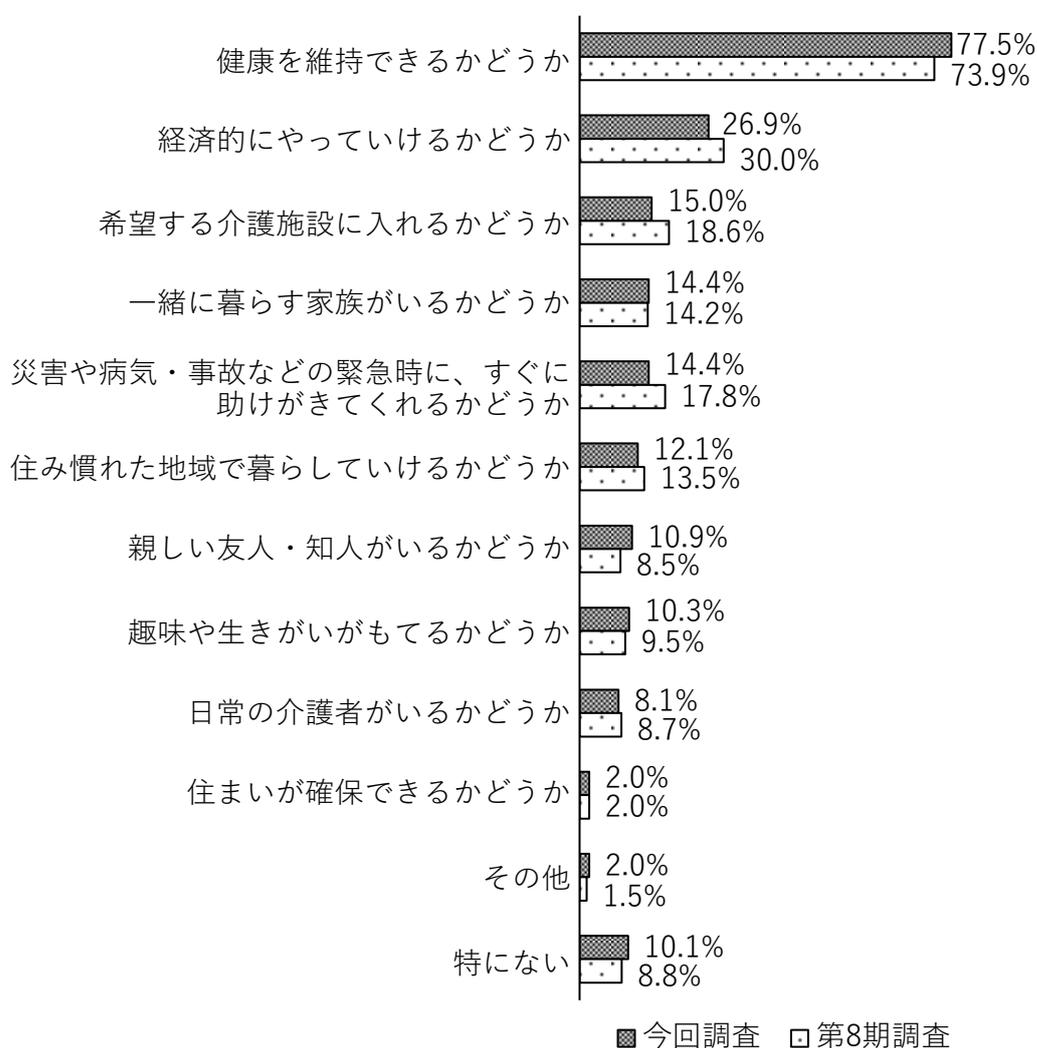
		合計	き少 続し けで たも い長 く働	い家 事を こな した	動士 をの した た趣 い味 の間 活同	参動 加や し地 た域 い活 動ア に活	活リス 動エポ をー した いた イン レク	そ の 他	特 に ない
男 性	全体	571	26.3	11.7	32.2	11.7	18.9	7.2	23.3
	65～74歳	311	33.1	9.3	36.0	13.5	19.9	5.8	19.0
	75～84歳	206	18.4	14.6	32.0	11.7	19.9	7.3	25.2
	85歳以上	54	16.7	14.8	11.1	1.9	9.3	14.8	40.7
女 性	全体	607	19.8	52.9	32.9	8.1	12.2	4.8	14.5
	65～74歳	319	24.1	51.1	33.2	10.3	15.7	5.0	11.3
	75～84歳	229	15.3	61.6	33.2	7.0	10.5	5.2	12.7
	85歳以上	59	13.6	28.8	30.5	-	-	1.7	39.0

問41 将来に向けて不安に思うことはありますか。(3つまで選択可)

【N=1,224、1,257(第8期調査)】

将来に向けて不安に思うことについては、「健康を維持できるかどうか」が77.5%と突出して高く、次いで「経済的にやっていけるかどうか」(26.9%)が続いています。一方、「特にない」は10.1%となっています。

第8期調査と比較すると、「健康を維持できるかどうか」が3.6ポイント、「親しい友人・知人がいるかどうか」が2.4ポイント上昇しています。一方、「希望する介護施設に入れるかどうか」は3.6ポイント、「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」は3.4ポイント、「経済的にやっていけるかどうか」は3.1ポイント低下しています。また、「特にない」は1.3ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「健康を維持できるかどうか」が最も高くなっています。次いで『85歳以上男性』では「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」が、『85歳以上女性』では「希望する介護施設に入れるかどうか」が続いていますが、その他の性・年齢では「経済的にやっていけるかどうか」が続いています。

		合計	か親 どう しい か友 人・ 知 人 が い る	て住 い み 慣 れ た 地 域 で 暮 ら し	か趣 味 や 生 き が い が も て る	か健 康 を 維 持 で き る か ど う	う日 常 の 介 護 者 が い る か ど	か一 緒 に 暮 ら す 家 族 が い る	う住 ま い が 確 保 で き る か ど	る希 望 す る 介 護 施 設 に 入 れ る か ど う か	ど経 済 的 に や っ て い け る か
男 性	全体	568	9.0	10.4	12.9	79.0	8.3	18.1	2.3	11.4	26.8
	65～74歳	312	8.3	8.3	15.1	77.9	7.4	16.0	3.2	10.6	28.2
	75～84歳	203	8.9	12.3	12.3	83.7	8.9	20.7	1.0	11.8	27.1
	85歳以上	53	13.2	15.1	1.9	67.9	11.3	20.8	1.9	15.1	17.0
女 性	全体	611	11.8	13.4	8.2	76.8	8.2	10.8	1.5	17.7	26.8
	65～74歳	321	10.6	12.1	9.0	79.4	5.6	12.5	1.6	14.3	29.9
	75～84歳	229	12.7	15.3	7.0	76.4	11.4	11.4	1.3	19.7	27.1
	85歳以上	61	14.8	13.1	8.2	63.9	9.8	-	1.6	27.9	9.8

		き緊災 て急害 く時や れに病 る、気 かす・ どぐ事 うに故 か助な けど がの	そ の 他	特 に な い
男 性	全体	14.6	2.6	10.2
	65～74歳	11.2	2.9	12.5
	75～84歳	17.2	2.0	6.4
	85歳以上	24.5	3.8	11.3
女 性	全体	14.4	1.5	10.1
	65～74歳	14.0	1.9	10.0
	75～84歳	14.8	0.9	8.3
	85歳以上	14.8	1.6	18.0

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「健康を維持できるかどうか」が最も高く、特に『夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)』『その他』では80%を超えています。一方、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「特にない」が19.2%と、他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	か親 どう しい か友 人・ 知 人 が い る	て住 いみ け慣 れた かた 地 域 で 暮 ら し	か趣 味 や 生 き が い が も て る	か健 康 を 維 持 で き る か ど う	う日 常 の 介 護 者 が い る か ど う	か一 緒 に 暮 ら す 家 族 が い る	う住 ま い が 確 保 で き る か ど う	る希 望 す る 介 護 施 設 に 入 れ る か ど う か	ど経 済 的 に や っ て い け る か
全体	1184	10.6	12.1	10.3	78.1	7.9	14.5	1.9	15.0	27.2
1人暮らし	189	10.1	14.3	9.5	76.7	6.9	1.1	6.3	21.7	27.5
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	536	10.1	13.6	12.1	80.0	9.1	20.1	1.1	14.4	25.4
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	52	1.9	3.8	5.8	76.9	5.8	19.2	-	1.9	28.8
息子・娘との 2世帯	255	12.5	9.0	8.2	73.3	7.5	12.2	0.8	16.1	28.2
その他	152	13.2	11.8	9.9	81.6	6.6	13.8	2.0	11.8	30.9

	き緊 て急 害 く時 や れに 病 る、 気 かす ・事 どぐ うに 故 か助 な け ど が の	そ の 他	特 に な い
全体	14.5	2.0	9.9
1人暮らし	22.8	3.7	6.9
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	14.6	1.7	10.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	11.5	1.9	19.2
息子・娘との 2世帯	8.2	1.2	11.4
その他	15.8	2.6	6.6

認定状況別クロス

認定状況別にみると、いずれの認定状況でも「健康を維持できるかどうか」が最も高くなっています。次いで『要支援1』では「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」が、『要支援2』『事業対象者』では「希望する介護施設に入れるかどうか」が、『受けていない』では「経済的にやっていけるかどうか」が、それぞれ2番目に高くなっています。なお、「わからない」では「希望する介護施設に入れるかどうか」と「災害や病気・事故などの緊急時に、すぐに助けがきてくれるかどうか」が同率で続いています。

	合計	か親 どう しい か友 人・ 知 人 が い る	て住 い み 慣 れ た 地 域 で 暮 ら し か	か趣 味 や 生 き が い が も て る	か健 康 を 維 持 で き る か ど う	う日 常 の 介 護 者 が い る か ど う	か一 緒 に 暮 ら す 家 族 が い る か	う住 ま い が 確 保 で き る か ど う	る希 望 す る 介 護 施 設 に 入 れ る か ど う	ど経 済 的 に や っ て い け る か
全体	1181	10.4	12.0	10.4	77.7	8.0	14.3	1.9	14.9	27.1
要支援1	36	8.3	16.7	16.7	72.2	19.4	8.3	-	16.7	16.7
要支援2	24	12.5	20.8	8.3	70.8	20.8	16.7	-	29.2	16.7
事業対象者	4	-	-	25.0	75.0	-	25.0	-	50.0	-
受けていない	1093	10.3	11.6	10.2	78.4	7.2	14.3	1.9	14.2	27.9
わからない	24	16.7	16.7	12.5	62.5	12.5	20.8	8.3	25.0	20.8

	き緊 急 時 に 病 気 ・ 事 故 な ど の 助 け が い る か	そ の 他	特 に な い
全体	14.5	2.0	10.4
要支援1	27.8	8.3	8.3
要支援2	12.5	-	16.7
事業対象者	25.0	-	-
受けていない	13.8	1.8	10.5
わからない	25.0	4.2	4.2

5 地域での活動について

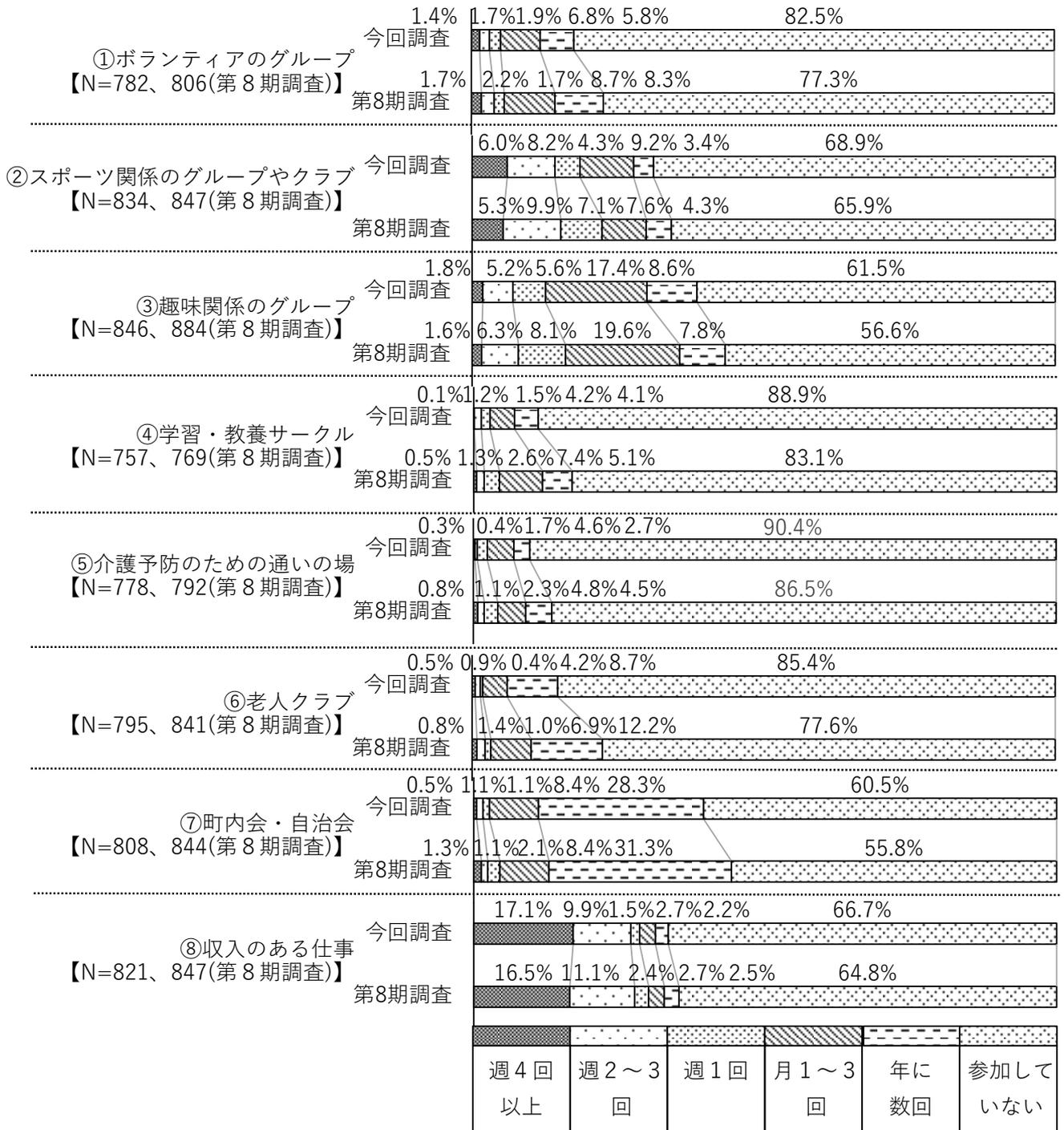
問42 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。※①～⑧それぞれ1つを選択

会・グループ活動等への参加については、「週4回以上」から「年に数回」までを合わせた『参加している』は、「⑦町内会・自治会」が39.4%、「③趣味関係のグループ」が38.6%と高くなっています。また、「⑧収入のある仕事」は33.4%、「②スポーツ関係のグループやクラブ」は31.1%と、30%を超えています。一方、「①ボランティアのグループ」「④学習・教養サークル」「⑤介護予防のための通いの場」「⑥老人クラブ」では「参加していない」と回答した人が80%を超えています。

(上段:件数、下段:%)

	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	な 参 加 し て い ない
①ボランティアのグループ	11	13	15	53	45	645
	1.4	1.7	1.9	6.8	5.8	82.5
②スポーツ関係のグループやクラブ	50	68	36	77	28	575
	6.0	8.2	4.3	9.2	3.4	68.9
③趣味関係のグループ	15	44	47	147	73	520
	1.8	5.2	5.6	17.4	8.6	61.5
④学習・教養サークル	1	9	11	32	31	673
	0.1	1.2	1.5	4.2	4.1	88.9
⑤介護予防のための通いの場	2	3	13	36	21	703
	0.3	0.4	1.7	4.6	2.7	90.4
⑥老人クラブ	4	7	3	33	69	679
	0.5	0.9	0.4	4.2	8.7	85.4
⑦町内会・自治会	4	9	9	68	229	489
	0.5	1.1	1.1	8.4	28.3	60.5
⑧収入のある仕事	140	81	12	22	18	548
	17.1	9.9	1.5	2.7	2.2	66.7

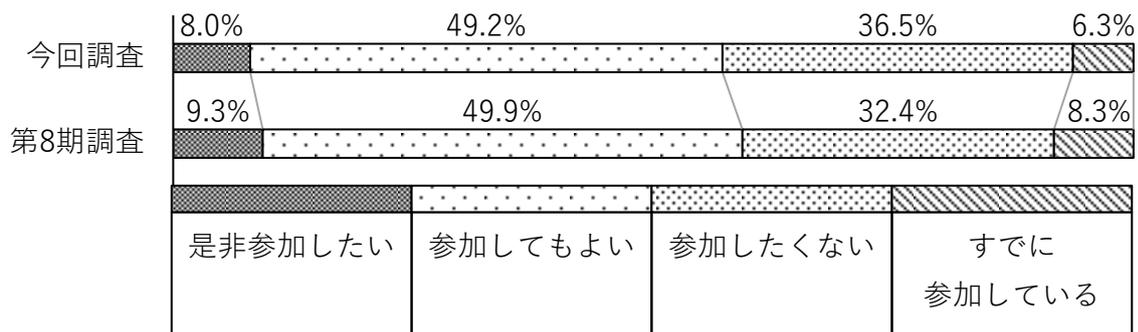
第8期調査と比較すると、『参加している』はいずれの会・グループでも低下しており、特に「⑥老人クラブ」は7.6ポイント、「④学習・教養サークル」は5.8ポイント、「①ボランティアのグループ」は5.0ポイントと、5ポイント以上低下しています。



問43 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(1つを選択)【N=1,130、1,210(第8期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動による地域づくりに「是非参加したい」は8.0%、「参加してもよい」は49.2%と、合わせて『参加の意思がある人』は57.2%となっています。一方、「参加したくない」は36.5%、「すでに参加している」は6.3%となっています。

第8期調査と比較すると、「参加したくない」が4.1ポイント上昇する一方、『参加の意思がある人』は2.0ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『参加の意思がある人』は84歳以下の男女では過半数を占めており、特に、『65～74歳女性』では63.4%と高くなっています。また、『75～84歳女性』では「すでに参加している」が10.6%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している
男性	全体	549	6.4	48.5	40.8	4.4
	65～74歳	306	5.6	53.6	37.6	3.3
	75～84歳	194	8.2	43.3	42.8	5.7
	85歳以上	49	4.1	36.7	53.1	6.1
女性	全体	547	9.7	50.5	31.4	8.4
	65～74歳	293	7.8	55.6	29.7	6.8
	75～84歳	207	12.6	45.9	30.9	10.6
	85歳以上	47	8.5	38.3	44.7	8.5

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『参加の意思がある人』は『夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)』では60.4%と、他の世帯類型に比べて高くなっています。一方、『息子・娘との2世帯』では「参加したくない」が43.1%と、他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	いすでに参加して
全体	1100	8.0	49.1	36.5	6.4
1人暮らし	168	14.9	43.5	37.5	4.2
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	510	6.9	53.5	32.5	7.1
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	52	3.8	55.8	38.5	1.9
息子・娘との 2世帯	232	6.9	42.7	43.1	7.3
その他	138	7.2	47.8	38.4	6.5

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『参加の意思がある人』は『鈴鹿第1』『亀山第2』では60%以上と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	いすでに参加して
全体	1096	8.1	49.0	36.6	6.3
鈴鹿第1	109	11.9	54.1	30.3	3.7
鈴鹿第2	138	7.2	42.8	44.9	5.1
鈴鹿第3	82	9.8	50.0	32.9	7.3
鈴鹿第4	98	5.1	51.0	36.7	7.1
鈴鹿第5	126	4.8	54.0	33.3	7.9
鈴鹿第6	97	10.3	38.1	43.3	8.2
鈴鹿第7	109	9.2	42.2	44.0	4.6
鈴鹿第8	79	2.5	53.2	38.0	6.3
亀山第1	133	7.5	51.9	33.1	7.5
亀山第2	125	12.0	52.8	29.6	5.6

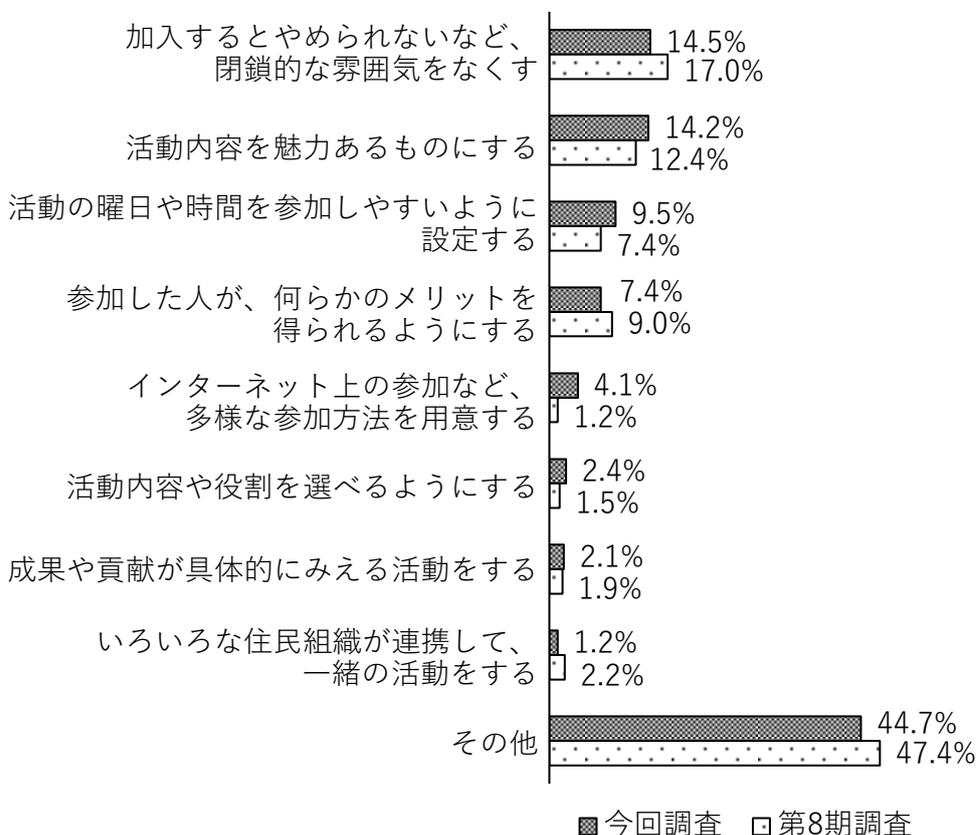
問43で「参加したくない」と回答した方にお伺いします。

問43-② どうすれば参加したいと思いますか。(1つを選択)

【N=338、323(第8期調査)】

どうすれば参加したいと思うかについては、「その他」が44.7%と最も高く、次いで「加入するとやめられないなど、閉鎖的な雰囲気なくす」(14.5%)、「活動内容を魅力あるものにする」(14.2%)と続いています。なお、「その他」の回答としては、「参加したくない」、「人間関係が面倒」、「忙しい」、「高齢のため」、「病気・障がいのため」など、参加自体に否定的な回答が多くみられました。一方、少数ながら「健康になれば」や「コロナが終息すれば」、「車いすで参加できれば」などの条件を挙げる回答もみられました。

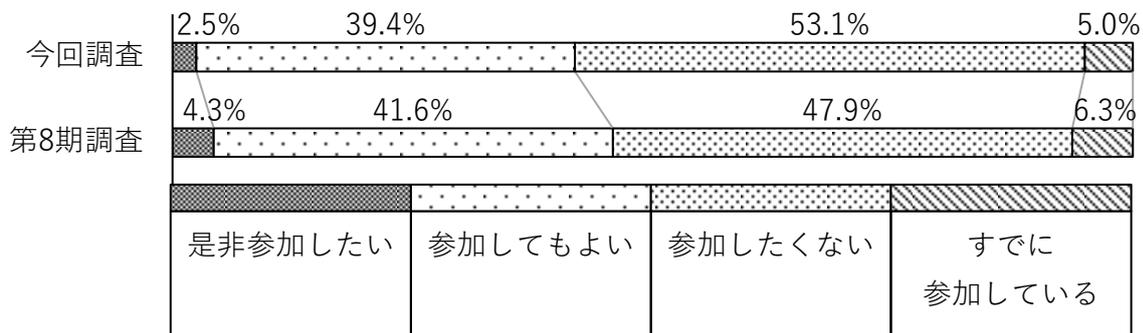
第8期調査と比較すると、「インターネット上の参加など、多様な参加方法を用意する」が2.9ポイント、「活動の曜日や時間を参加しやすいように設定する」が2.1ポイント上昇しています。



問44 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（1つを選択）【N=1,151、1,239(第8期調査)】

健康づくり活動や趣味等のグループ活動により地域づくりを進める際、企画・運営として「是非参加したい」は2.5%、「参加してもよい」は39.4%と、合わせて『参加の意思がある人』は41.9%となっています。一方、「参加したくない」は53.1%、「すでに参加している」は5.0%となっています。

第8期調査と比較すると、「参加したくない」が5.2ポイント上昇する一方、『参加の意思がある人』は4.0ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『参加の意思がある人』は『亀山第1』では48.2%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、「参加したくない」は『鈴鹿第2』では62.3%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	すでに参加している
全体	1114	2.6	39.5	52.9	5.0
鈴鹿第1	117	2.6	40.2	50.4	6.8
鈴鹿第2	138	0.7	31.2	62.3	5.8
鈴鹿第3	85	2.4	40.0	52.9	4.7
鈴鹿第4	98	2.0	39.8	56.1	2.0
鈴鹿第5	130	-	45.4	47.7	6.9
鈴鹿第6	98	2.0	32.7	59.2	6.1
鈴鹿第7	106	5.7	40.6	50.0	3.8
鈴鹿第8	82	2.4	43.9	50.0	3.7
亀山第1	135	3.0	45.2	45.9	5.9
亀山第2	125	5.6	36.8	54.4	3.2

6 あなたとまわりの人の「たすけあい」について

問45 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人を教えてください。（複数選択可）

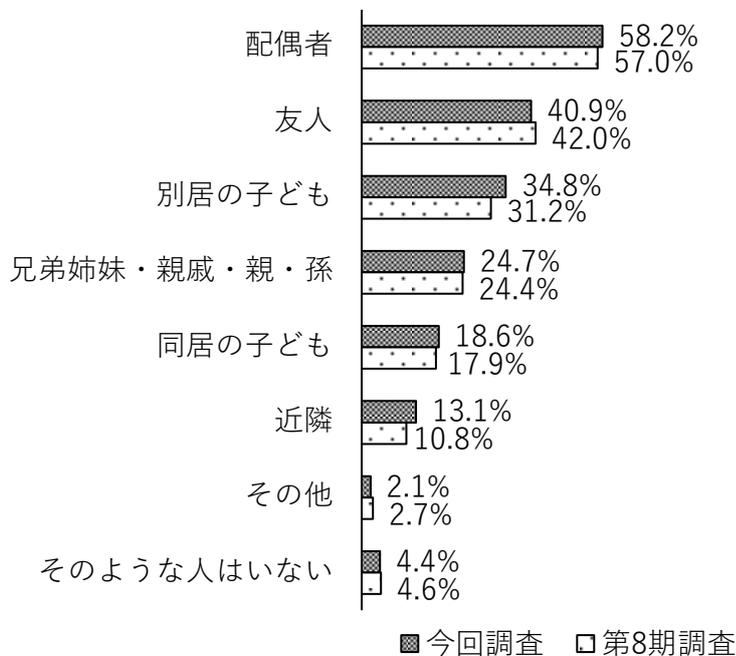
問46 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人を教えてください。（複数選択可）

「あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人」と「反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人」については、「配偶者」(58.2%、57.0%)が最も高く、次いで「友人」(40.9%、41.3%)が続いています。

第8期調査と比較すると、「あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人」と「反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人」では「別居の子ども」がそれぞれ3.6ポイント、3.4ポイント上昇しています。

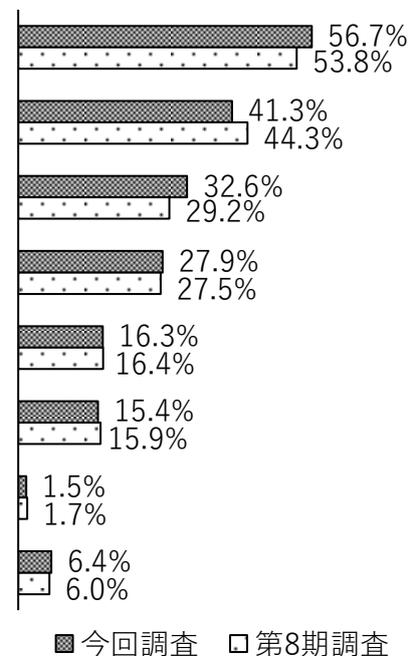
心配事や愚痴を聞いてくれる人

【N=1,245、1,349(第8期調査)】



心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人

【N=1,231、1,322(第8期調査)】



問47 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人を教えてください。
(複数選択可)

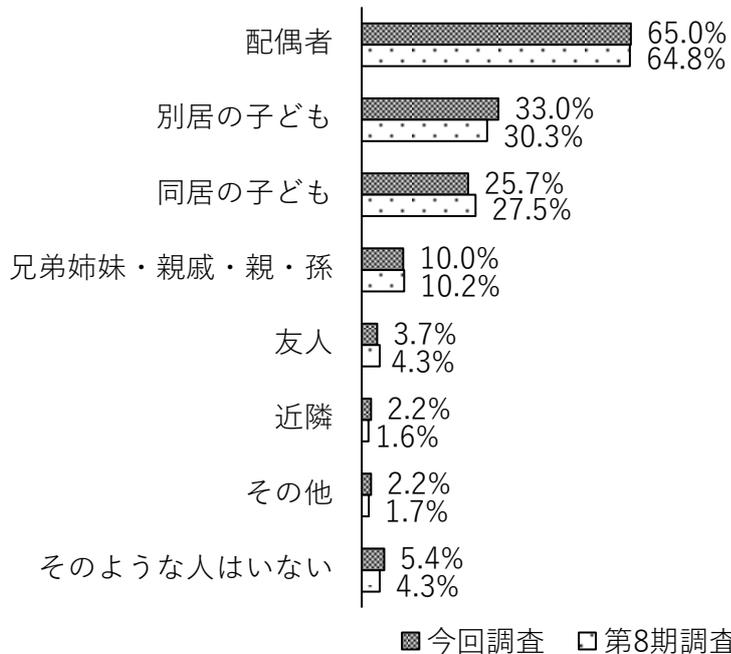
問48 反対に、看病や世話をしてあげる人を教えてください。(複数選択可)

「あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」と「反対に、看病や世話をしてあげる人」は、「配偶者」(65.0%、68.0%)が最も高く、次いで「別居の子ども」(33.0%、26.3%)が続いています。

第8期調査と比較すると、「あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」については「別居の子ども」が2.7ポイント上昇しています。一方、「あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人」と「反対に、看病や世話をしてあげる人」では「そのような人はいない」がそれぞれ1.1ポイント、1.5ポイント上昇しています。

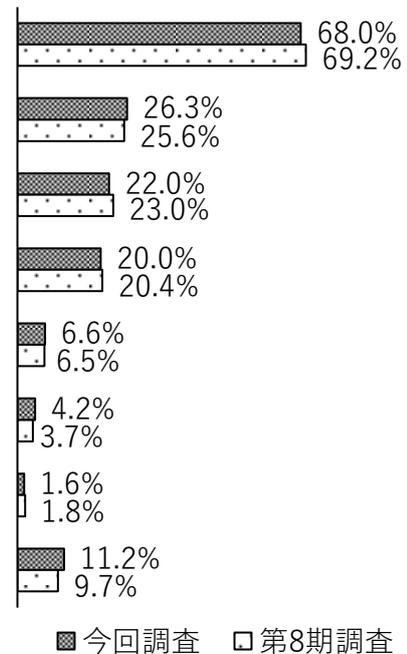
看病や世話をしてくれる人

【N=1,250、1,359(第8期調査)】



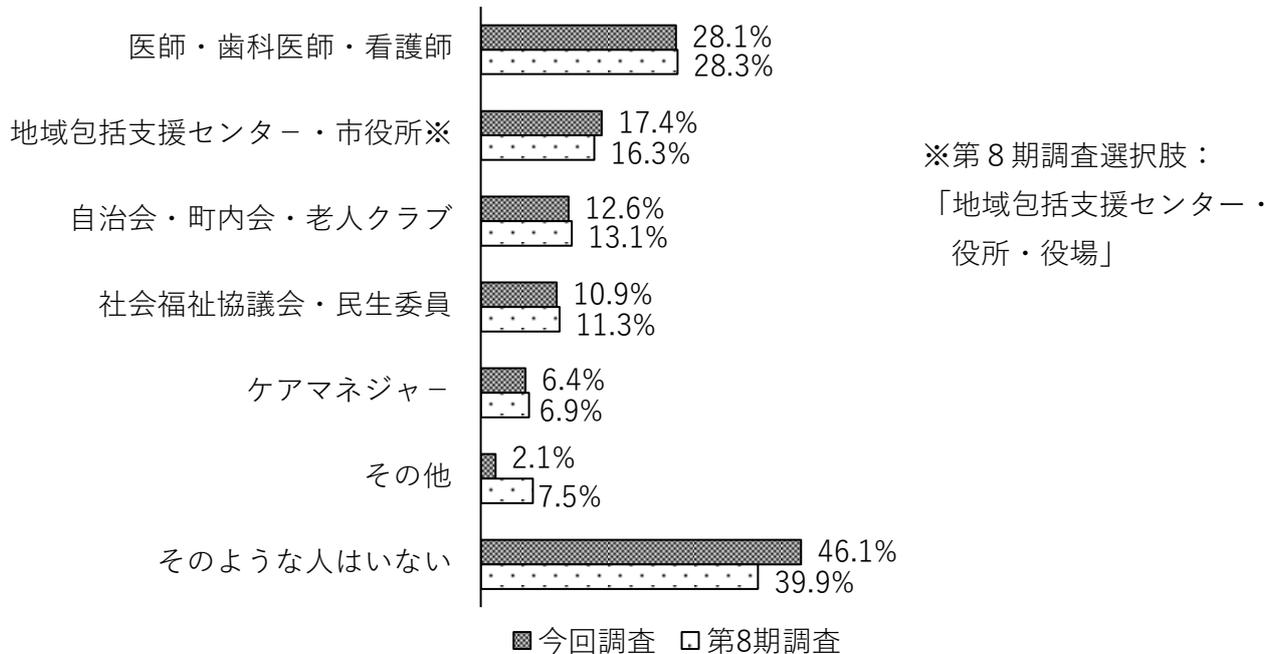
看病や世話をしてあげる人

【N=1,224、1,313(第8期調査)】



問49 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。(複数選択可)
【N=1,135、1,270(第8期調査)】

家族や友人・知人以外の相談相手については、「そのような人はいない」が46.1%と最も高くなっています。相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が28.1%と最も高く、次いで「地域包括支援センター・市役所」(17.4%)、「自治会・町内会・老人クラブ」(12.6%)と続いています。第8期調査と比較すると、「そのような人はいない」が6.2ポイント上昇しています。



世帯類型別クロス

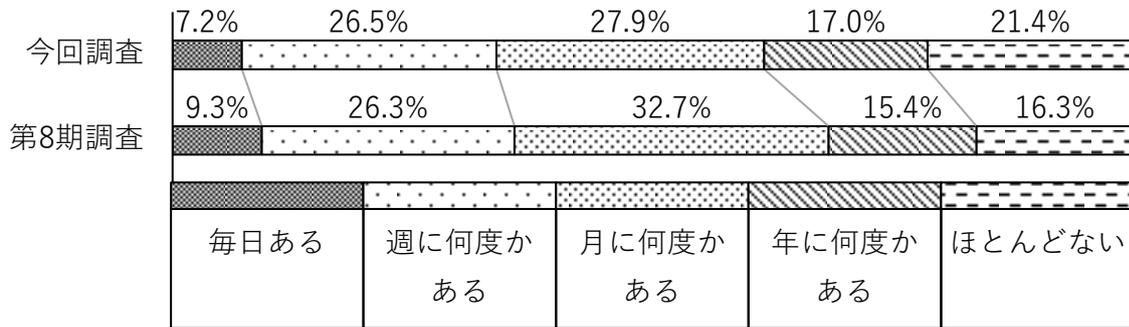
世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「そのような人はいない」が最も高く、相談相手としては、「医師・歯科医師・看護師」が最も高くなっています。『1人暮らし』では「社会福祉協議会・民生委員」も18.8%と同率で高く、他の世帯類型に比べても高くなっています。

	合計	老人クラブ・自治会・町内会	民生委員・社会福祉協議会	ケアマネジャー	看護師・医師・歯科医師	地域包括支援センター・市役所	その他	そのような人はいない
全体	1106	12.7	11.0	5.9	28.0	17.1	2.2	46.4
1人暮らし	181	8.3	18.8	5.5	18.8	15.5	3.3	48.6
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	508	14.4	11.2	4.7	29.7	18.7	1.8	45.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	51	11.8	3.9	5.9	25.5	15.7	2.0	51.0
息子・娘との 2世帯	225	11.6	5.3	7.1	31.1	16.9	2.7	46.2
その他	141	14.2	12.1	8.5	29.8	14.2	1.4	46.1

問50 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(1つを選択)【N=1,238、1,334(第8期調査)】

友人・知人と会う頻度については、「月に何度かある」が27.9%と最も高く、次いで「週に何度かある」が26.5%と続いており、「毎日ある」(7.2%)、「年に何度かある」(17.0%)を合わせた『友人・知人と会う機会のある人』は78.6%を占めています。一方、「ほとんどない」は21.4%となっています。

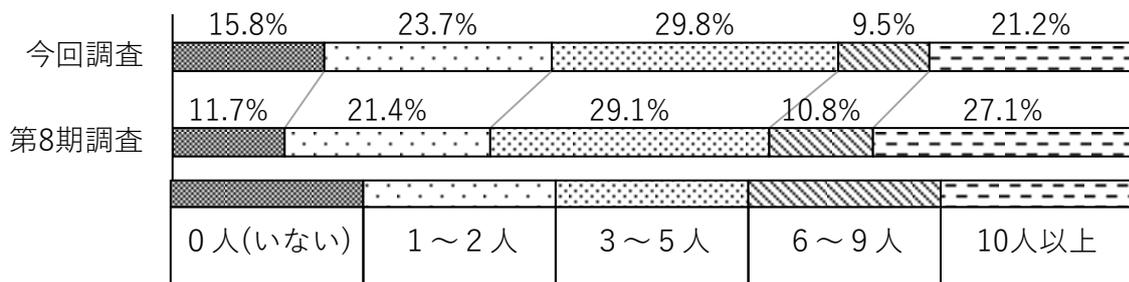
第8期調査と比較すると、『友人・知人と会う機会のある人』は5.1ポイント低下しています。



問51 この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1人と数えることとします。(1つを選択)【N=1,243、1,330(第8期調査)】

1か月間に何人の友人・知人と会ったかについては、「3～5人」が29.8%と最も高く、次いで「1～2人」(23.7%)、「10人以上」(21.2%)と続いています。一方、「0人」は15.8%となっています。

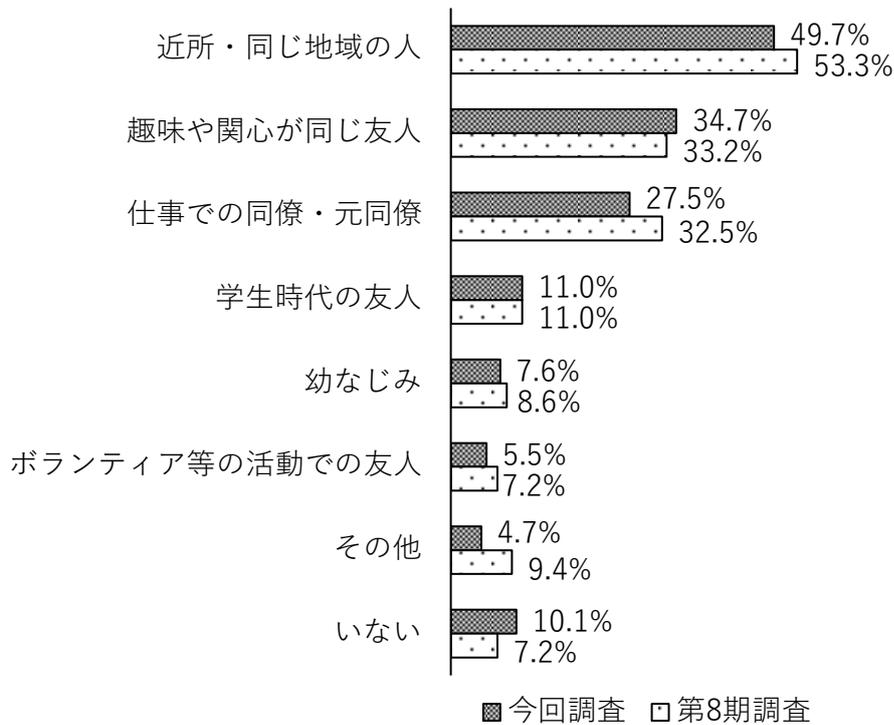
第8期調査と比較すると、「10人以上」が5.9ポイント低下する一方、「0人」が4.1ポイント上昇しています。



問52 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(複数選択可) 【N=1,229、1,309(第8期調査)】

よく会う友人・知人との関係については、「近所・同じ地域の人」が49.7%と最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(34.7%)、「仕事での同僚・元同僚」(27.5%)と続いています。一方、「いない」は10.1%となっています。

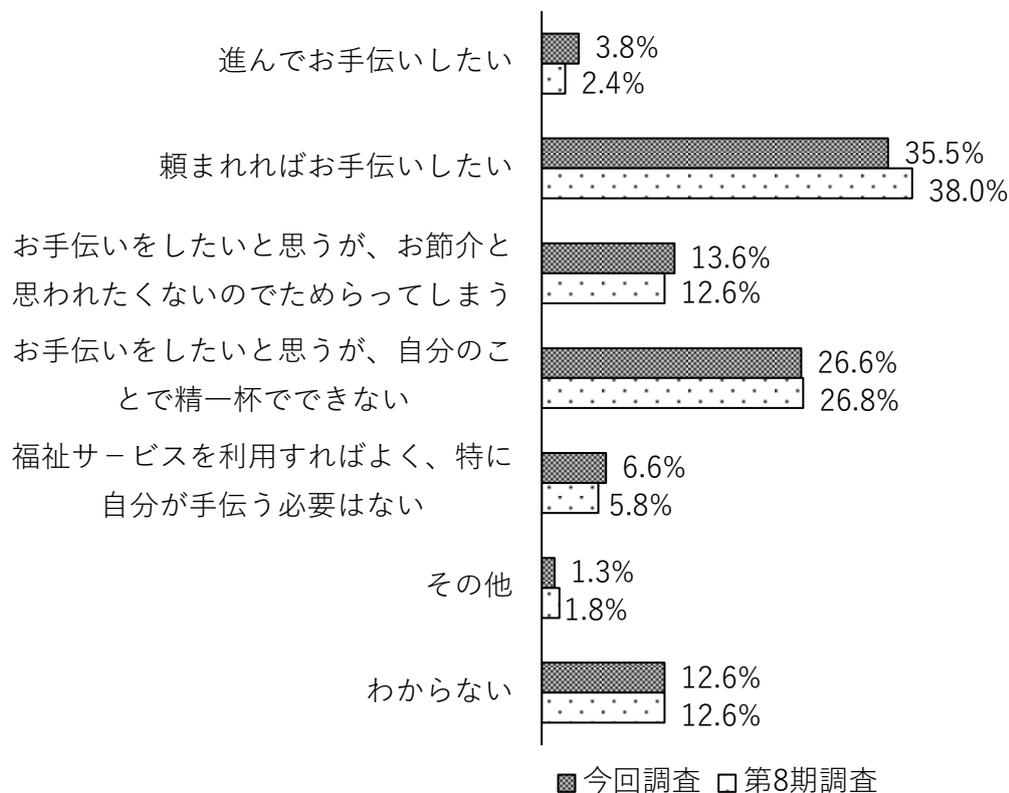
第8期調査と比較すると、「仕事での同僚・元同僚」が5.0ポイント、「その他」が4.7ポイント、「近所・同じ地域の人」が3.6ポイント低下する一方、「いない」が2.9ポイント上昇しています。



問53 あなたのご近所で、高齢者や障がい者のみの世帯など、困っている世帯があったら、どんな対応をしますか。(1つを選択)【N=1,195、1,257(第8期調査)】

困っている世帯への対応については、「頼まれればお手伝いしたい」が35.5%と最も高く、「進んでお手伝いしたい」(3.8%)、「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」(13.6%)を合わせると、『お手伝いしたい』は52.9%となっています。「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」は26.6%、「福祉サービスを利用すればよく、特に自分が手伝える必要はない」は6.6%となっています。

第8期調査と比較すると、「進んでお手伝いしたい」が1.4ポイント上昇する一方、「頼まれればお手伝いしたい」は2.5ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『お手伝いしたい』は『65～74歳女性』では62.2%と、他の性・年齢に比べて特に高くなっています。一方、『85歳以上』では男女ともに「お手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯でできない」が最も高くなっています。

		合計	進んでお手伝いしたい	頼まれればお手伝いしたい	いが、おのでおたためらつてしまいたくなく	おの手伝いをしたいと思う	おの手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯で	おの手伝いをしたいと思うが、自分のことで精一杯で	要は、特別なサービスを利用すれば	福祉、サ―ビスを利用すれば	その他	わからない
男性	全体	563	2.0	35.2	15.3	24.7	7.3	1.1	14.6			
	65～74歳	312	1.9	34.6	16.7	20.8	9.0	1.0	16.0			
	75～84歳	197	2.5	38.6	15.2	25.9	5.6	0.5	11.7			
	85歳以上	54	-	25.9	7.4	42.6	3.7	3.7	16.7			
女性	全体	594	4.9	37.0	12.5	27.9	5.4	1.7	10.6			
	65～74歳	312	4.5	44.2	13.5	20.8	5.4	1.0	10.6			
	75～84歳	224	5.8	33.0	13.4	30.8	6.3	1.8	8.9			
	85歳以上	58	3.4	13.8	3.4	55.2	1.7	5.2	17.2			

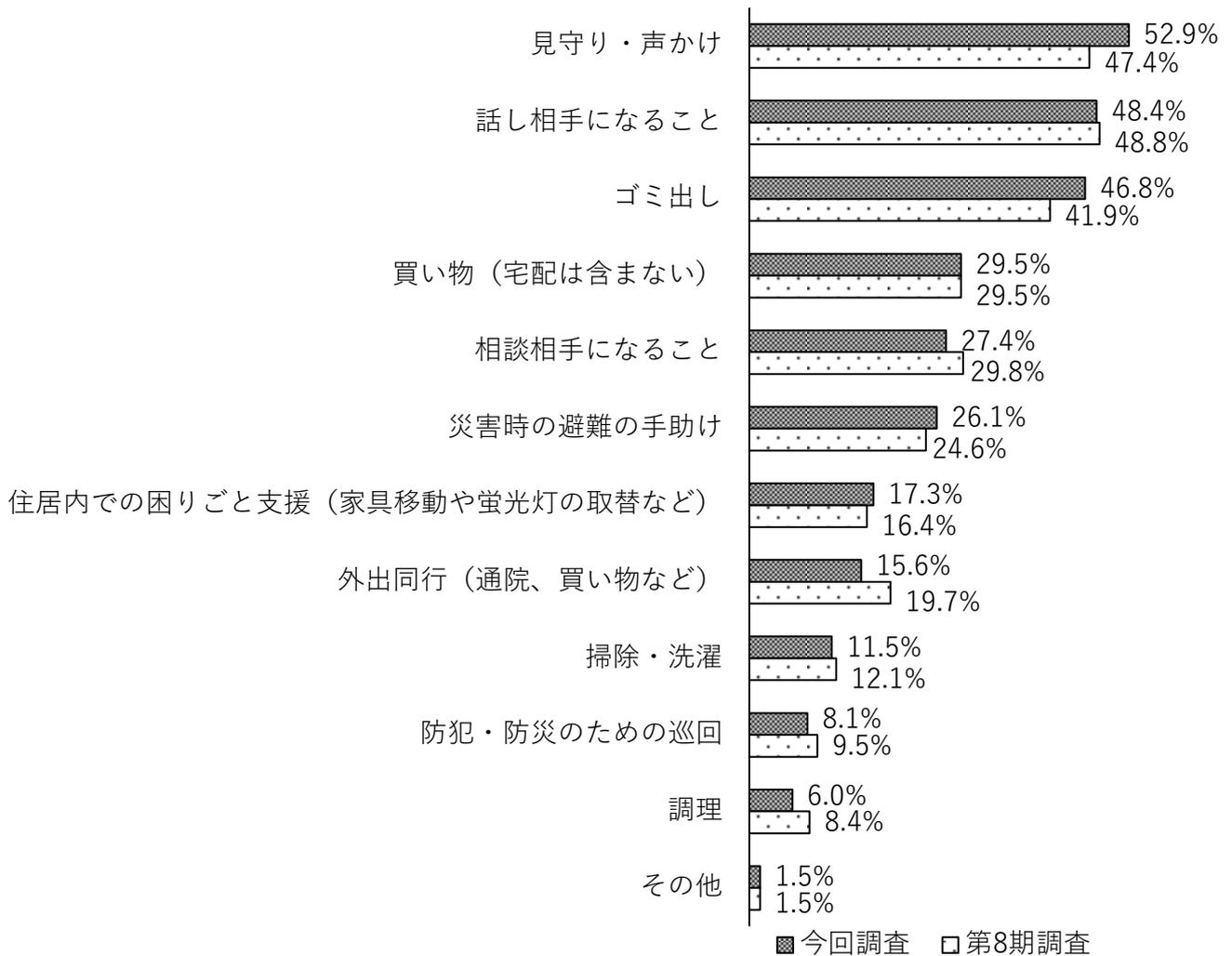
問53で「進んでお手伝いしたい」「頼まれればお手伝いしたい」「お手伝いをしたいと思うが、お節介と思われたくないのでためらってしまう」と回答した方にお伺いします。

問53-② 具体的にどのような手助けができますか。(複数選択可)

【N=620、654(第8期調査)】

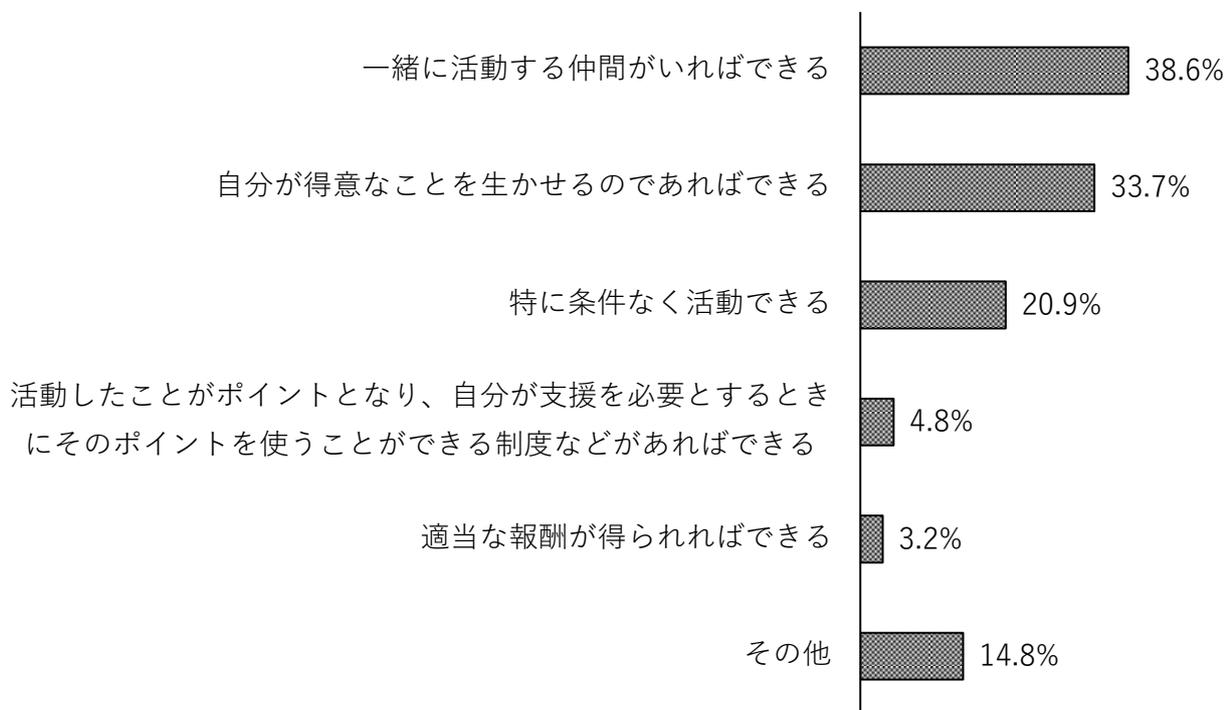
具体的にできると思う手助けについては、「見守り・声かけ」が52.9%と最も高く、次いで「話し相手になること」(48.4%)、「ゴミ出し」(46.8%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「見守り・声かけ」が5.5ポイント、「ゴミ出し」が4.9ポイント上昇する一方、「外出同行(通院、買い物など)」は4.1ポイント低下しています。



問54 どのような条件を整えば、地域で困っている方のお手伝いをすることができますか。
(複数選択可) 【N=1,088】

地域で困っている方のお手伝いをすることができる条件については、「一緒に活動する仲間がいればできる」が38.6%と最も高く、次いで「自分が得意なことを生かせるのであればできる」(33.7%)、「特に条件なく活動できる」(20.9%)と続いています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、84歳以下の男性では「自分が得意なことを生かせるのであればできる」が、『85歳以上男性』と84歳以下の女性では「一緒に活動する仲間がいればできる」が最も高くなっています。『85歳以上』では男女とも「その他」が最も高くなっています。

		合計	特に条件なく活動できる	できり活動 るに、動 るそ自 るの分 制のた 度イ支 なイン どがト があを れば使 ばうと できこ るすと がと	適 当 な 報 酬 が 得 ら れ ば で き る	き一 緒 に 活 動 す る 仲 間 が い れ ば で き る	で自 分 が 得 意 な こ と を 生 か せ る の あ れ ば で き る	そ の 他
男 性	全体	531	22.2	5.3	4.3	29.2	40.1	15.1
	65～74歳	299	22.4	7.0	6.7	28.4	41.5	12.0
	75～84歳	186	22.0	2.7	1.6	30.1	41.9	15.6
	85歳以上	46	21.7	4.3	-	30.4	23.9	32.6
女 性	全体	525	19.6	4.4	2.3	48.2	27.8	14.1
	65～74歳	288	19.8	4.9	3.5	52.8	29.2	9.4
	75～84歳	191	22.0	4.2	1.0	47.1	24.6	14.1
	85歳以上	46	8.7	2.2	-	23.9	32.6	43.5

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第7』では「自分が得意なことを生かせるのであればできる」が、その他の日常生活圏域では「一緒に活動する仲間がいればできる」が最も高くなっています。また、「特に条件なく活動できる」は『亀山第1』では28.6%、『亀山第2』では26.3%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

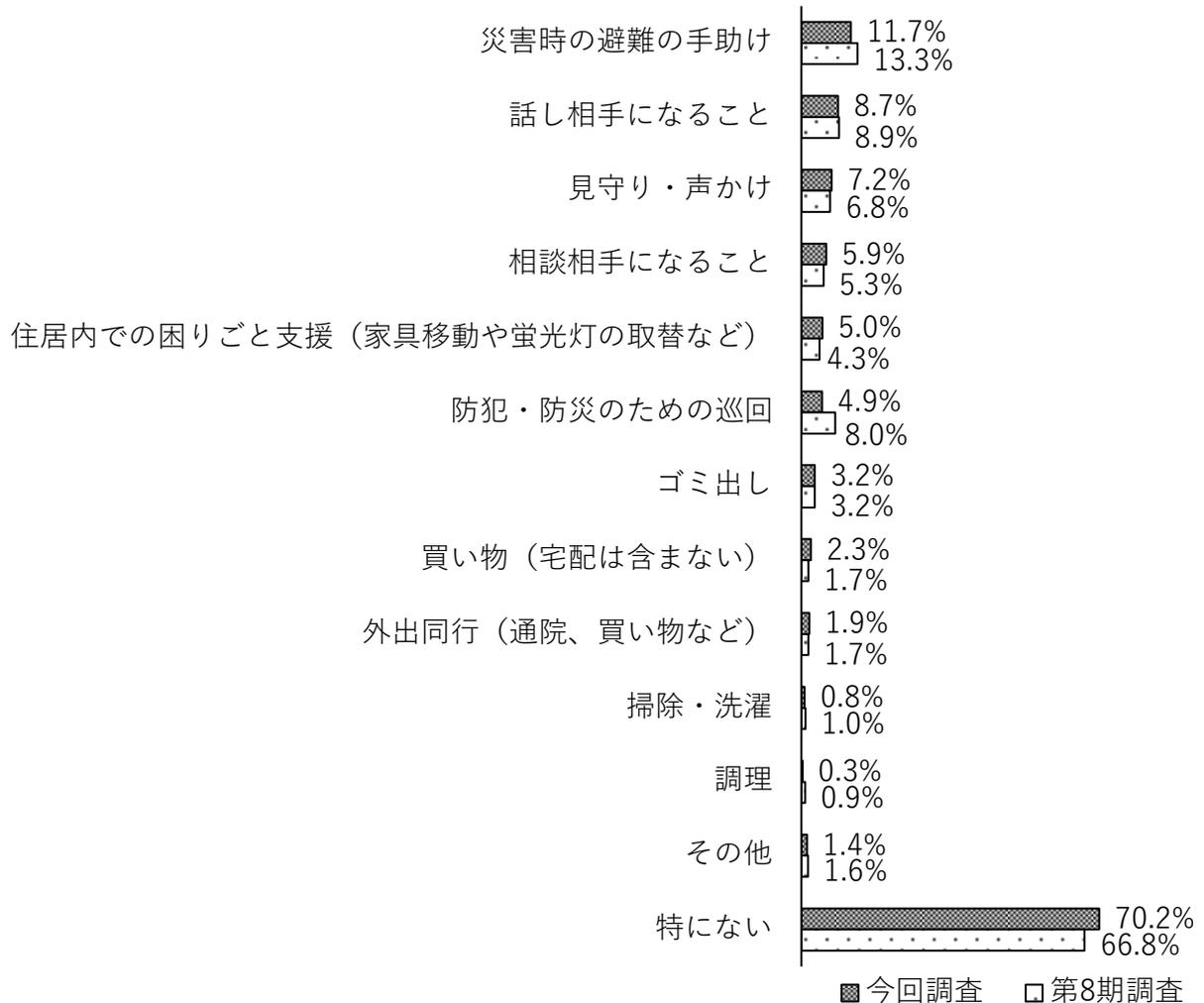
	合計	特に条件なく活動できる	活動したことがポイントとなり、自分がサポートを必要とするにできる制度などがあればできる	適当な報酬が得られればできる	一緒に活動する仲間がいればできる	自分が得意なことを生かせるのであればできる	その他
全体	1056	21.0	4.7	3.2	38.4	33.8	14.8
鈴鹿第1	109	22.0	5.5	1.8	43.1	34.9	11.9
鈴鹿第2	133	16.5	6.8	3.8	43.6	30.1	14.3
鈴鹿第3	78	17.9	2.6	2.6	38.5	34.6	17.9
鈴鹿第4	89	16.9	4.5	5.6	42.7	33.7	14.6
鈴鹿第5	123	18.7	3.3	2.4	37.4	35.8	14.6
鈴鹿第6	93	17.2	1.1	4.3	38.7	31.2	17.2
鈴鹿第7	104	23.1	5.8	1.9	28.8	33.7	17.3
鈴鹿第8	76	19.7	14.5	1.3	40.8	39.5	14.5
亀山第1	133	28.6	3.0	5.3	35.3	33.1	12.8
亀山第2	118	26.3	2.5	2.5	35.6	33.9	14.4

問55 隣近所や地域の人から手助けしてもらいたいことはありますか。(複数選択可)

【N=1,189、1,275(第8期調査)】

隣近所や地域の人から手助けをしてもらいたいことがあるかどうかについては、「特にない」が70.2%と最も高くなっています。手助けをしてもらいたいこととしては、「災害時の避難の手助け」が11.7%ありますが、その他の項目はいずれも10%以下と低くなっています。

第8期調査と比較すると、「特にない」が3.4ポイント上昇しています。



世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「特にない」が84.6%と、他の世帯類型に比べて特に高くなっています。また、『1人暮らし』では、手助けをしてもらいたいことのほとんどの項目が他の世帯類型に比べて高く、なかでも「話し相手になること」は13.7%、「見守り・声かけ」は13.2%、「住居内での困りごと支援(家具移動や蛍光灯の取替など)」は9.5%となっています。

	合計	調理	掃除・洗濯	買い物(宅配は含まない)	ゴミ出し	外出同行(通院、買い物など)	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け
全体	1155	0.3	0.8	2.2	3.2	1.8	7.4	8.8	6.1	11.9
1人暮らし	190	1.6	3.7	6.3	6.8	4.2	13.2	13.7	8.4	13.2
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	523	-	0.2	1.7	2.5	1.5	8.2	6.5	5.7	13.2
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	52	-	-	-	1.9	-	-	3.8	5.8	3.8
息子・娘との 2世帯	245	0.4	-	0.8	2.4	1.2	4.1	10.6	5.7	11.4
その他	145	-	0.7	1.4	2.8	1.4	4.8	9.7	4.8	9.0

	防犯・防災のための巡回	替(住居内での家具移動や困りごとや蛍光灯の取替支援)	その他	特にない
全体	4.9	5.1	1.5	70.0
1人暮らし	3.7	9.5	1.6	57.4
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	6.5	4.8	0.8	72.5
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	1.9	3.8	1.9	84.6
息子・娘との 2世帯	5.7	4.1	0.4	71.8
その他	0.7	2.8	5.5	69.7

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、手助けをしてもらいたいこととしては、『鈴鹿第1』では「話し相手になること」が、『鈴鹿第4』では「話し相手になること」「相談相手になること」が、その他の日常生活圏域では「災害時の避難の手助け」が最も高くなっています。

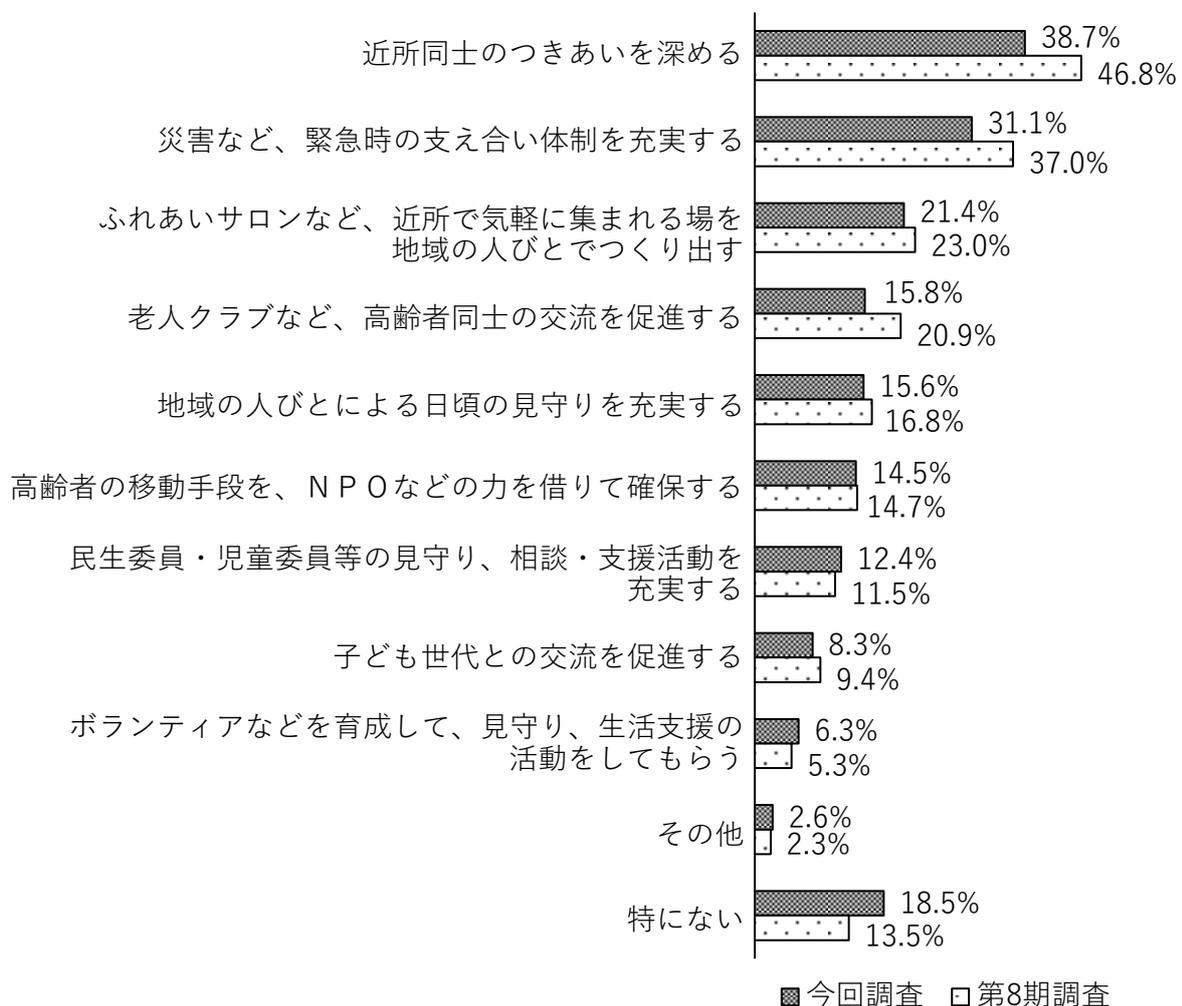
	合計	調理	掃除・洗濯	買い物（宅配は含まない）	ゴミ出し	外出同行（通院、買い物など）	見守り・声かけ	話し相手になること	相談相手になること	災害時の避難の手助け
全体	1152	0.3	0.8	2.2	3.1	1.8	7.1	8.8	5.8	11.8
鈴鹿第1	118	0.8	0.8	1.7	2.5	0.8	6.8	10.2	5.1	8.5
鈴鹿第2	148	0.7	1.4	0.7	1.4	-	6.1	7.4	4.7	15.5
鈴鹿第3	88	1.1	1.1	3.4	1.1	2.3	2.3	6.8	2.3	12.5
鈴鹿第4	98	-	2.0	1.0	5.1	3.1	7.1	10.2	10.2	8.2
鈴鹿第5	135	-	0.7	0.7	3.7	2.2	8.9	8.9	5.2	11.9
鈴鹿第6	102	-	-	2.9	3.9	2.0	-	6.9	2.9	8.8
鈴鹿第7	116	-	0.9	2.6	4.3	1.7	7.8	10.3	6.9	13.8
鈴鹿第8	83	-	-	3.6	4.8	3.6	12.0	9.6	9.6	13.3
亀山第1	140	-	-	4.3	1.4	2.9	7.1	9.3	7.9	10.7
亀山第2	124	-	0.8	1.6	4.0	0.8	12.1	8.1	4.0	13.7

	防犯・防災のための巡回	替（住居内での家具移動や蛍光灯の支援など）	その他	特にない
全体	4.8	4.9	1.5	70.1
鈴鹿第1	5.9	4.2	-	73.7
鈴鹿第2	2.0	6.8	0.7	71.6
鈴鹿第3	4.5	2.3	-	79.5
鈴鹿第4	6.1	5.1	3.1	68.4
鈴鹿第5	4.4	4.4	2.2	68.9
鈴鹿第6	2.0	4.9	2.0	76.5
鈴鹿第7	6.9	5.2	0.9	63.8
鈴鹿第8	4.8	8.4	1.2	62.7
亀山第1	4.3	5.0	2.1	70.0
亀山第2	7.3	3.2	2.4	66.9

問56 今、住んでいる地域（地区、自治会など）を高齢者にとって暮らしやすい地域にするためには、どんなことが重要だと思いますか。（3つまで選択可）【N=1,183、1,255(第8期調査)】

高齢者にとって暮らしやすい地域にするために必要なことについては、「近所同士のつきあいを深める」が38.7%と最も高く、次いで「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」(31.1%)、「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」(21.4%)と続き、コミュニティ組織や緊急時対策、交流機会が重視されています。一方、「特にない」は18.5%となっています。

第8期調査と比較すると、「近所同士のつきあいを深める」が8.1ポイント、「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が5.9ポイント、「老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する」が5.1ポイント低下する一方、「特にない」は5.0ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「近所同士のつきあいを深める」が最も高くなっています。男性と『65～74歳女性』では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が、『75～84歳女性』では「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」が、『85歳以上女性』では「老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する」が続いています。

		合計	子ども世代との交流を促進	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいに集まれる場を、近所の人びとでつくり出す	地域の充実による日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の充実	ボランティアなど生活支援の活動	高齢者の移動手段を、確保する
男性	全体	558	9.3	14.2	40.0	15.6	17.0	11.8	5.2	12.4
	65～74歳	304	10.9	6.9	38.5	15.8	20.1	10.5	6.6	10.9
	75～84歳	202	6.9	22.3	42.6	15.8	11.9	11.9	3.5	13.4
	85歳以上	52	9.6	25.0	38.5	13.5	19.2	19.2	3.8	17.3
女性	全体	588	7.5	17.5	37.2	27.4	14.8	12.9	7.8	16.7
	65～74歳	311	8.0	13.2	36.0	27.3	17.0	12.9	7.7	15.4
	75～84歳	220	6.8	21.4	39.1	29.5	11.8	11.4	8.6	18.6
	85歳以上	57	7.0	26.3	36.8	19.3	14.0	19.3	5.3	15.8

		災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし
男性	全体	32.4	3.8	21.9
	65～74歳	36.2	3.3	21.7
	75～84歳	27.7	5.0	21.8
	85歳以上	28.8	1.9	23.1
女性	全体	30.8	1.2	15.0
	65～74歳	34.1	1.3	14.5
	75～84歳	28.2	1.4	13.6
	85歳以上	22.8	-	22.8

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「近所同士のつきあいを深める」が最も高く、「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が続いています。『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「子ども世代との交流を促進する」が14.0%と、他の世帯類型に比べて高くなっています。また、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』以外の世帯類型では「ふれあいサロンなど、近所で気軽に集まれる場を地域の人びとでつくり出す」が20%前後となっています。

	合計	子ども世代との交流を促進	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいや集まれる場を近所の人びとでつくり出す	地域の活動を充実する	民生委員・児童委員等の見守り活動の充実	ボランティアなど生活支援の活動	高齢者の移動手段を確保する
全体	1150	8.3	15.4	38.4	20.9	15.9	12.6	6.5	14.7
1人暮らし	185	3.8	14.6	29.7	22.2	16.2	15.7	4.3	14.1
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	525	8.8	15.4	41.0	22.7	15.0	13.3	6.5	17.0
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	50	14.0	10.0	50.0	10.0	18.0	14.0	4.0	4.0
息子・娘との 2世帯	246	9.3	15.9	36.6	18.7	18.3	8.5	8.1	13.0
その他	144	8.3	17.4	39.6	20.1	13.9	12.5	7.6	13.9

	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし
全体	31.3	2.6	18.5
1人暮らし	26.5	2.2	25.4
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	33.3	1.9	15.4
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	36.0	8.0	16.0
息子・娘との 2世帯	30.5	2.0	21.5
その他	29.9	4.9	16.7

日常生活圏域別クロス

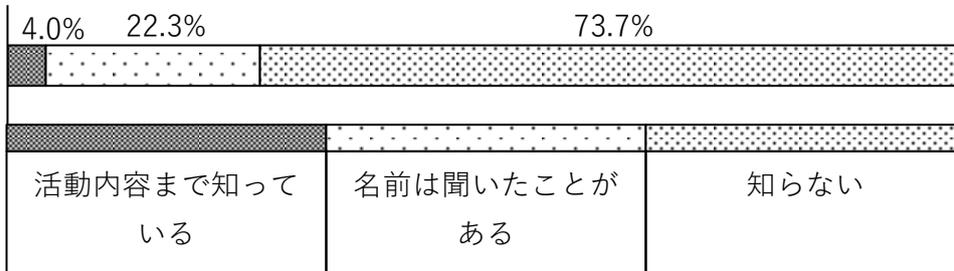
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第3』『亀山第1』では「災害など、緊急時の支え合い体制を充実する」が、その他の日常生活圏域では「近所同士のつきあいを深める」が最も高くなっています。

	合計	子ども世代との交流を促進する	老人クラブなど、高齢者同士の交流を促進する	近所同士のつきあいを深める	ふれあいに集まるなど、近所の人びとでつくり出す	地域の人の充実に日頃の見守りを充実する	民生委員・児童委員等の見守り・相談・支援活動の充実	ボランティアなど生活支援の活動をしてもらう	高齢者の移動手段を、確保する
全体	1147	8.3	15.9	38.8	21.4	15.6	12.4	6.5	14.4
鈴鹿第1	114	6.1	24.6	38.6	20.2	15.8	9.6	7.0	23.7
鈴鹿第2	144	8.3	15.3	41.0	21.5	13.9	14.6	5.6	16.0
鈴鹿第3	87	10.3	10.3	32.2	25.3	12.6	17.2	4.6	9.2
鈴鹿第4	98	7.1	12.2	46.9	25.5	18.4	15.3	6.1	7.1
鈴鹿第5	131	9.9	19.8	36.6	18.3	17.6	9.9	7.6	14.5
鈴鹿第6	100	9.0	15.0	32.0	25.0	14.0	17.0	8.0	14.0
鈴鹿第7	117	4.3	12.0	35.0	17.1	15.4	11.1	6.8	16.2
鈴鹿第8	86	9.3	14.0	40.7	23.3	16.3	12.8	2.3	18.6
亀山第1	140	9.3	20.0	35.0	21.4	16.4	9.3	7.9	12.1
亀山第2	130	9.2	12.3	48.5	19.2	15.4	10.0	6.9	11.5

	災害など、緊急時の支え合い体制を充実する	その他	特になし
全体	31.0	2.6	18.6
鈴鹿第1	28.1	1.8	11.4
鈴鹿第2	35.4	1.4	22.2
鈴鹿第3	36.8	1.1	21.8
鈴鹿第4	20.4	2.0	18.4
鈴鹿第5	34.4	4.6	17.6
鈴鹿第6	15.0	1.0	26.0
鈴鹿第7	33.3	3.4	17.9
鈴鹿第8	31.4	2.3	19.8
亀山第1	35.0	2.9	20.0
亀山第2	34.6	4.6	12.3

問57 地域における支え合い活動などが進むよう支援する専門職である生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）の事をご存知ですか。（1つを選択）【N=1,219】

生活支援コーディネーターの認知状況については、「知らない」が73.7%と約7割を占めています。「名前は聞いたことはある」は22.3%、「活動内容まで知っている」は4.0%となっています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「知らない」が最も高く、特に『鈴鹿第3』では81.7%と高くなっています。一方、「活動内容まで知っている」は『鈴鹿第8』では9.2%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

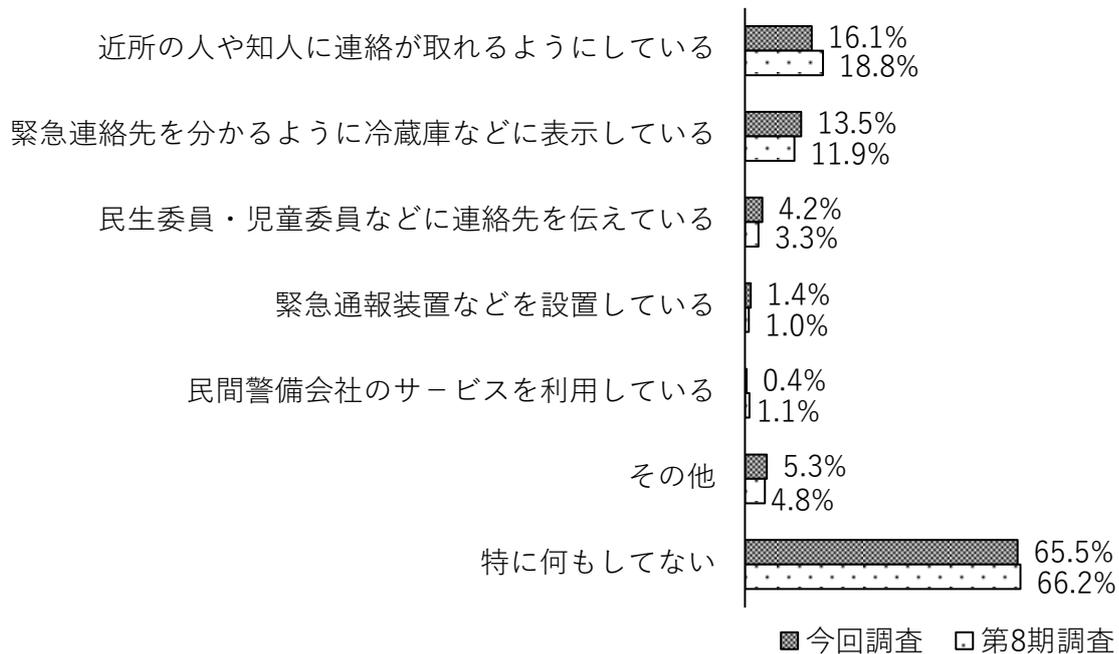
	合計	活動内容まで知っている	名前が聞いたことがある	知らない
全体	1181	4.1	22.3	73.7
鈴鹿第1	120	3.3	22.5	74.2
鈴鹿第2	146	5.5	17.8	76.7
鈴鹿第3	93	1.1	17.2	81.7
鈴鹿第4	102	5.9	25.5	68.6
鈴鹿第5	136	2.9	27.9	69.1
鈴鹿第6	106	3.8	21.7	74.5
鈴鹿第7	119	2.5	26.1	71.4
鈴鹿第8	87	9.2	25.3	65.5
亀山第1	141	5.0	17.7	77.3
亀山第2	131	2.3	22.1	75.6

問58 急病時などいざという時のために準備していることがありますか。(複数選択可)

【N=1,218、1,286(第8期調査)】

急病時などいざという時のために準備していることについては、「特に何もしていない」が65.5%と最も高くなっています。準備していることとしては、「近所の人や知人に連絡が取れるようにしている」が16.1%、「緊急連絡先を分かるように冷蔵庫などに表示している」が13.5%などとなっています。

第8期調査と比較すると、「緊急連絡先を分かるように冷蔵庫などに表示している」が1.6ポイント上昇する一方、「近所の人や知人に連絡が取れるようにしている」は2.7ポイント低下しています。

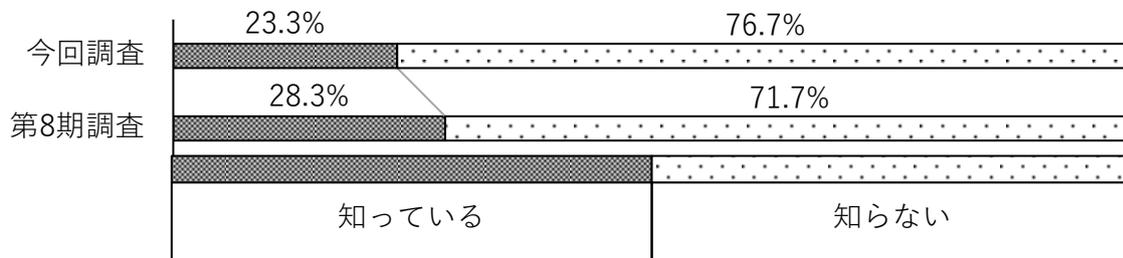


問59 災害時要援護者支援活動を知っていますか。(1つを選択)

【N=1,221、1,290(第8期調査)】

災害時要援護者支援活動の認知状況については、「知っている」が23.3%、「知らない」が76.7%となっています。

第8期調査と比較すると、「知らない」が5.0ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

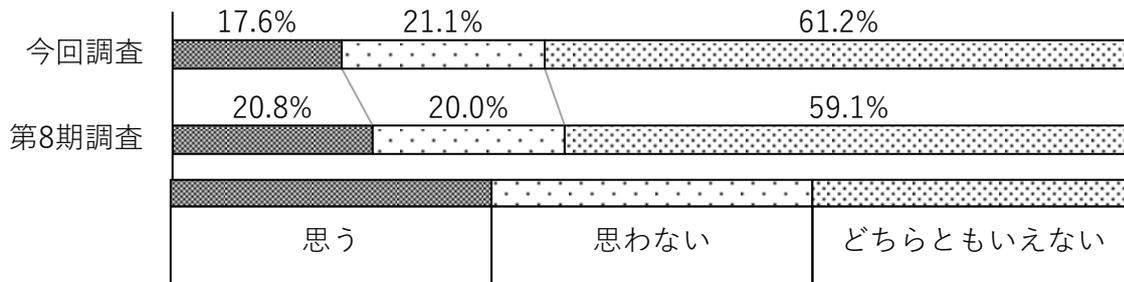
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第8』では「知っている」が28.6%と、他の日常生活圏域に比べて認知度は最も高くなっています。一方、『鈴鹿第3』では「知らない」が81.1%と高くなっています。

	合計	知っている	知らない
全体	1180	23.4	76.6
鈴鹿第1	118	20.3	79.7
鈴鹿第2	147	23.1	76.9
鈴鹿第3	95	18.9	81.1
鈴鹿第4	103	25.2	74.8
鈴鹿第5	132	21.2	78.8
鈴鹿第6	108	25.9	74.1
鈴鹿第7	119	24.4	75.6
鈴鹿第8	84	28.6	71.4
亀山第1	140	25.0	75.0
亀山第2	134	22.4	77.6

問60 災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思いませんか。（1つを選択）【N=1,202、1,287(第8期調査)】

災害時要援護者支援活動において、「支援を必要とする人」の支援者になってもよいと思うかどうかについては、「どちらともいえない」が61.2%と最も高くなっています。「思う」は17.6%、「思わない」は21.1%となっています。

第8期調査と比較すると、「思う」が3.2ポイント低下しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第7』『亀山第1』では「思う」がそれぞれ22.6%、22.1%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

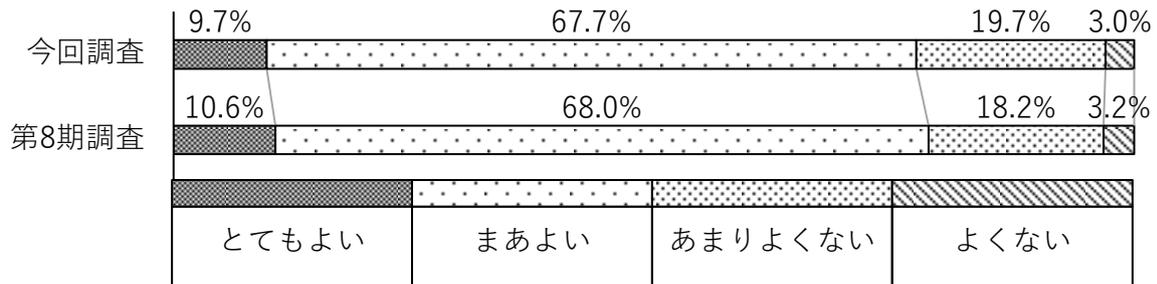
	合計	思う	思わない	どちらともいえない
全体	1164	17.9	20.9	61.3
鈴鹿第1	116	19.8	22.4	57.8
鈴鹿第2	147	16.3	23.1	60.5
鈴鹿第3	91	17.6	22.0	60.4
鈴鹿第4	105	15.2	20.0	64.8
鈴鹿第5	135	15.6	19.3	65.2
鈴鹿第6	105	14.3	24.8	61.0
鈴鹿第7	115	22.6	24.3	53.0
鈴鹿第8	83	13.3	18.1	68.7
亀山第1	136	22.1	15.4	62.5
亀山第2	131	19.8	19.8	60.3

7 健康について

問61 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(1つを選択)【N=1,253、1,348(第8期調査)】

健康状態については、「とてもよい」(9.7%)、「まあよい」(67.7%)と回答した、『健康だと思っている人』が77.4%に上がっています。一方、「あまりよくない」(19.7%)、「よくない」(3.0%)と回答した、『健康ではないと思っている人』は22.7%となっています。

第8期調査と比較すると、『健康だと思っている人』が1.2ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

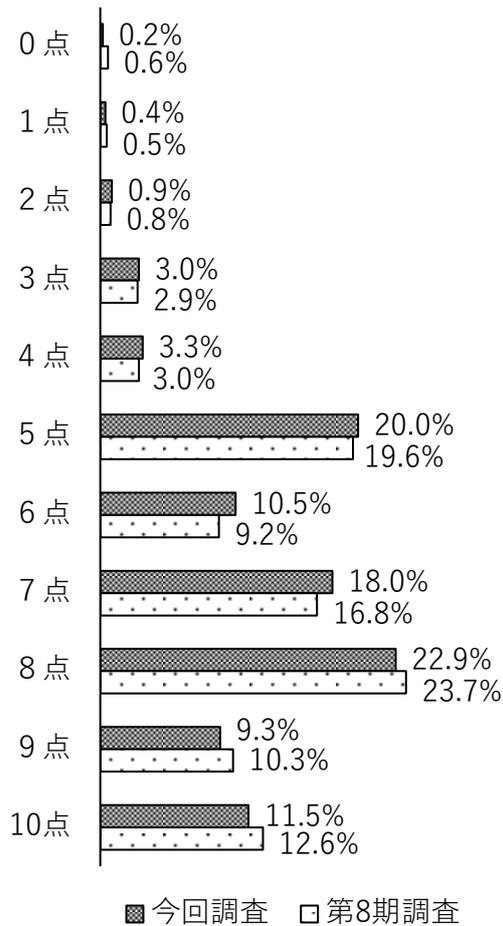
性・年齢別にみると、『健康だと思っている人』は男女ともに『64～74歳』では80%以上を占めています。一方、男女ともに『85歳以上』では『健康ではないと思っている人』は40%以上を占めています。

		合計	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない
男性	全体	582	9.6	67.4	18.9	4.1
	65～74歳	316	12.3	69.6	16.5	1.6
	75～84歳	209	7.2	67.5	19.1	6.2
	85歳以上	57	3.5	54.4	31.6	10.5
女性	全体	626	10.1	69.2	19.3	1.4
	65～74歳	322	12.1	72.7	14.6	0.6
	75～84歳	242	8.7	68.2	20.2	2.9
	85歳以上	62	4.8	54.8	40.3	-

問62 あなたは、現在どの程度幸せですか。(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)【N=1,222、1,322(第8期調査)】

現在の幸福感については、「8点」が22.9%と最も高く、次いで「5点」(20.0%)、「7点」(18.0%)と続いています。「6点」以上は合わせて72.2%、「5点」以下は27.8%となっています。

第8期調査と比較すると、「8点」から「10点」と「0点」「1点」が低下し、「2点」から「7点」が上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳男性』と女性で「6点」以上が70%を超えています。特に『85歳以上女性』では79.7%と高くなっています。

		合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
男性	全体	575	0.3	0.2	1.4	4.0	3.1	22.8	12.7	19.0	19.0	7.8	9.7
	65～74歳	313	-	-	1.6	4.2	3.8	19.2	10.9	22.4	21.7	7.7	8.6
	75～84歳	207	-	-	1.0	3.9	2.4	27.5	13.5	16.9	15.9	8.7	10.1
	85歳以上	55	3.6	1.8	1.8	3.6	1.8	25.5	20.0	7.3	14.5	5.5	14.5
女性	全体	608	0.2	0.3	0.3	2.0	3.3	16.8	8.7	17.4	26.8	10.5	13.7
	65～74歳	312	0.3	0.6	0.6	1.9	4.2	14.7	7.4	18.3	29.5	11.2	11.2
	75～84歳	237	-	-	-	1.3	2.5	20.3	9.3	17.3	25.7	8.9	14.8
	85歳以上	59	-	-	-	5.1	1.7	13.6	13.6	13.6	16.9	13.6	22.0

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、『夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)』『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』『息子・娘との2世帯』では「6点」以上が70%を超えています。一方、『1人暮らし』では「5点」以下は40.3%となっています。

	合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
全体	1188	0.2	0.3	0.9	3.1	3.4	20.1	10.5	18.3	22.7	9.1	11.4
1人暮らし	194	1.0	-	2.1	5.2	5.7	26.3	13.9	14.9	17.0	5.7	8.2
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	535	-	0.7	0.7	2.1	2.6	17.6	10.8	18.7	26.2	10.3	10.3
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	54	-	-	-	-	3.7	11.1	7.4	20.4	31.5	7.4	18.5
息子・娘との 2世帯	251	-	-	0.8	2.8	3.6	19.9	10.0	17.5	19.9	10.4	15.1
その他	154	-	-	0.6	5.8	2.6	24.7	7.1	21.4	19.5	7.8	10.4

認定状況別クロス

認定状況別にみると、『事業対象者』では「6点」以上が100%となっています。一方、『わからない』では「5点」以下は50.0%となっています。

	合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
全体	1180	0.2	0.3	0.8	3.0	3.3	19.9	10.3	18.3	23.1	9.1	11.7
要支援1	37	-	2.7	-	5.4	5.4	21.6	18.9	10.8	13.5	13.5	8.1
要支援2	22	-	4.5	-	-	9.1	9.1	18.2	22.7	31.8	-	4.5
事業対象者	4	-	-	-	-	-	-	-	25.0	50.0	-	25.0
受けていない	1091	0.2	0.2	0.9	2.6	3.2	19.9	10.0	18.6	23.4	9.3	11.8
わからない	26	-	-	-	19.2	-	30.8	7.7	11.5	11.5	3.8	15.4

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第2』『鈴鹿第8』以外の日常生活圏域では「6点」以上が70%を超えています。特に『鈴鹿第6』では77.2%と高くなっています。

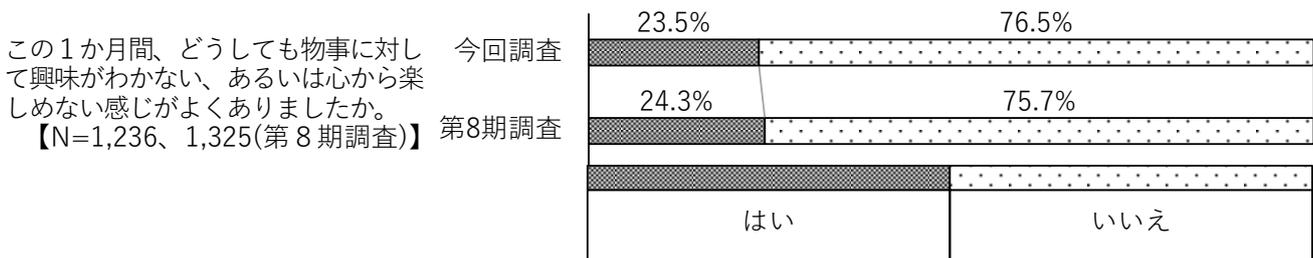
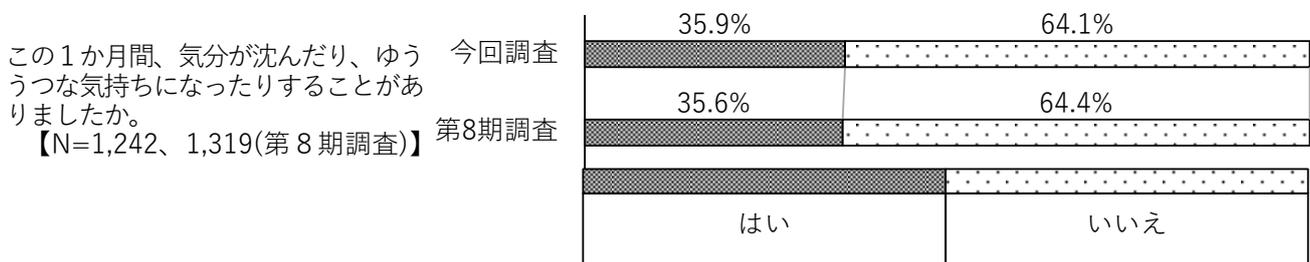
	合計	0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点
全体	1184	0.2	0.3	0.8	3.0	3.3	19.9	10.3	18.3	22.9	9.3	11.7
鈴鹿第1	119	-	0.8	-	2.5	-	25.2	9.2	16.0	21.8	6.7	17.6
鈴鹿第2	143	-	-	1.4	4.9	6.3	19.6	11.9	17.5	23.1	8.4	7.0
鈴鹿第3	94	1.1	-	-	1.1	1.1	23.4	12.8	18.1	28.7	8.5	5.3
鈴鹿第4	104	-	1.0	1.0	3.8	4.8	16.3	8.7	19.2	24.0	8.7	12.5
鈴鹿第5	134	-	-	1.5	2.2	3.7	17.2	9.7	21.6	25.4	6.7	11.9
鈴鹿第6	109	-	-	1.8	5.5	3.7	11.9	11.0	14.7	23.9	13.8	13.8
鈴鹿第7	126	-	-	2.4	1.6	1.6	20.6	11.1	21.4	22.2	4.8	14.3
鈴鹿第8	83	1.2	-	-	6.0	3.6	28.9	7.2	19.3	18.1	10.8	4.8
亀山第1	137	-	0.7	-	3.6	3.6	16.1	10.2	20.4	19.0	13.1	13.1
亀山第2	135	-	-	-	-	3.7	23.0	10.4	14.8	23.0	11.9	13.3

問63 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。
(1つをを選択)

問64 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(1つをを選択)

気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった人(「はい」と回答)は35.9%となっています。また、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった人(「はい」と回答)は23.5%となっています。

第8期調査と比較すると、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがあった人にほとんど変化はみられません。一方、物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくあった人は0.8ポイント低下しています。



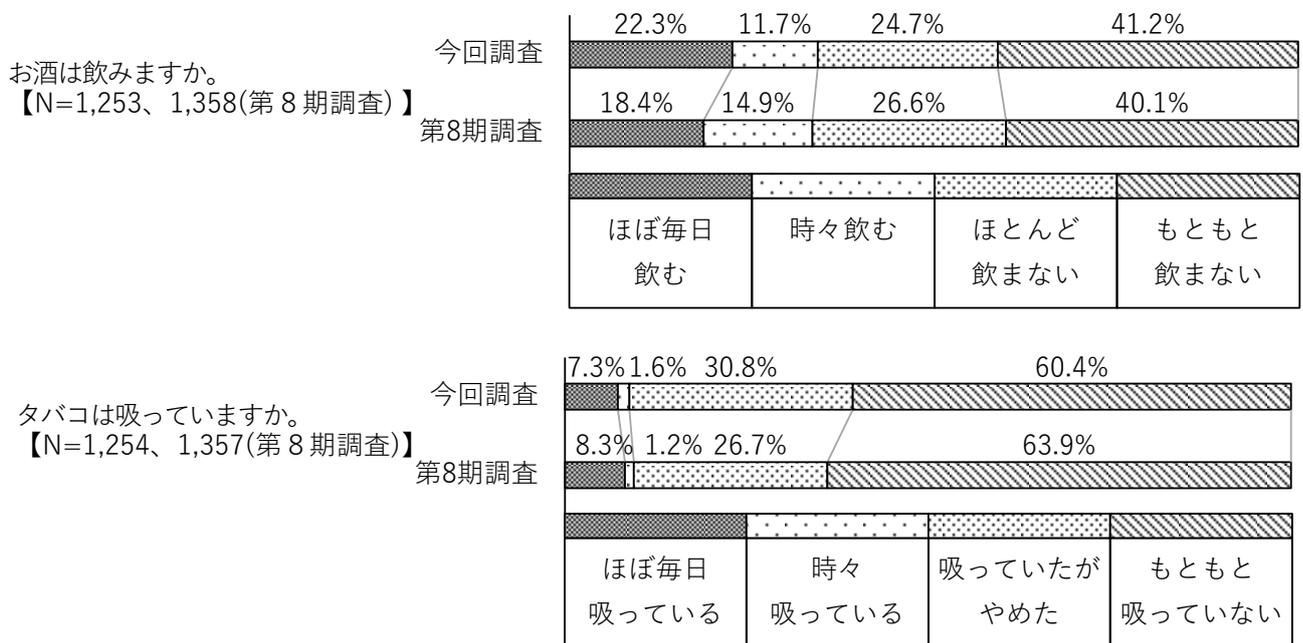
問65 お酒は飲みますか。(1つをを選択)

問66 タバコは吸っていますか。(1つをを選択)

飲酒状況については、「もともと飲まない」が41.2%と最も高く、次いで「ほとんど飲まない」が24.7%と続いています。一方、お酒を「ほぼ毎日飲む」(22.3%)、「時々飲む」(11.7%)と回答した『飲酒習慣のある人』は34.0%となっています。

喫煙状況については、「もともと吸っていない」が60.4%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が30.8%と続いています。一方、タバコを「ほぼ毎日吸っている」(7.3%)、「時々吸っている」(1.6%)と回答した『喫煙習慣のある人』は8.9%となっています。

第8期調査と比較すると、『飲酒習慣のある人』は0.7ポイント上昇しています。一方、『喫煙習慣のある人』は0.6ポイント低下しています。

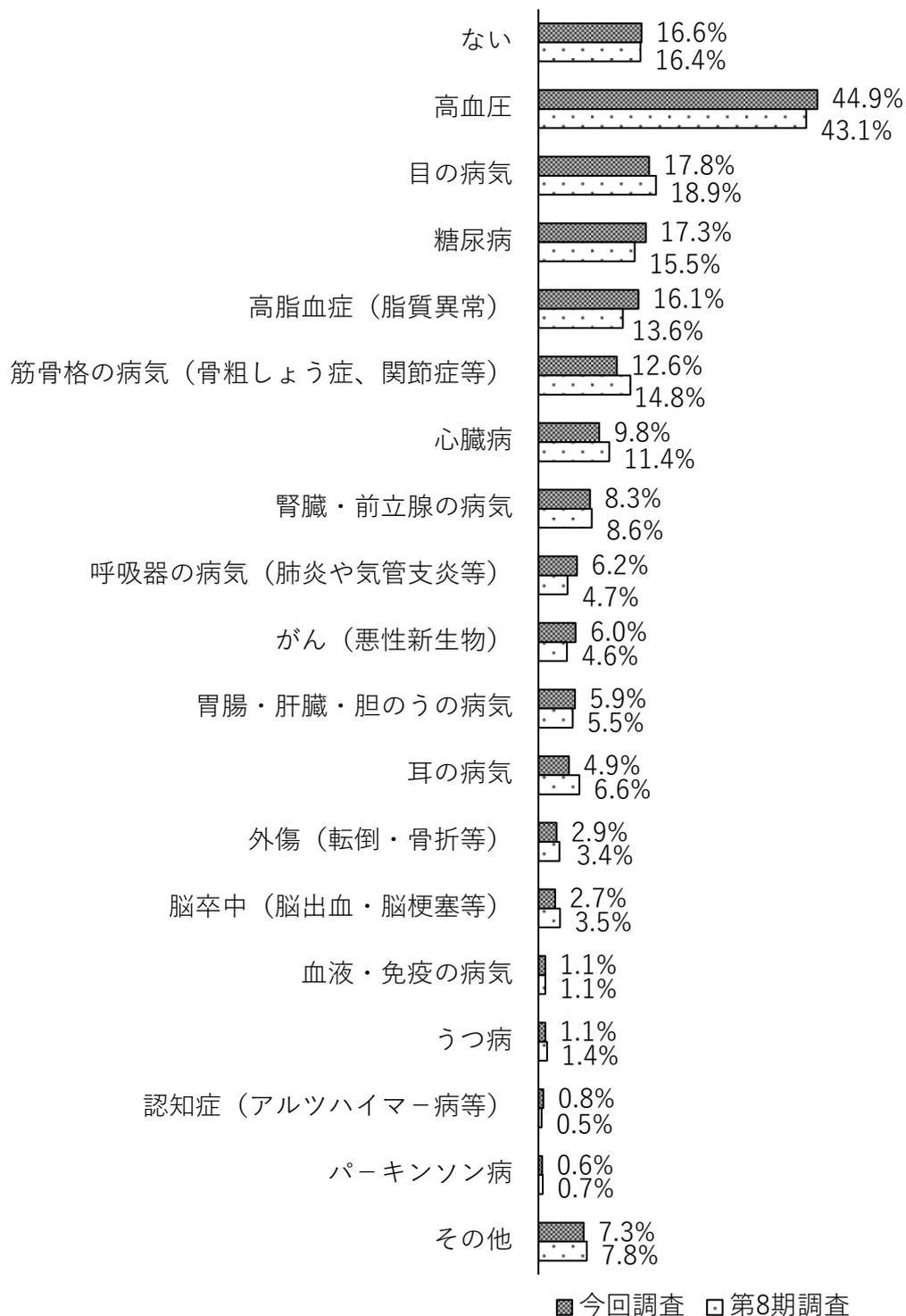


問67 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数選択可)

【N=1,227、1,326(第8期調査)】

現在治療中、または後遺症のある病気については、「高血圧」が44.9%と最も高く、次いで「目の病気」(17.8%)、「糖尿病」(17.3%)と続いています。一方、「ない」と回答した人は16.6%となっています。

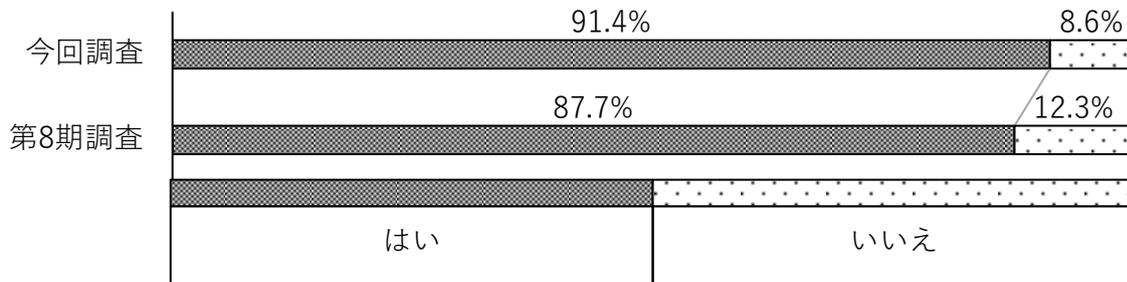
第8期調査と比較すると、「高脂血症(脂質異常)」が2.5ポイント、「高血圧」「糖尿病」が1.8ポイント、「呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)」が1.5ポイント、「がん(悪性新生物)」が1.4ポイント上昇しています。



問68 「かかりつけ医（主治医）」または、いつもかかっている医療機関がありますか。
 （1つを選択）【N=1,249、1,349(第8期調査)】

「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がある人(「はい」と回答)は91.4%、ない人は8.6%となっています。

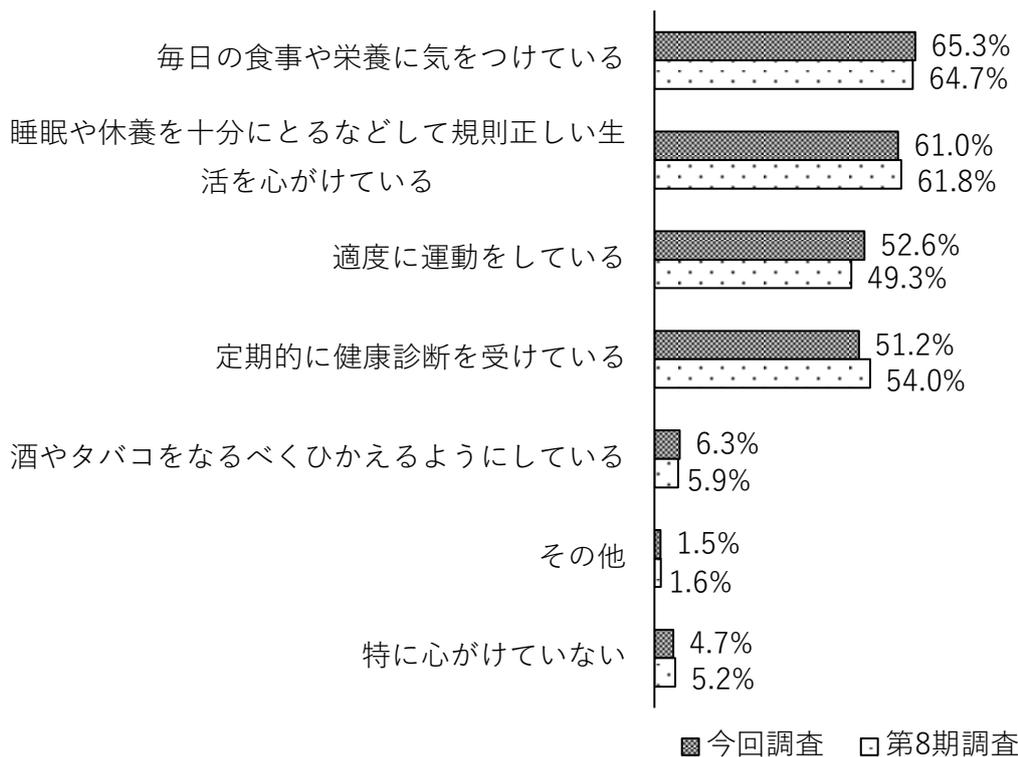
第8期調査と比較すると、「かかりつけ医」または、いつもかかっている医療機関がある人(「はい」と回答)が3.7ポイント上昇しています。



問69 日頃、健康や介護予防（介護が必要な状態にならないようにすること）のためにどんなことを心がけていますか。（複数選択可）【N=1,248、1,347(第8期調査)】

日頃、健康や介護予防のために心がけていることについては、「毎日の食事や栄養に気をつけている」が65.3%と最も高く、次いで「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」(61.0%)、「適度に運動をしている」(52.6%)、「定期的に健康診断を受けている」(51.2%)と続いています。一方、「特に心がけていない」は4.7%となっています。

第8期調査と比較すると、「適度に運動をしている」が3.3ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳男性』『85歳以上男性』では「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」が、『75～84歳男性』では「適度に運動をしている」が最も高くなっています。女性では「毎日の食事や栄養に気をつけている」が最も高くなっています。

		合計	を毎 つ日 けの 食事 や 栄養 に 気 を つ け て い る	生 活 な ど を 心 が け て い る	睡 眠 や 休 養 を 十 分 に と る	適 度 に 運 動 を し て い る	酒 や た ば こ を 吸 う な ら ず い く	定 期的 に 健 康 診 断 を 受 け て い る	そ の 他	特 に 心 が け て い な い
男 性	全体	580	54.3	57.1	55.0	11.0	51.7	2.6	5.5	
	65～74歳	316	54.7	57.0	54.4	11.4	50.9	1.9	6.0	
	75～84歳	207	54.1	58.0	60.9	10.6	52.7	4.3	3.9	
	85歳以上	57	52.6	54.4	36.8	10.5	52.6	-	8.8	
女 性	全体	624	75.5	65.1	50.8	1.8	51.4	0.6	4.0	
	65～74歳	323	76.5	65.0	50.5	2.2	54.5	0.9	4.6	
	75～84歳	240	75.8	65.8	53.3	1.7	50.0	-	2.9	
	85歳以上	61	68.9	62.3	42.6	-	41.0	1.6	4.9	

問69で「特に心がけていない」と回答した方にお伺いします。

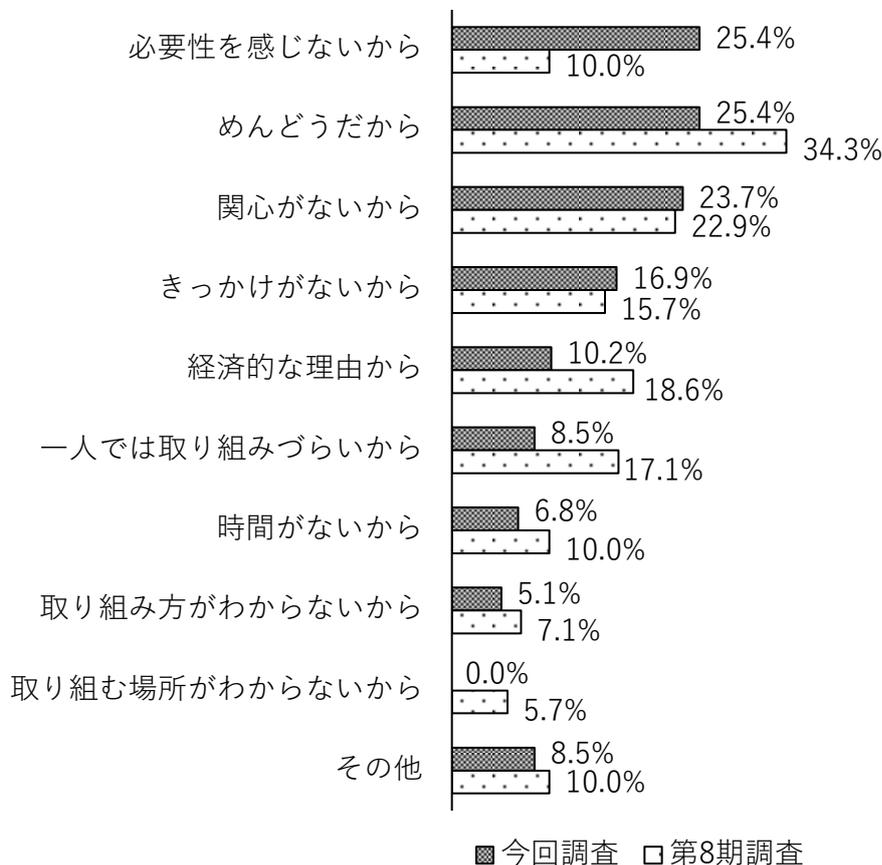
問69—② 健康づくりや介護予防を心がけていない理由は何ですか。(複数選択可)

【N=59、70(第8期調査)】

健康づくりや介護予防を心がけていない理由については、「必要性を感じないから」「めんどうだから」が25.4%と同率で高く、次いで「関心がないから」(23.7%)、「きっかけがないから」(16.9%)と続いています。

「経済的な理由」(10.2%)や「一人では取り組みづらいから」(8.5%)、「取り組み方がわからないから」(5.1%)など、介護予防に取り組む意思があるのに取り組んでいないと思われる人は合わせて23.8%あります。

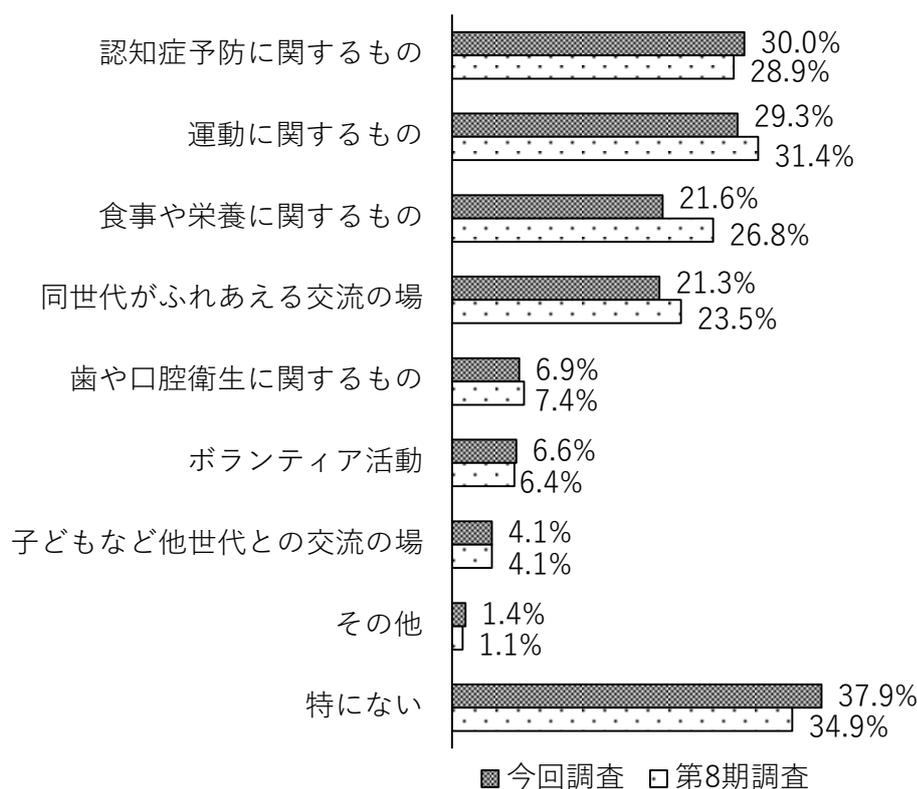
第8期調査と比較すると、「必要性を感じないから」が15.4ポイント上昇する一方、「めんどうだから」が8.9ポイント、「一人では取り組みづらいから」が8.6ポイント、「経済的な理由から」が8.4ポイント低下しています。



問70 介護予防のために、地域でどのような活動があれば参加したいですか。(複数選択可)
【N=1,197、1,305(第8期調査)】

介護予防のために地域であれば参加したい活動については、「特にない」が37.9%と最も高くなっています。参加したい活動としては、「認知症予防に関するもの」が30.0%と最も高く、次いで「運動に関するもの」(29.3%)、「食事や栄養に関するもの」(21.6%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「認知症予防に関するもの」が1.1ポイント上昇する一方、「食事や栄養に関するもの」は5.2ポイント、「同世代がふれあえる交流の場」は2.2ポイント、「運動に関するもの」は2.1ポイント低下しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳女性』では「運動に関するもの」が、『75～84歳女性』『85歳以上女性』では「認知症予防に関するもの」が最も高くなっていますが、男性では「特にない」が最も高くなっています。

		合計	も食事や栄養に関するもの	運動に関するもの	交流の場がふれあえる	子どもなど他世代との交流の場	ボランティア活動	も認知症予防に関するもの	歯や口腔衛生に関するもの	その他	特にない
男性	全体	575	12.3	26.6	16.9	3.7	8.0	20.9	7.0	1.6	46.8
	65～74歳	313	13.7	26.8	14.1	3.5	10.5	22.7	6.4	1.0	45.4
	75～84歳	208	10.1	28.4	21.2	3.8	5.8	18.8	8.7	1.9	46.2
	85歳以上	54	13.0	18.5	16.7	3.7	1.9	18.5	3.7	3.7	57.4
女性	全体	585	30.1	32.3	26.0	4.6	5.5	38.6	6.7	1.2	29.2
	65～74歳	301	30.9	34.9	22.6	5.0	6.0	34.6	4.7	0.3	30.2
	75～84歳	228	31.1	31.6	32.5	5.3	5.7	43.9	9.6	0.9	25.9
	85歳以上	56	21.4	21.4	17.9	-	1.8	39.3	5.4	7.1	37.5

認定状況別クロス

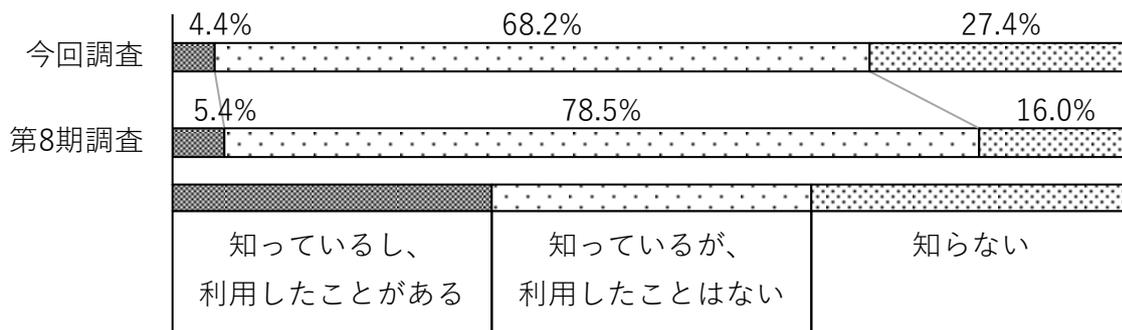
認定状況別にみると、『事業対象者』では「運動に関するもの」が、その他の認定状況では「特にない」が最も高くなっています。

	合計	も食事や栄養に関するもの	運動に関するもの	交流の場がふれあえる	子どもなど他世代との交流の場	ボランティア活動	も認知症予防に関するもの	歯や口腔衛生に関するもの	その他	特にない
全体	1161	21.4	29.6	21.4	4.2	6.8	29.9	7.1	1.5	37.9
要支援1	35	20.0	25.7	22.9	2.9	2.9	31.4	11.4	5.7	40.0
要支援2	23	8.7	17.4	21.7	-	-	17.4	4.3	8.7	47.8
事業対象者	3	-	66.7	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3
受けていない	1075	22.2	30.2	21.4	4.5	7.3	30.3	7.0	1.1	37.2
わからない	25	4.0	16.0	16.0	-	-	24.0	4.0	4.0	56.0

問71 介護予防・日常生活支援総合事業のサービス（訪問型サービス、通所型サービス）とは、要支援の方などに対するサービスです。あなたは、このサービスを利用したことがありますか。（1つを選択）【N=1,225、1,254(第8期調査)】

介護予防・日常生活支援総合事業のサービスの利用状況については、「知っているが、利用したことはない」が68.2%を占め、「知っているし、利用したことがある」は4.4%となっています。一方、「知らない」は27.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「知っているが、利用したことはない」が10.3ポイント低下する一方、「知らない」は11.4ポイント上昇しています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、「知っているし、利用したことがある」は『要支援2』では62.5%、『事業対象者』では50.0%と高くなっています。一方、『わからない』では「知らない」が61.5%と、他の認定状況に比べて高くなっています。

	合計	あ る 利 用 し て い る こ と が	な い 利 用 し て い る こ と が	知 ら な い
全体	1186	4.1	68.6	27.2
要支援1	38	44.7	44.7	10.5
要支援2	24	62.5	33.3	4.2
事業対象者	4	50.0	50.0	-
受けていない	1094	1.2	71.2	27.6
わからない	26	7.7	30.8	61.5

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「知っているが、利用したことはない」が最も高くなっています。一方、「知らない」は『鈴鹿第7』では31.1%、『亀山第2』では30.1%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

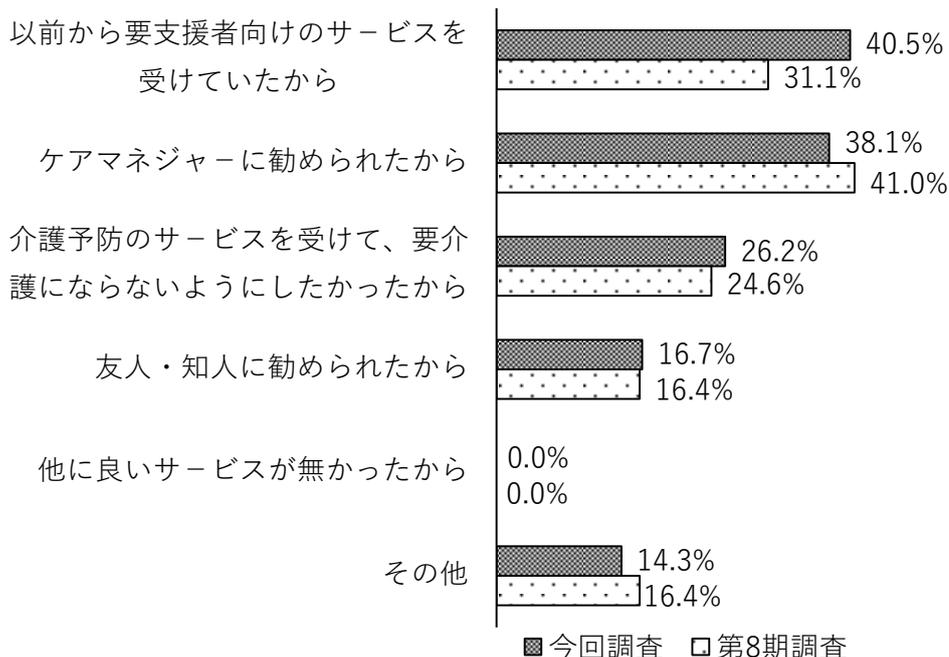
	合計	ある 利用 して いる とし が、	な い 利 用 し て い る が、	知 ら な い
全体	1188	4.3	68.3	27.4
鈴鹿第1	122	5.7	73.0	21.3
鈴鹿第2	147	2.7	70.1	27.2
鈴鹿第3	91	5.5	67.0	27.5
鈴鹿第4	105	4.8	73.3	21.9
鈴鹿第5	135	5.2	66.7	28.1
鈴鹿第6	109	4.6	66.1	29.4
鈴鹿第7	122	2.5	66.4	31.1
鈴鹿第8	83	1.2	71.1	27.7
亀山第1	141	4.3	66.7	29.1
亀山第2	133	6.0	63.9	30.1

問71で「知っているし、利用したことがある」と回答した方にお伺いします。

問71-② 利用しようと思ったきっかけは何ですか。(複数選択可)【N=42、61(第8期調査)】

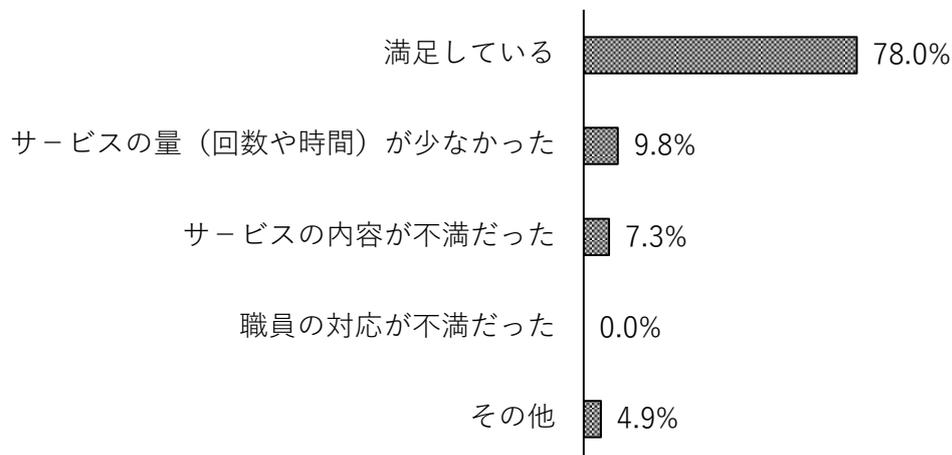
サービスを利用しようと思ったきっかけについては、「以前から要支援者向けのサービスを受けていたから」が40.5%と最も高く、次いで「ケアマネジャーに勧められたから」(38.1%)、「介護予防のサービスを受けて、要介護にならないようにしたかったから」(26.2%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「以前から要支援者向けのサービスを受けていたから」が9.4ポイント上昇する一方、「ケアマネジャーに勧められたから」は2.9ポイント低下しています。



問71-③ 利用してみて、いかがでしたか。(複数選択可)【N=41】

サービスを利用した感想については、「満足している」が78.0%と突出して高くなっています。「サービスの量(回数や時間)が少なかった」は9.8%、「サービスの内容が不満だった」は7.3%となっています。

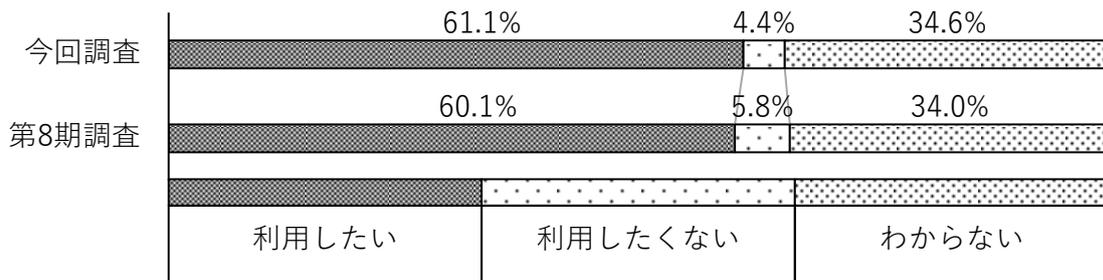


問71で「知っているが、利用したことはない」と回答した方にお伺いします。

問71-④ お身体の状態が悪くなり始めたとき、介護予防・日常生活支援総合事業のサービスを利用してみたいと思いますか。(1つを選択)【N=804、958(第8期調査)】

身体の状態が悪くなり始めたときの介護予防・日常生活支援総合事業のサービス利用意向については、「利用したい」が61.1%を占めており、「利用したくない」は僅か4.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「利用したい」が1.0ポイント上昇しています。



認定状況別クロス

認定状況別にみると、「利用したい」は『事業対象者』では100.0%となっています。

	合計	利用したい	利用したくない	わからない
全体	786	61.5	4.5	34.1
要支援1	15	60.0	13.3	26.7
要支援2	8	62.5	12.5	25.0
事業対象者	2	100.0	-	-
受けていない	754	61.3	4.2	34.5
わからない	7	71.4	-	28.6

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「利用したい」は『鈴鹿第2』では70.0%と高くなっています。

	合計	利用したい	利用したくない	わからない
全体	780	61.2	4.5	34.4
鈴鹿第1	84	63.1	2.4	34.5
鈴鹿第2	100	70.0	5.0	25.0
鈴鹿第3	58	63.8	5.2	31.0
鈴鹿第4	73	54.8	4.1	41.1
鈴鹿第5	87	62.1	6.9	31.0
鈴鹿第6	70	54.3	5.7	40.0
鈴鹿第7	78	57.7	9.0	33.3
鈴鹿第8	54	59.3	1.9	38.9
亀山第1	93	65.6	2.2	32.3
亀山第2	83	56.6	2.4	41.0

8 今後の介護や在宅医療について

問72 今後、仮にあなたが介護が必要な状態になった場合、どのようにしたいですか。
 (1つを選択) 【N=1,218、1,260(第8期調査)】

今後、介護が必要な状態になった場合に希望する介護については、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が57.6%と最も高く、次いで「施設に入所・入居したい」が17.6%、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」が11.0%と続いています。
 第8期調査と比較すると、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が1.5ポイント低下しています。

今回調査	11.0%	57.6%	17.6%	0.3%	13.5%
第8期調査	10.3%	59.1%	17.6%	0.7%	12.2%
	家族だけに 介護してもらい、 自宅で生活を 続けたい	介護サービス を利用して、 自宅で生活を 続けたい	施設に入所・ 入居したい	その他	わからない

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も高くなっており、男性より女性の割合が高くなっています。一方、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」は女性より男性の割合が高くなっています。また、『85歳以上男性』では「施設に入所・入居したい」が23.2%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	をもち 続けたい 家族だけ に自宅で 介護して 生活	継続して 介護サー ビスを 活用	施設に 入所・ 入居	その他	わから ない
男性	全体	576	14.9	54.9	15.5	0.3	14.4
	65～74歳	313	13.4	53.0	17.3	0.3	16.0
	75～84歳	207	15.9	59.9	10.6	-	13.5
	85歳以上	56	19.6	46.4	23.2	1.8	8.9
女性	全体	605	6.9	61.7	19.2	0.2	12.1
	65～74歳	313	6.4	59.7	21.4	0.3	12.1
	75～84歳	233	5.2	64.4	18.9	-	11.6
	85歳以上	59	16.9	61.0	8.5	-	13.6

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も高く、特に『その他』では63.4%と高くなっています。一方、『1人暮らし』では「施設に入所・入居したい」が24.5%と、他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	をもちたい 家族だけに 介護して 生活	続けて、サ ービスを 利用	施設に 入所・ 入居し	その他	わからない
全体	1189	10.8	57.9	17.6	0.3	13.4
1人暮らし	192	2.6	54.2	24.5	0.5	18.2
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	545	12.3	58.7	18.3	0.2	10.5
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	53	18.9	52.8	11.3	-	17.0
息子・娘との 2世帯	254	13.4	56.7	15.7	0.4	13.8
その他	145	9.0	63.4	11.0	0.7	15.9

認定状況別クロス

認定状況別にみると、いずれも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も高く、特に『事業対象者』では75.0%と高くなっています。また、『事業対象者』では「施設に入所・入居したい」も25.0%と、他の認定状況に比べて高くなっています。一方、『わからない』では「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」が23.1%と、他の認定状況に比べて高くなっています。

	合計	をもちたい 家族だけに 介護して 生活	続けて、サ ービスを 利用	施設に 入所・ 入居し	その他	わからない
全体	1181	11.1	58.2	17.1	0.3	13.3
要支援1	37	10.8	67.6	16.2	-	5.4
要支援2	24	12.5	58.3	16.7	-	12.5
事業対象者	4	-	75.0	25.0	-	-
受けていない	1090	10.8	58.2	17.3	0.3	13.4
わからない	26	23.1	42.3	7.7	3.8	23.1

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が最も高く、特に『鈴鹿第4』『鈴鹿第5』『鈴鹿第8』では60%以上となっています。一方、『鈴鹿第3』『鈴鹿第7』『亀山第2』では「施設に入所・入居したい」が20%以上と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

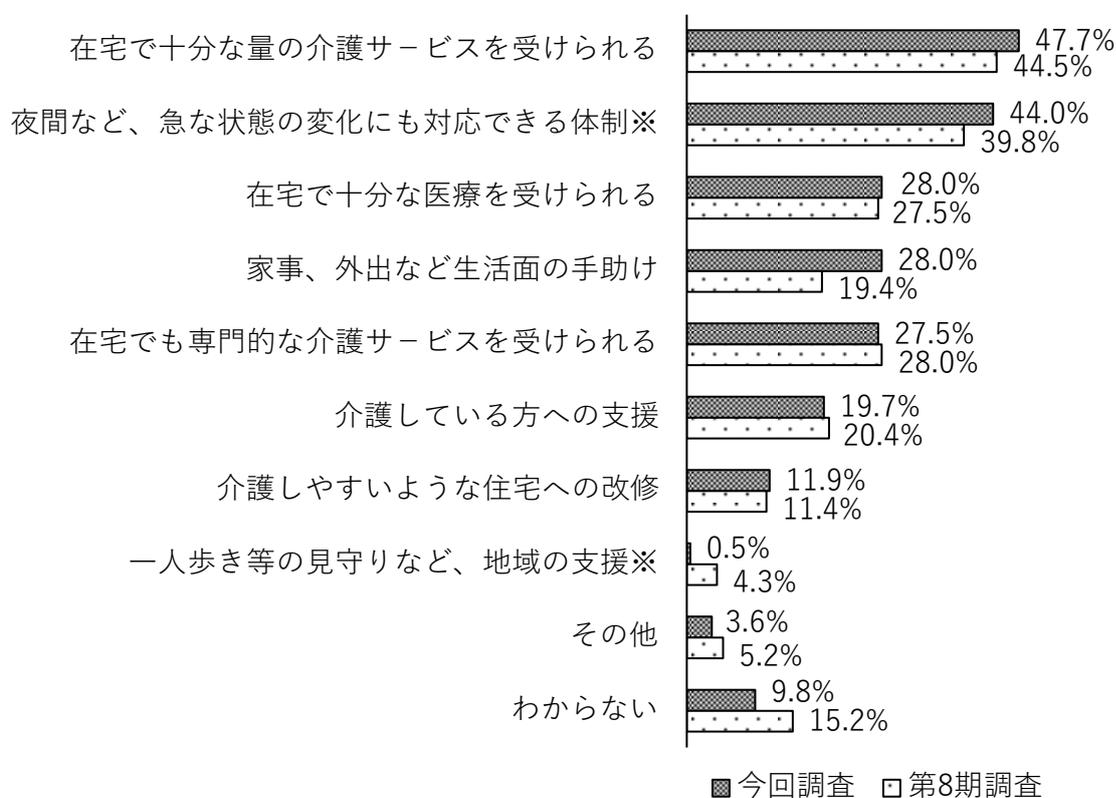
	合計	をもちたい 家族だけに 自宅で生活	続けて、サ ービスを利 用	施設に入 所・入居 し	その他	わからない
全体	1182	11.1	57.6	17.6	0.3	13.4
鈴鹿第1	121	12.4	56.2	19.0	-	12.4
鈴鹿第2	148	15.5	56.1	14.9	0.7	12.8
鈴鹿第3	92	9.8	51.1	22.8	1.1	15.2
鈴鹿第4	104	12.5	61.5	15.4	1.0	9.6
鈴鹿第5	135	11.1	60.7	17.0	-	11.1
鈴鹿第6	110	10.0	55.5	14.5	-	20.0
鈴鹿第7	121	9.1	56.2	21.5	-	13.2
鈴鹿第8	83	8.4	65.1	12.0	-	14.5
亀山第1	141	8.5	58.9	15.6	0.7	16.3
亀山第2	127	11.8	55.9	22.8	-	9.4

問72で「施設に入所・入居したい」と回答した方にお伺いします。

問72-② どのような条件を整えば、自宅で生活が続けることができると思いますか。
 (3つまで選択可)【N=193、211(第8期調査)】

どのような条件を整えば、自宅で生活が続けることができるかについては、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が47.7%と最も高く、次いで「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」(44.0%)、「在宅で十分な医療を受けられる」「家事、外出など生活面の手助け」(28.0%)、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」(27.5%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「家事、外出など生活面の手助け」が8.6ポイント、「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が4.2ポイント、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が3.2ポイント上昇しています。一方、「一人歩き等の見守りなど、地域の支援」は3.8ポイント低下しています。

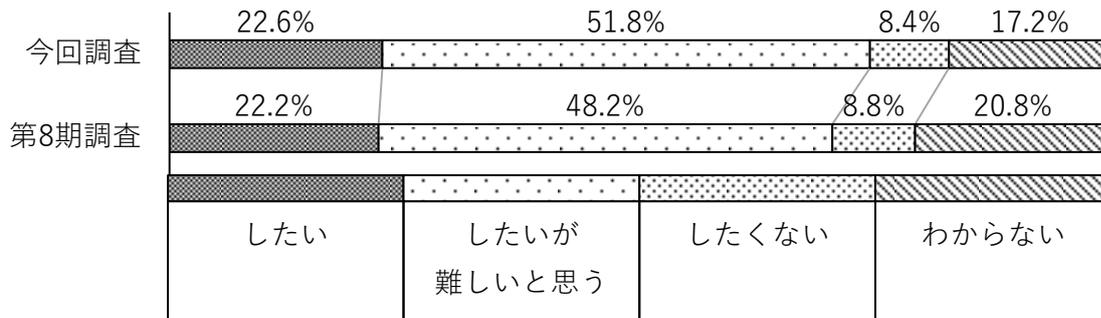


※第8期調査選択肢：「夜間など、急な状態の変化にも安心できる体制」「徘徊(はいかい)の見守りなど、地域の支援」

問73 今後、自身の身体の状態が悪くなり、介護が必要となったとき、自宅で最期まで療養したいと思いませんか。(1つを選択)【N=1,230、1,271(第8期調査)】

今後、介護が必要になったときに自宅で最期まで療養したいと思うかどうかについては、「したいが難しいと思う」が51.8%と過半数を占め、「したい」は22.6%、「したくない」は8.4%となっています。

第8期調査と比較すると、「したいが難しいと思う」が3.6ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「したいが難しいと思う」が最も高くなっています。また、いずれの年齢も「したい」は女性より男性で高く、「したくない」は男性より女性で高くなっています。

		合計	したい	したいが難しい	したくない	わからない
男性	全体	581	26.7	50.3	6.4	16.7
	65～74歳	315	22.2	48.9	9.2	19.7
	75～84歳	210	30.5	51.9	3.3	14.3
	85歳以上	56	37.5	51.8	1.8	8.9
女性	全体	608	18.4	54.3	10.2	17.1
	65～74歳	312	16.0	53.5	11.9	18.6
	75～84歳	235	20.0	55.7	8.5	15.7
	85歳以上	61	24.6	52.5	8.2	14.8

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「したいが難しいと思う」が最も高く、『1人暮らし』『夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)』『その他』では50%以上となっています。一方、『夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)』では「したい」が32.1%、『息子・娘との2世帯』では「したくない」が10.5%と、他の世帯類型に比べて高くなっています。

	合計	したい	としたいが難しい	したくない	わからない
全体	1196	22.4	52.3	8.4	17.0
1人暮らし	192	20.3	50.0	10.4	19.3
夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	547	23.9	53.7	7.1	15.2
夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	53	32.1	47.2	3.8	17.0
息子・娘との 2世帯	257	21.4	49.4	10.5	18.7
その他	147	17.7	56.5	8.2	17.7

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「したいが難しいと思う」が最も高く、特に『鈴鹿第1』では62.0%と高くなっています。また、「したい」は『鈴鹿第6』では30.9%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、「したくない」は『鈴鹿第7』では14.8%、『鈴鹿第8』では11.0%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

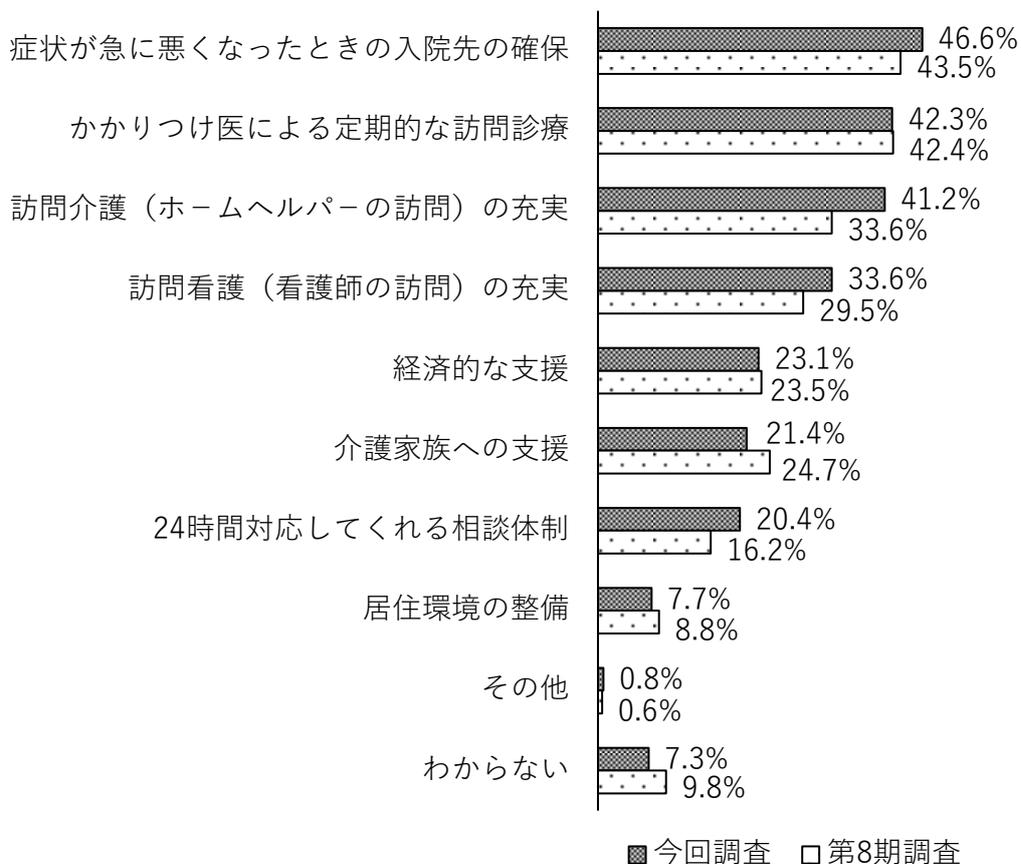
	合計	したい	と し た い が 難 し い	し た く な い	わ か ら な い
全体	1192	22.7	52.3	8.4	16.6
鈴鹿第1	121	17.4	62.0	8.3	12.4
鈴鹿第2	146	24.0	49.3	5.5	21.2
鈴鹿第3	92	18.5	48.9	4.3	28.3
鈴鹿第4	107	23.4	53.3	5.6	17.8
鈴鹿第5	137	26.3	49.6	8.8	15.3
鈴鹿第6	110	30.9	49.1	9.1	10.9
鈴鹿第7	122	23.8	50.8	14.8	10.7
鈴鹿第8	82	20.7	51.2	11.0	17.1
亀山第1	142	22.5	52.8	7.0	17.6
亀山第2	133	18.0	55.6	9.8	16.5

問74 自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(3つまで選択可)【N=1,184、1,215(第8期調査)】

自宅で最期まで療養するために必要だと思うことについては、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が46.6%と最も高く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」(42.3%)、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の充実」(41.2%)と続いています。

第8期調査と比較すると、「訪問介護(ホームヘルパーの訪問)の充実」が7.6ポイント、「24時間対応してくれる相談体制」が4.2ポイント、「訪問看護(看護師の訪問)の充実」が4.1ポイント、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が3.1ポイント上昇しています。一方、「介護家族への支援」は3.3ポイント低下しています。

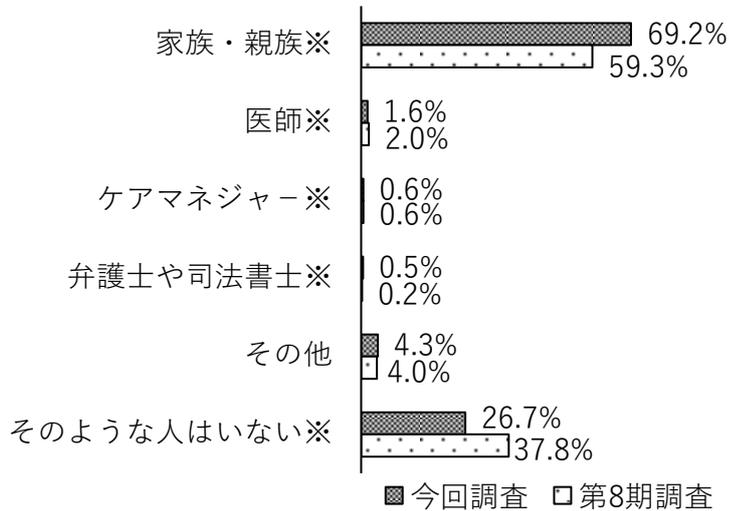


問75 人生の終末期のことに話している人がいますか。(複数選択可)

【N=1,173、1,255(第8期調査)】

人生の終末期のことに話している相手については、「家族・親族」が69.2%と最も高くなっています。一方、「そのような人はいない」は26.7%となっています。

第8期調査と比較すると、「家族・親族(第8期調査では「家族」)」が9.9ポイント上昇し、「そのような人はいない」が11.1ポイント低下しています。



※第8期調査選択肢:「家族と話している」「医師と話している」「弁護士や司法書士と話している」「誰とも話していない」

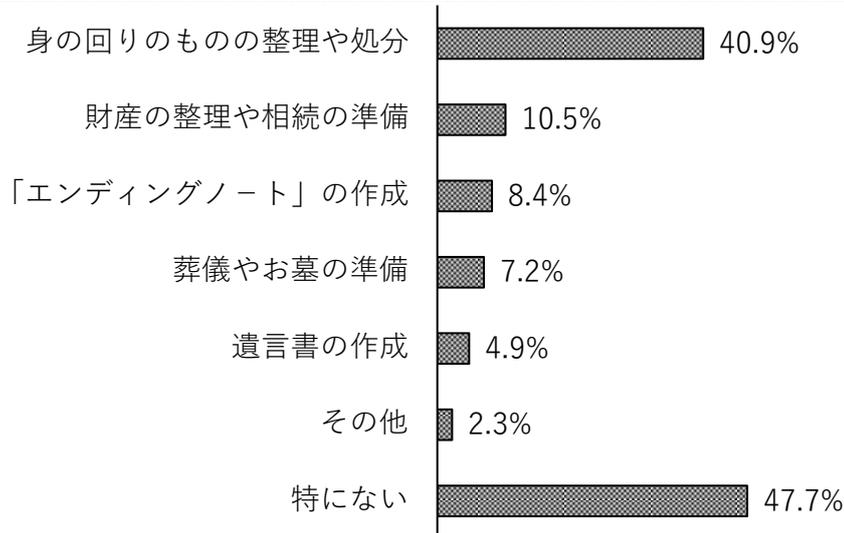
性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、いずれの性・年齢でも「家族・親族」が最も高く、特に『85歳以上男性』では76.9%と高くなっています。一方、「そのような人はいない」は『65～74歳男性』で36.7%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。

		合計	家族・親族	医師	ケアマネジャー	弁護士や司法書士	その他	そのような人はいない
男性	全体	558	65.2	1.6	0.9	0.7	3.8	31.4
	65～74歳	305	60.7	0.7	0.7	0.7	3.0	36.7
	75～84歳	201	69.2	2.5	1.0	1.0	4.5	26.4
	85歳以上	52	76.9	3.8	1.9	-	5.8	19.2
女性	全体	573	74.3	1.6	0.2	0.3	4.7	21.3
	65～74歳	300	72.7	1.0	-	0.7	3.7	23.7
	75～84歳	216	76.4	2.3	0.5	-	6.5	17.6
	85歳以上	57	75.4	1.8	-	-	3.5	22.8

問76 近年、人生を総括し、最期を迎えるに当たって様々な準備を行うことを意味する「終活」が注目されています。あなたは、何か「終活」として取り組んでいることはありますか。(複数選択可)【N=1,192】

「終活」として取り組んでいることについては、「特にない」が47.7%と最も高くなっています。取り組んでいることとしては、「身の回りのものの整理や処分」が40.9%と最も高く、次いで「財産の整理や相続の準備」(10.5%)、「エンディングノート」の作成」(8.4%)と続いています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『65～74歳女性』『75～84歳女性』では「身の回りのものの整理や処分」が、その他の性・年齢では「特にない」が最も高くなっています。一方、「財産の整理や相続の準備」は女性より男性の割合が高く、特に『85歳以上男性』では21.2%と高くなっています。また、85歳以上女性では、「エンディングノート」の作成」が14.3%と高くなっています。

		合計	「エンディングノート」の作成	遺言書の作成	財産の整理や相続の準備	葬儀やお墓の準備	身の回りのものの整理や処分	その他	特にない
男性	全体	561	7.3	5.0	13.0	7.5	31.6	2.5	54.0
	65～74歳	305	5.6	2.6	10.8	4.6	28.9	1.6	59.7
	75～84歳	204	10.8	7.4	14.2	10.3	35.3	2.9	48.0
	85歳以上	52	3.8	9.6	21.2	13.5	32.7	5.8	44.2
女性	全体	589	9.8	4.8	8.7	7.0	49.9	1.9	41.3
	65～74歳	305	8.2	3.6	8.2	5.2	50.5	1.6	42.0
	75～84歳	228	11.0	4.4	9.2	8.8	52.6	2.2	38.6
	85歳以上	56	14.3	12.5	8.9	8.9	35.7	1.8	48.2

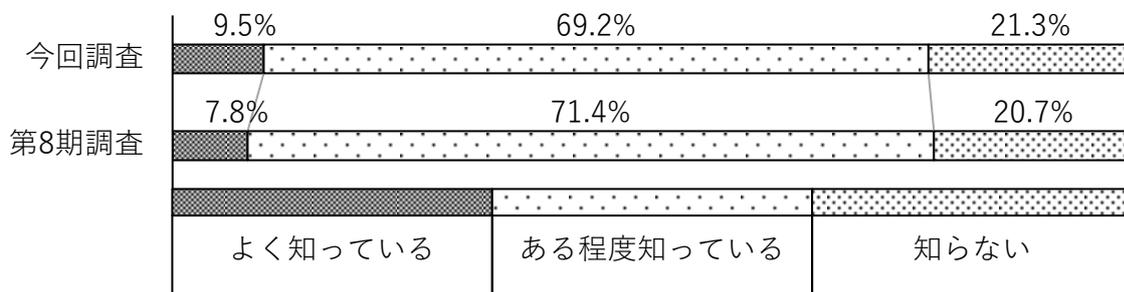
9 認知症について

問77 認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われています。あなたは認知症についてどの程度知っていますか。（1つを選択）

【N=1,211、1,302(第8期調査)】

認知症についての認知状況については、「ある程度知っている」が69.2%を占めており、「よく知っている」(9.5%)を合わせた『知っている』は78.7%となっています。一方、「知らない」は21.3%となっており、認知度は高いと言えます。

第8期調査と比較すると、「よく知っている」が1.7ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『知っている』は男性より女性の割合が高くなっています。特に、『65～74歳女性』では82.3%、『75～84歳女性』では84.4%と高くなっています。一方、「知らない」は『85歳以上女性』では27.1%と高くなっています。

		合計	よく知っている	ある程度知っている	知らない
男性	全体	566	9.5	65.5	24.9
	65～74歳	308	8.8	65.9	25.3
	75～84歳	206	10.7	65.0	24.3
	85歳以上	52	9.6	65.4	25.0
女性	全体	601	9.0	73.2	17.8
	65～74歳	312	9.9	72.4	17.6
	75～84歳	230	8.7	75.7	15.7
	85歳以上	59	5.1	67.8	27.1

日常生活圏域別クロス

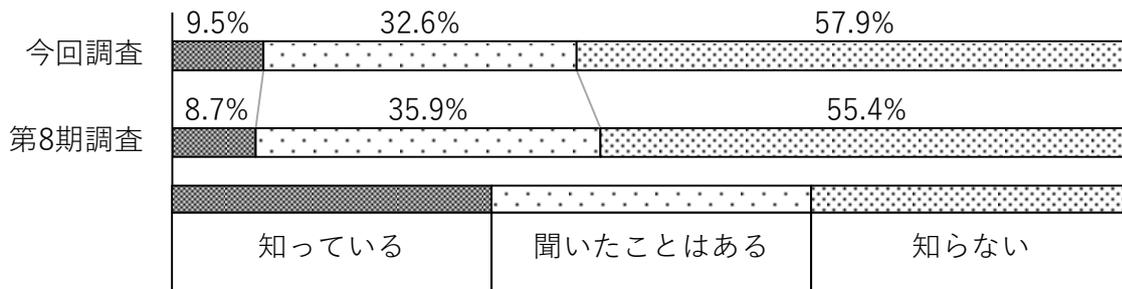
日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第1』『鈴鹿第3』『鈴鹿第4』『鈴鹿第5』では『知っている』が80%以上と高くなっています。一方、『鈴鹿第8』では「知らない」が26.4%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	よく知っている	いる程度知っている	知らない
全体	1172	9.6	69.2	21.2
鈴鹿第1	117	12.8	68.4	18.8
鈴鹿第2	142	7.7	69.0	23.2
鈴鹿第3	89	13.5	70.8	15.7
鈴鹿第4	103	6.8	75.7	17.5
鈴鹿第5	137	7.3	73.0	19.7
鈴鹿第6	106	4.7	73.6	21.7
鈴鹿第7	122	13.9	64.8	21.3
鈴鹿第8	87	8.0	65.5	26.4
亀山第1	138	12.3	63.8	23.9
亀山第2	131	8.4	68.7	22.9

問78 「認知症サポーター」（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存知ですか。（1つを選択）【N=1,215、1,306(第8期調査)】

「認知症サポーター」の認知状況については、「知らない」が57.9%と過半数を占めており、「聞いたことはある」は32.6%、「知っている」は9.5%となっています。

第8期調査と比較すると、「聞いたことはある」が3.3ポイント低下する一方、「知らない」は2.5ポイント上昇しています。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「知っている」は女性の割合が高くなっています。特に、『65～74歳女性』では13.1%と高くなっています。また、「聞いたことはある」は『75～84歳女性』では43.2%と、他の性・年齢に比べて高くなっています。一方、「知らない」は『65～74歳男性』では70.8%と高くなっています。

		合計	知っている	聞いたことはある	知らない
男性	全体	564	6.9	26.6	66.5
	65～74歳	308	6.2	23.1	70.8
	75～84歳	204	7.4	29.4	63.2
	85歳以上	52	9.6	36.5	53.8
女性	全体	608	12.2	37.8	50.0
	65～74歳	313	13.1	35.8	51.1
	75～84歳	234	11.5	43.2	45.3
	85歳以上	61	9.8	27.9	62.3

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『亀山第1』では「知っている」が15.8%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。また、『鈴鹿第6』では「聞いたことはある」が42.9%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、『鈴鹿第2』『鈴鹿第5』『亀山第2』では「知らない」が60%以上となっています。

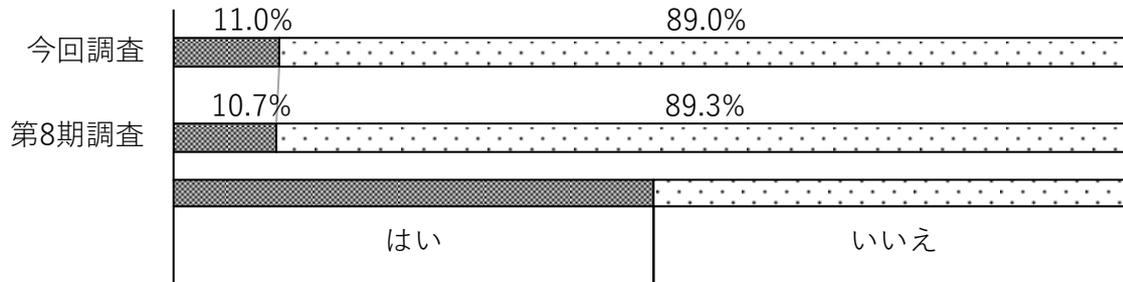
	合計	知っている	は聞いたこと	知らない
全体	1177	9.6	32.5	57.9
鈴鹿第1	116	9.5	34.5	56.0
鈴鹿第2	144	5.6	32.6	61.8
鈴鹿第3	93	9.7	31.2	59.1
鈴鹿第4	104	11.5	31.7	56.7
鈴鹿第5	135	4.4	35.6	60.0
鈴鹿第6	105	4.8	42.9	52.4
鈴鹿第7	122	10.7	32.0	57.4
鈴鹿第8	87	9.2	37.9	52.9
亀山第1	139	15.8	28.1	56.1
亀山第2	132	14.4	22.7	62.9

問79 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つを選択)

【N=1,210、1,304(第8期調査)】

認知症の症状がある人の有無については、「いいえ」が89.0%、「はい」が11.0%となっています。

第8期調査と比較すると、ほとんど変化はみられません。



日常生活圏域別クロス

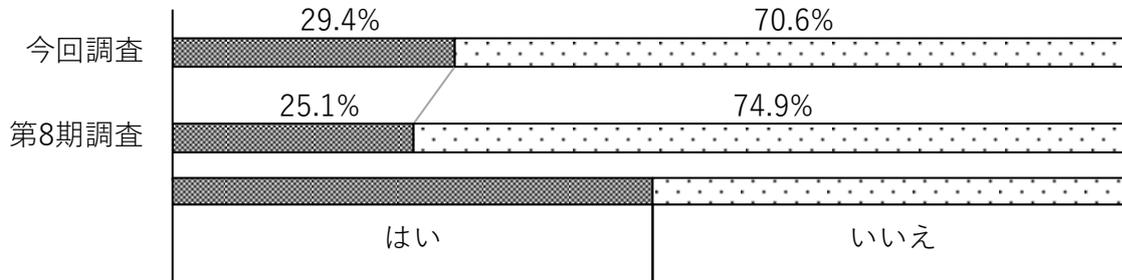
日常生活圏域別にみると、『亀山第1』では「はい」が14.0%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	はい	いいえ
全体	1171	10.8	89.2
鈴鹿第1	115	11.3	88.7
鈴鹿第2	143	11.2	88.8
鈴鹿第3	93	9.7	90.3
鈴鹿第4	102	13.7	86.3
鈴鹿第5	136	9.6	90.4
鈴鹿第6	106	5.7	94.3
鈴鹿第7	121	12.4	87.6
鈴鹿第8	87	10.3	89.7
亀山第1	136	14.0	86.0
亀山第2	132	9.8	90.2

問80 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つを選択)【N=1,186、1,276(第8期調査)】

認知症に関する相談窓口の認知状況については、「はい」が29.4%、「いいえ」が70.6%となっています。

第8期調査と比較すると、「はい」が4.3ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第1』『鈴鹿第3』『鈴鹿第4』『亀山第2』では「はい」が30%以上となっており、特に『鈴鹿第4』では35.3%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

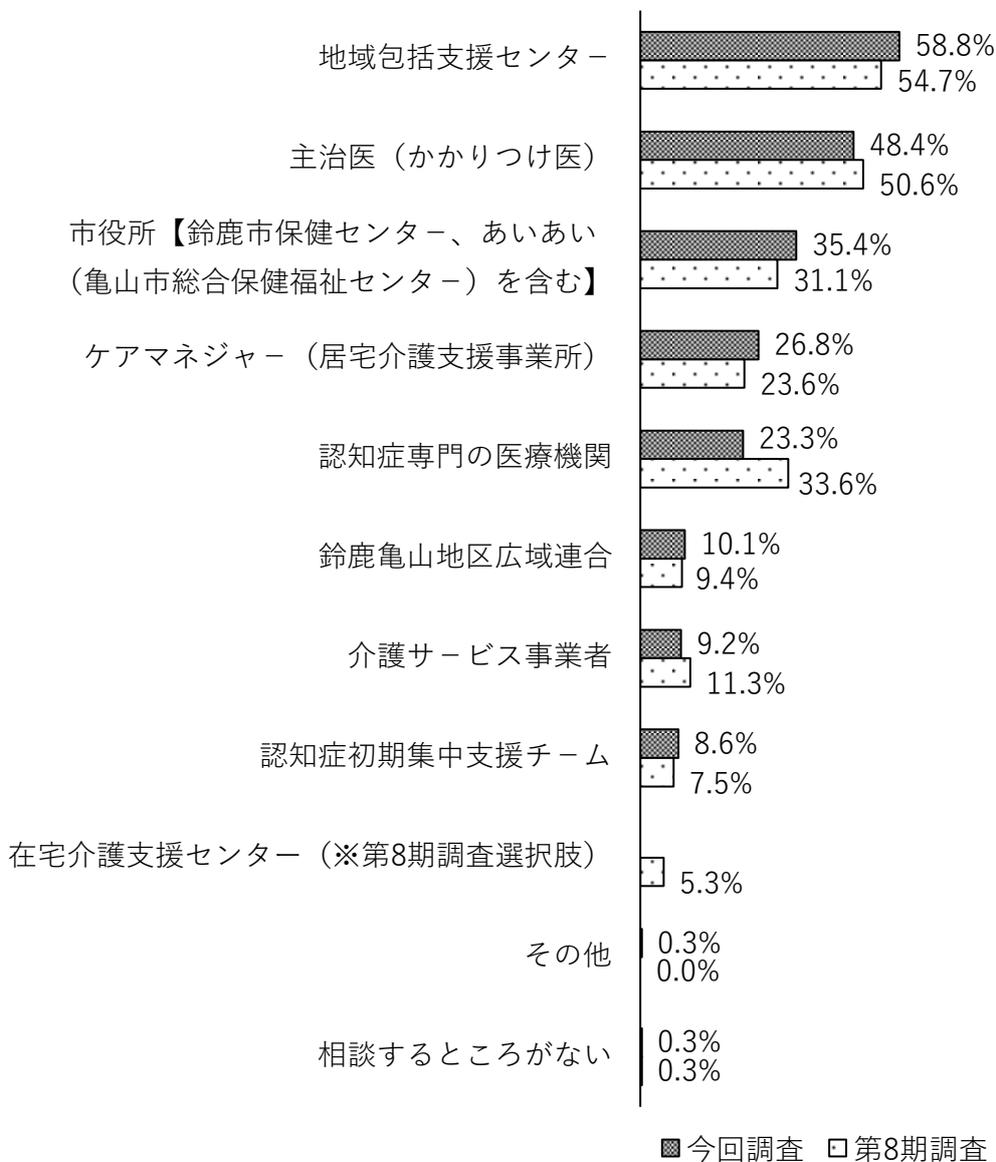
	合計	はい	いいえ
全体	1148	29.3	70.7
鈴鹿第1	114	35.1	64.9
鈴鹿第2	143	25.9	74.1
鈴鹿第3	89	30.3	69.7
鈴鹿第4	102	35.3	64.7
鈴鹿第5	127	26.0	74.0
鈴鹿第6	106	26.4	73.6
鈴鹿第7	119	27.7	72.3
鈴鹿第8	86	26.7	73.3
亀山第1	135	26.7	73.3
亀山第2	127	33.9	66.1

問80で「はい」と回答した方にお伺いします。

問80-② 認知症について相談する場合、どの相談窓口にご相談しますか。(複数選択可)
【N=347、318(第8期調査)】

認知症について相談する場合の相談窓口については、「地域包括支援センター」が58.8%と最も高く、次いで「主治医(かかりつけ医)」(48.4%)、「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあいを含む】」(35.4%)と続いています。一方、「相談するところがない」は僅か0.3%となっています。

第8期調査と比較すると、「認知症専門の医療機関」が10.3ポイント低下する一方、「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあいを含む】」が4.3ポイント、「地域包括支援センター」が4.1ポイント、「ケアマネジャー(居宅介護支援事業所)」が3.2ポイント、それぞれ上昇しています。

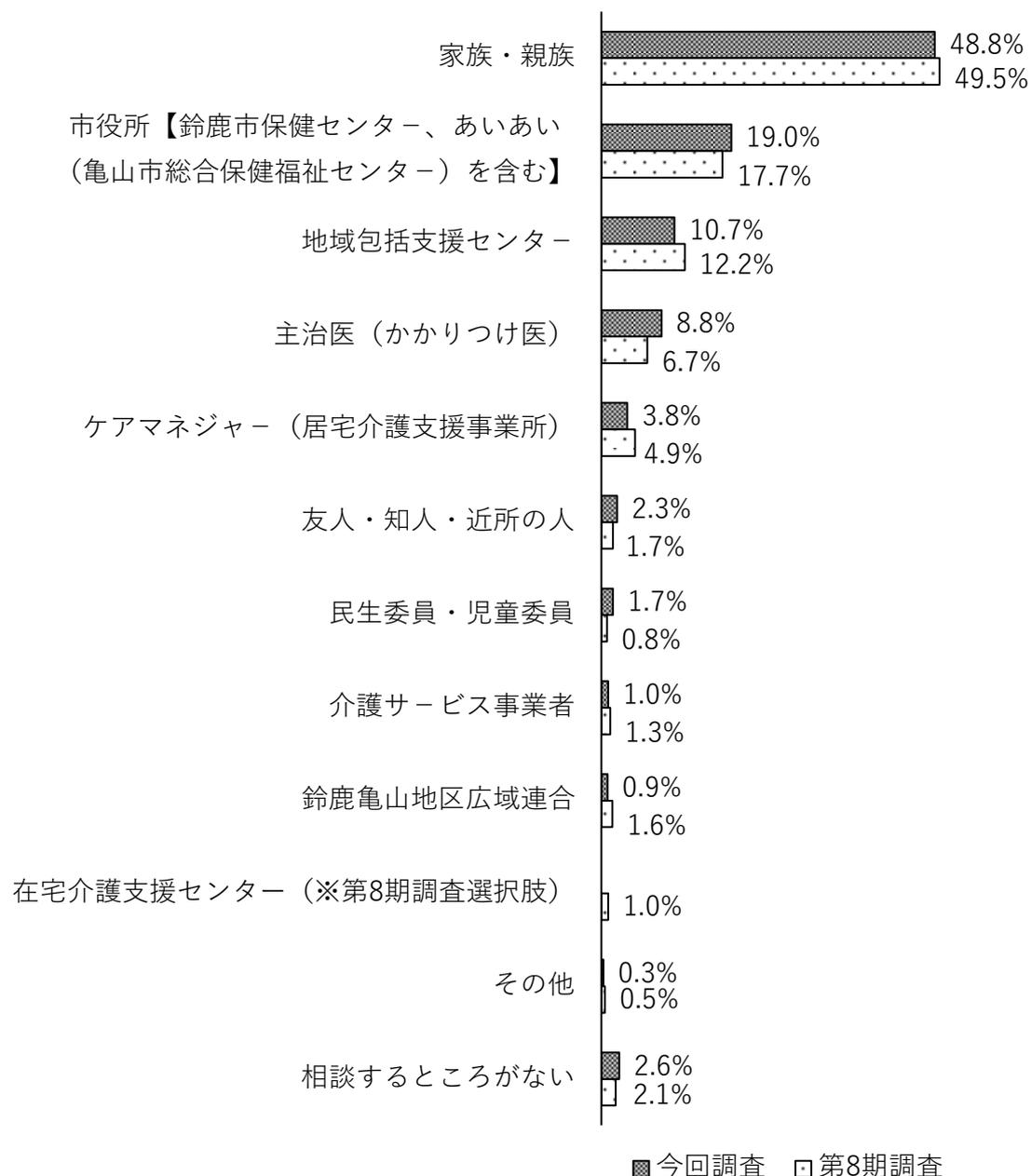


10 介護や保健福祉に関する相談について

問81 介護や保健福祉サービスについて相談したいとき、まずどこに相談しますか。(1つを選択)
【N=1,077、1,215(第8期調査)】

介護や保健福祉サービスの相談先については、「家族・親族」が48.8%と最も高く、次いで「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあいを含む】」(19.0%)、「地域包括支援センター」(10.7%)と続いています。一方、「相談するところがない」は2.6%となっています。

第8期調査と比較すると、「主治医」が2.1ポイント上昇しています。また、「相談するところがない」が0.5ポイント上昇しています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、いずれの日常生活圏域でも「家族・親族」が最も高くなっています。また、『亀山第1』では「市役所」が32.3%と、他の日常生活圏域に比べて特に高くなっています。

	合計	家族・親族	友人・知人・近所の人	地域包括支援センター	ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	介護サービス事業者	市役所（「鈴鹿市保健センター、あいあいを含む」）	鈴鹿亀山地区広域連合	主治医（かかりつけ医）	民生委員・児童委員
全体	1043	48.7	2.3	10.5	3.9	1.1	19.1	0.9	8.9	1.7
鈴鹿第1	103	58.3	1.0	12.6	4.9	1.0	5.8	1.9	11.7	1.0
鈴鹿第2	130	50.0	1.5	10.0	3.1	1.5	17.7	-	10.8	-
鈴鹿第3	77	41.6	5.2	13.0	2.6	1.3	18.2	-	13.0	2.6
鈴鹿第4	92	58.7	2.2	8.7	3.3	-	13.0	-	10.9	1.1
鈴鹿第5	120	45.8	1.7	13.3	8.3	-	15.8	2.5	8.3	1.7
鈴鹿第6	99	46.5	2.0	10.1	1.0	3.0	20.2	1.0	10.1	2.0
鈴鹿第7	103	53.4	2.9	8.7	3.9	1.9	16.5	-	9.7	-
鈴鹿第8	72	51.4	4.2	15.3	4.2	-	15.3	2.8	2.8	2.8
亀山第1	127	40.9	2.4	10.2	4.7	-	32.3	0.8	3.1	2.4
亀山第2	120	43.3	1.7	5.8	2.5	1.7	30.0	-	9.2	4.2

	その他	相談するところがない
全体	0.3	2.6
鈴鹿第1	-	1.9
鈴鹿第2	-	5.4
鈴鹿第3	1.3	1.3
鈴鹿第4	-	2.2
鈴鹿第5	-	2.5
鈴鹿第6	-	4.0
鈴鹿第7	-	2.9
鈴鹿第8	-	1.4
亀山第1	0.8	2.4
亀山第2	0.8	0.8

問82 鈴鹿亀山地区には、介護サービスなどに関する身近な相談の場として、鈴鹿市内に8か所、亀山市内に2か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。(1つを選択)【N=1,187、1,275(第8期調査)】

地域包括支援センターの認知状況については、「地域包括支援センターのことは知らない」が39.7%と最も高く、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は30.8%、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのかわからない」は29.5%となっています。

第8期調査と比較すると、「地域包括支援センターのことは知らない」が2.3ポイント上昇しています。

	30.8%	29.5%	39.7%
今回調査			
第8期調査	31.7%	30.9%	37.4%
	自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのかわからない	地域包括支援センターのことは知らない

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、『85歳以上男性』『65～74歳女性』『85歳以上女性』では「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が、『75～84歳女性』では「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」が最も高くなっています。一方、『65～74歳男性』『75～84歳男性』では「地域包括支援センターのことは知らない」が最も高くなっています。

		合計	自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない	地域包括支援センターのことは知らない
男性	全体	557	24.8	23.9	51.3
	65～74歳	306	20.9	23.2	55.9
	75～84歳	201	26.4	25.4	48.3
	85歳以上	50	42.0	22.0	36.0
女性	全体	588	36.1	35.0	28.9
	65～74歳	305	37.7	32.5	29.8
	75～84歳	227	33.5	39.2	27.3
	85歳以上	56	37.5	32.1	30.4

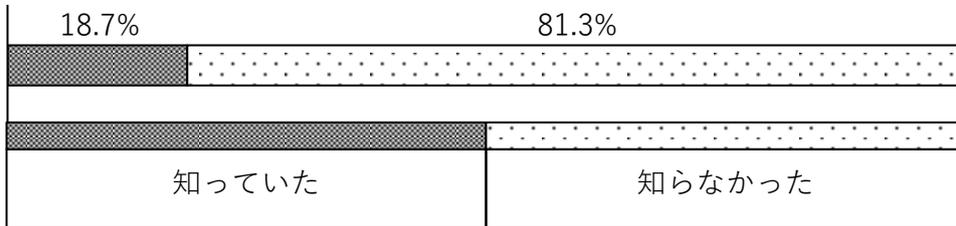
日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、『鈴鹿第8』では「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこにあるのか知らない」が最も高くなっていますが、その他の日常生活圏域ではいずれも「地域包括支援センターのことは知らない」が最も高くなっています。一方、『鈴鹿第1』では「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が36.5%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	自分の居住する地区を担当するセンターを知っているが、どこにあるのか知らない	地域包括支援センターのことは知らない
全体	1149	30.9	29.2	39.9
鈴鹿第1	115	36.5	24.3	39.1
鈴鹿第2	138	23.9	31.2	44.9
鈴鹿第3	89	29.2	29.2	41.6
鈴鹿第4	101	33.7	23.8	42.6
鈴鹿第5	135	33.3	29.6	37.0
鈴鹿第6	107	31.8	29.9	38.3
鈴鹿第7	117	28.2	29.9	41.9
鈴鹿第8	83	32.5	34.9	32.5
亀山第1	136	33.8	27.9	38.2
亀山第2	128	27.3	31.3	41.4

問83 地域包括支援センターは、令和3年4月から箇所数が増え、担当区域が狭くなり、きめ細やかな対応が可能になりました。このことをご存知でしたか。(1つを選択)【N=1,246】

地域包括支援センターの箇所数が増え、担当区域が狭くなり、きめ細やかな対応が可能になったことを「知っていた」は18.7%となっており、「知らなかった」が81.3%を占めています。



日常生活圏域別クロス

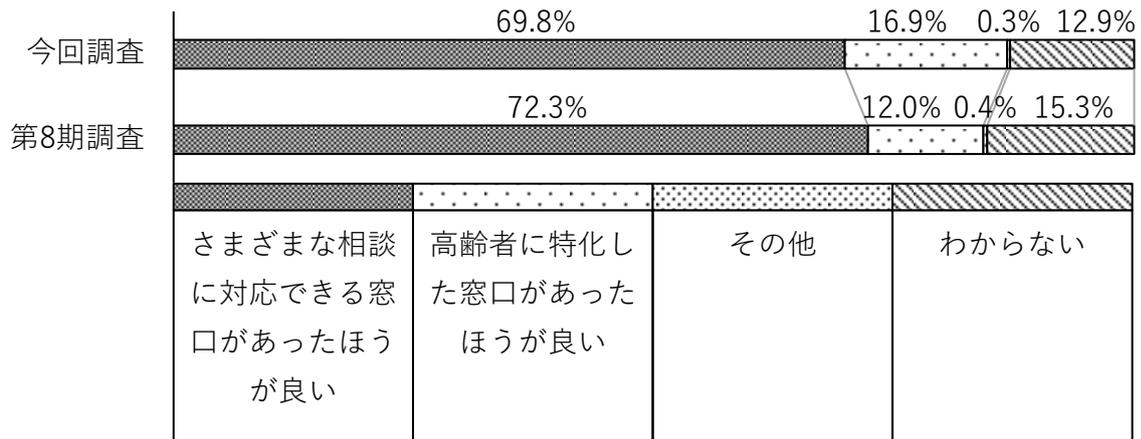
日常生活圏域別にみると、「知っていた」は『鈴鹿第4』『鈴鹿第6』『鈴鹿第8』『亀山第1』では20%以上となっています。一方、「知らなかった」は『鈴鹿第2』では87.2%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	知っていた	知らなかった
全体	1207	18.7	81.3
鈴鹿第1	119	18.5	81.5
鈴鹿第2	149	12.8	87.2
鈴鹿第3	96	14.6	85.4
鈴鹿第4	107	23.4	76.6
鈴鹿第5	137	19.0	81.0
鈴鹿第6	110	20.9	79.1
鈴鹿第7	123	15.4	84.6
鈴鹿第8	85	23.5	76.5
亀山第1	147	22.4	77.6
亀山第2	134	18.7	81.3

問84 高齢者だけでなく、障がい、子育て、生活困窮などさまざまな相談に対応する窓口についてどのように思いますか。(1つを選択)【N=1,246、1,282(第8期調査)】

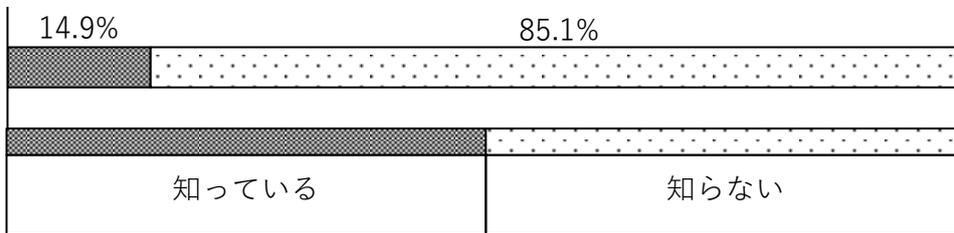
さまざまな相談に対応する窓口については、「さまざまな相談に対応できる窓口があったほうが良い」が69.8%を占めています。「高齢者に特化した窓口があったほうが良い」は16.9%、「わからない」は12.9%となっています。

第8期調査と比較すると、「さまざまな相談に対応できる窓口があったほうが良い」が2.5ポイント低下する一方、「高齢者に特化した窓口があったほうが良い」は4.9ポイント上昇しています。



問85 「8050問題」や「ヤングケアラー」などが社会問題となっています。あなたは、こうした複合化した課題を持つ家庭等を身近にご存知ですか。(1つを選択)【N=1,239】

複合化した課題を持つ家庭等を身近に知っているかどうかについては、「知っている」が14.9%、「知らない」が85.1%となっています。



日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「知っている」は『鈴鹿第1』では18.9%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。一方、『鈴鹿第4』では「知らない」が90.4%と、他の日常生活圏域に比べて高くなっています。

	合計	知っている	知らない
全体	1199	15.0	85.0
鈴鹿第1	122	18.9	81.1
鈴鹿第2	145	11.7	88.3
鈴鹿第3	92	15.2	84.8
鈴鹿第4	104	9.6	90.4
鈴鹿第5	138	15.9	84.1
鈴鹿第6	111	17.1	82.9
鈴鹿第7	120	15.0	85.0
鈴鹿第8	86	17.4	82.6
亀山第1	146	15.1	84.9
亀山第2	135	14.8	85.2

問85で「知っている」と回答した方にお伺いします。

問85-② そのような家庭等はどのような支援を求めていると思いますか。(複数選択可)
【N=179】

そのような家庭等がどのような支援を求めていると思うかについては、「経済的な支援」が66.5%と最も高く、次いで「日常生活の支援」(59.8%)、「専門職との継続的な関わり」(26.8%)、「就労先の確保」(25.7%)と続いています。

